

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT



取扱説明書  
FX-5104N1

06 版

FUJITSU

## 改版履歴

版数	発行年月日	内容
01	2009/02/20	初版作成
02	2009/03/24	機能追加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計測値のダウンロード</li> <li>・ システム起動時のコンセント ON</li> <li>・ setpon コマンド</li> </ul> 機能変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ON/OFF 遅延間隔を 0.1 秒間隔 に変更</li> </ul>
03	2009/05/15	機能変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計測値のダウンロード “最新 1 時間” データ内容変更</li> <li>・ 監視機能 全面変更</li> <li>・ メール送信内容 A～D の 4 種類に変更</li> </ul> その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラブルシューティング 内容追加</li> </ul>
04	2009/10/27	機能追加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNMPv3</li> <li>・ SNMPトラップ</li> <li>・ メール送信先文字コード設定</li> <li>・ Web 操作画面 上部カラー設定</li> <li>・ 計測データの保存</li> <li>・ savedata コマンド</li> <li>・ cleardata コマンド</li> <li>・ 計測データの復元と補完</li> </ul> 機能変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡易情報の表示 ページの表示内容の変更</li> <li>・ 計測値のダウンロード ページのダウンロード内容の変更</li> <li>・ setpower コマンド power コマンドから名称変更</li> <li>・ showpower コマンド 表示内容の変更</li> </ul>
05	2010/01/19	装置前面、背面図、警告ラベルの差し替え
06	2010/04/01	機能追加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ログ機能の編集</li> <li>・ setlog コマンド</li> </ul> 機能変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ログ書式</li> </ul>

Microsoft および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernet は米国 XEROX 社の登録商標です。

Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

SERVIS は富士通コンポーネント株式会社の登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中では ® および ™ マークは省略しています。

本製品および本書は、富士通コンポーネント株式会社の著作物です。

本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

## はじめに

このたびは、SERVIS IP Remote Power Controller 4 PORT(以降、本製品と略します)をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品をご利用いただくことで、ネットワークを経由した遠隔地から本製品がもつ 4 個のコンセント出力を個別に ON/OFF 制御することができます。

本機能を使用すると、本製品から電源供給されている装置において、ハングアップなどの異常が発生した場合に遠隔地から、電源の OFF/ON による復旧作業が可能となります。また、日付/曜日/時間などを指定しておくことにより、そのスケジュールに合わせて各コンセントの出力を自動的に ON/OFF させることもできます。

本製品をご使用の前に添付 CD-ROM 内の「安全に関するご注意」をご参照ください。「安全に関するご注意」には、お使いになる人や周囲の方の身体および財産への損害を未然に防止するための内容を記載しています。

## 本書について

本書は、本製品における基本的な取り扱いについて説明しております。ご使用にあたっては、本書の内容をご理解の上ご使用願います。

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に本書をよくお読みになり、本製品を正しくお使いください。

また、本書は本製品の使用中にいつでも参照できるよう、大切に保管してください。

弊社は、使用者および周囲の方々の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために、細心の注意を払っております。本製品をご使用になる際は、本書の説明に従ってください。

本製品および本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。本製品および本書の内容について、不明な点やお気づきの点がございましたら、弊社保守サービス係までご連絡願います。

CAUTION : HAZARDOUS VOLTAGE.  
SERVICE ENGINEER ONLY TO OPEN COVER.

## 本製品の取り扱いについて

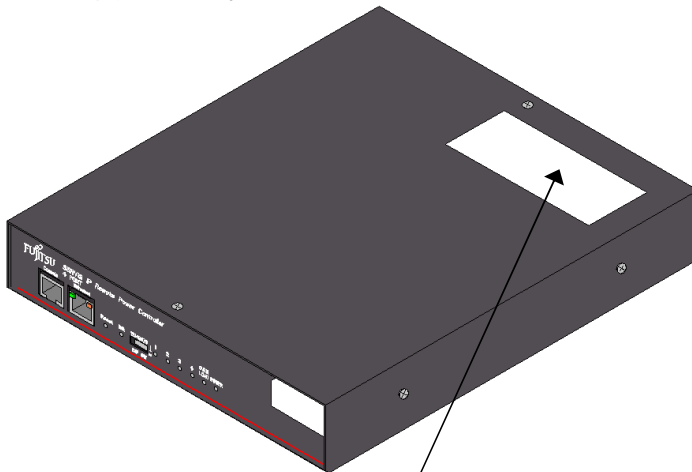
本製品として提供される取扱説明書(本書)、装置本体は、お客様の責任でご使用ください。

本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、富士通コンポーネント株式会社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はどのような場合でも、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。



## 警告ラベルについて

本製品には、下図のように警告ラベルが貼付してあります。

警告ラベルは、絶対にはがさないでください。汚れあるいは摩耗などにより、メッセージが見にくくなった場合は、販売窓口までご連絡ください。もしくは、本ページを印刷し、ラベル印字部を切り取ってご利用ください。



警告ラベル印字部

 <b>注意</b> 突入電流	接続機器の突入電流が大きいと、出力コンセントがON/OFF動作しなくなるおそれがあります。接続構成には十分ご注意ください。
 <b>警告</b> 感電	内部には高電圧部分があり、感電するおそれがあります。保守担当者以外の方は、カバーを開けないでください。

## メンテナンスに関するご注意

本製品は弊社保守部門以外での分解、改造または修理をしないでください。本製品の内部には、高電圧の部分があり危険です。故障の修理については、弊社保守部門に依頼してください。

## 輸出管理規制について

本製品が「外国為替および外国貿易管理法」に基づき規制されている貨物または技術に該当する場合は、当該製品を輸出するに際して司法に基づく許可が必要になります。したがって、国外に持ち出す場合には必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

## ハイセイフティ用途について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、(1)原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途ならびに(2)海底中継器、宇宙衛星など、極めて高度な信頼性が要求される用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は当該ハイセイフティ用途に要する安全性ならびに信頼性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様又は第三者からの如何なる請求又は損害賠償に対しても、富士通コンポーネント株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

## スーパーグリーン製品について

富士通グループの厳しい環境評価基準をクリアし、地球に優しく、環境への負担の少ない「スーパーグリーン製品」です。

主な特長

小型・省資源化  
低消費電力  
鉛フリー  
接続機器の節電を推進



富士通グループの環境への取り組みについては、富士通ホームページ「環境活動」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/>)をご覧ください。

## 本製品の廃棄時の取り扱いについて

本製品は金属、電池、プラスチック部品を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示に従ってください。

## 本書の表記について

本書の表記ルールについて以下に示します。

書体または記号	意味
AaBbCc123	画面上の本製品あるいは接続機器からの出力を表します。
<b>AaBbCc123</b>	コマンドや設定ファイルにおいてユーザーが入力する文字を表します。
<b>Enter</b> ↵	ユーザーによる Enter キー入力を表します。
 参照	参照する Chapter, 項目, ページ数を表します。
 <b>重要</b>	本製品をご使用になる上で、気を付けていただきたい点を示しています。



# 目次

<b>CHAPTER 1 - ご利用になる前に</b> .....	<b>1</b>
1.1. 製品概要.....	2
1.2. 本体各部の名称と機能.....	3
1.2.1 装置前面.....	3
1.2.2 装置背面.....	6
1.3. 設置方法.....	7
1.3.1 電源ケーブル固定.....	7
1.3.2 平置き.....	7
1.3.3 ラックマウント.....	8
<b>CHAPTER 2 - スタートアップ</b> .....	<b>9</b>
2.1. ご使用上の注意.....	10
2.2. 接続構成.....	11
2.3. 接続方法.....	12
2.3.1 添付品以外に必要なもの.....	12
2.3.2 コンソール端末の接続.....	13
<b>CHAPTER 3 - 基本操作</b> .....	<b>15</b>
3.1. 基本操作の概要.....	16
3.2. ディップスイッチ設定.....	17
3.3. ネットワーク設定.....	18
3.4. リモート端末からのログイン.....	20
3.5. 手動による対象機器の電源制御.....	24
3.5.1 電源の投入.....	24
3.5.2 電源の切断.....	27
3.6. スケジュール管理による電源制御.....	30
3.6.1 スケジュールの登録.....	30
3.7. 設定の保存、操作の終了.....	33
3.7.1 設定の保存.....	33
3.7.2 ログアウト.....	34
<b>CHAPTER 4 - WEB インターフェース</b> .....	<b>35</b>
4.1. Web インターフェースの概要.....	36
4.2. 情報表示項目.....	36
4.2.1 簡易情報の表示.....	37
4.2.2 監視機能の表示.....	39
4.2.3 基本設定の表示.....	42
4.2.4 ログの表示.....	43
4.2.5 計測値のダウンロード.....	45
4.3. コンセント制御項目.....	50
4.3.1 各コンセントの操作.....	50
4.4. 情報編集項目.....	51
4.4.1 基本設定の編集.....	52
4.4.2 監視機能の編集.....	53
4.4.3 スケジュールの編集.....	57
4.4.4 ネットワーク設定の編集.....	61
4.4.5 SNMP 設定の編集.....	62

4.4.6	SNMPトラップの編集	64
4.4.7	メール設定の編集	66
4.4.8	ユーザーの管理	73
4.4.9	セッションの管理	79
4.4.10	ログ機能の編集	81
4.4.11	日付と時刻の編集	82
4.4.12	高度な設定	86
4.5.	設定の管理	92
4.6.	ファームウェアの管理	97
4.7.	設定の保存	101
4.8.	計測データの保存	102
4.9.	再起動	103
4.10.	Copyright の表示	105
4.11.	初期設定値	106
<b>CHAPTER 5 - コマンド仕様</b>		<b>111</b>
5.1.	コマンド概要	112
5.2.	コマンドの書式	112
5.3.	コマンド実行時のエラー表示	113
5.4.	コマンド一覧	114
5.4.1	setip コマンド	115
5.4.2	setdns コマンド	116
5.4.3	setpon コマンド	117
5.4.4	setcp コマンド	118
5.4.5	setschedule コマンド	119
5.4.6	setinterval コマンド	120
5.4.7	setname コマンド	121
5.4.8	setuser コマンド	122
5.4.9	setdate コマンド	124
5.4.10	settimezone コマンド	125
5.4.11	setntp コマンド	126
5.4.12	setlog コマンド	127
5.4.13	setpower コマンド	128
5.4.14	showip コマンド	129
5.4.15	showschedule コマンド	130
5.4.16	showuser コマンド	132
5.4.17	showpower コマンド	133
5.4.18	showversion コマンド	136
5.4.19	showhelp コマンド	137
5.4.20	ping コマンド	138
5.4.21	saveconf コマンド	139
5.4.22	savedata コマンド	140
5.4.23	cleardata コマンド	141
5.4.24	defaultconf コマンド	142
5.4.25	reboot コマンド	143
5.4.26	exit コマンド	144
<b>CHAPTER 6 - 自己診断モード</b>		<b>145</b>
6.1.	自己診断モードの概要	146
6.2.	自己診断モードでの起動	147
6.3.	FlashROM テスト	148

6.4.	SDRAM テスト.....	150
6.5.	RTC テスト.....	151
6.6.	リレーテスト.....	152
6.7.	DIPSW テスト.....	153
6.8.	Init ボタンテスト.....	155
6.9.	LED テスト.....	156
6.10.	Ether テスト.....	157
<b>CHAPTER 7 - その他機能.....</b>		<b>159</b>
7.1.	サーキットプロテクタ機能.....	160
7.2.	リカバリーモード.....	161
7.2.1	カーネルのリカバリー.....	162
7.2.2	ファイルシステムのリカバリー.....	163
7.2.3	カーネルとファイルシステムのリカバリー.....	164
7.2.4	設定値の初期化.....	165
7.3.	初期設定モードでの起動.....	166
7.4.	計測データの復元と補完.....	167
7.4.1	計測データの復元.....	167
7.4.2	計測データの補完.....	167
<b>CHAPTER 8 - ログ.....</b>		<b>169</b>
8.1.	ロガー一覧.....	170
8.1.1	本装置の起動時.....	172
8.1.2	ネットワーク設定の検出時.....	172
8.1.3	DHCP サーバからの IP アドレス取得エラー発生時.....	173
8.1.4	ネットワークリンクの検出時.....	173
8.1.5	ネットワークリンクの喪失時.....	174
8.1.6	パケット異常時.....	174
8.1.7	telnet/ssh セッション開始時.....	175
8.1.8	telnet/ssh セッション切断時.....	175
8.1.9	ログインの成功時.....	176
8.1.10	ログインの失敗時.....	177
8.1.11	ログアウトの成功時.....	177
8.1.12	コンソール接続のタイムアウト時.....	178
8.1.13	telnet/ssh 接続のセッションタイムアウト時.....	178
8.1.14	Web I/F のセッションタイムアウト時.....	179
8.1.15	ユーザーセッションの強制切断時.....	179
8.1.16	手動による ON/OFF 操作時.....	180
8.1.17	サーキットプロテクタの動作時.....	180
8.1.18	スケジュール設定の実行時.....	181
8.1.19	スケジュール設定の有効/無効の変更時.....	182
8.1.20	内部時刻の変更時.....	182
8.1.21	電力値表示のクリア時.....	183
8.1.22	計測の一定時間経過時.....	183
8.1.23	監視設定の有効/無効の変更時.....	184
8.1.24	監視条件の動作実行時.....	185
8.1.25	SMTP サーバとの通信エラー発生時.....	186
8.1.26	NTP サーバとの通信エラー発生時.....	186
8.1.27	設定の内部保存実行時.....	187
8.1.28	ログのクリア実行時.....	187

<b>CHAPTER 9 - 諸元</b> .....	<b>189</b>
9.1. 本製品の仕様 .....	190
9.2. コネクタの信号アサイン .....	191
9.2.1 Console コネクタ .....	191
9.2.2 Ethernet コネクタ .....	191
9.3. 環境条件 .....	191
<b>CHAPTER 10 - 困ったときは</b> .....	<b>193</b>
10.1. トラブルシューティング .....	194
10.1.1 LED の確認 .....	194
10.1.2 本製品の電源が入らない .....	194
10.1.3 通常起動しない .....	194
10.1.4 コンソール接続ができない .....	195
10.1.5 Web ページにアクセスできない .....	195
10.1.6 出力コンセントが ON にならない .....	196
10.1.7 スケジュール機能が動作しない .....	197
10.1.8 監視機能が動作しない .....	199
10.1.9 ping 送信の応答がない .....	201
10.1.10 メール送信ができない .....	202
10.1.11 再起動すると設定が元に戻る .....	203
10.2. 製品サポートについて .....	204

## Chapter 1 - ご利用になる前に

本製品のセットアップを行う上で必要な情報を説明しています。作業を始める前に必ずお読みください。

### 本章の内容

---

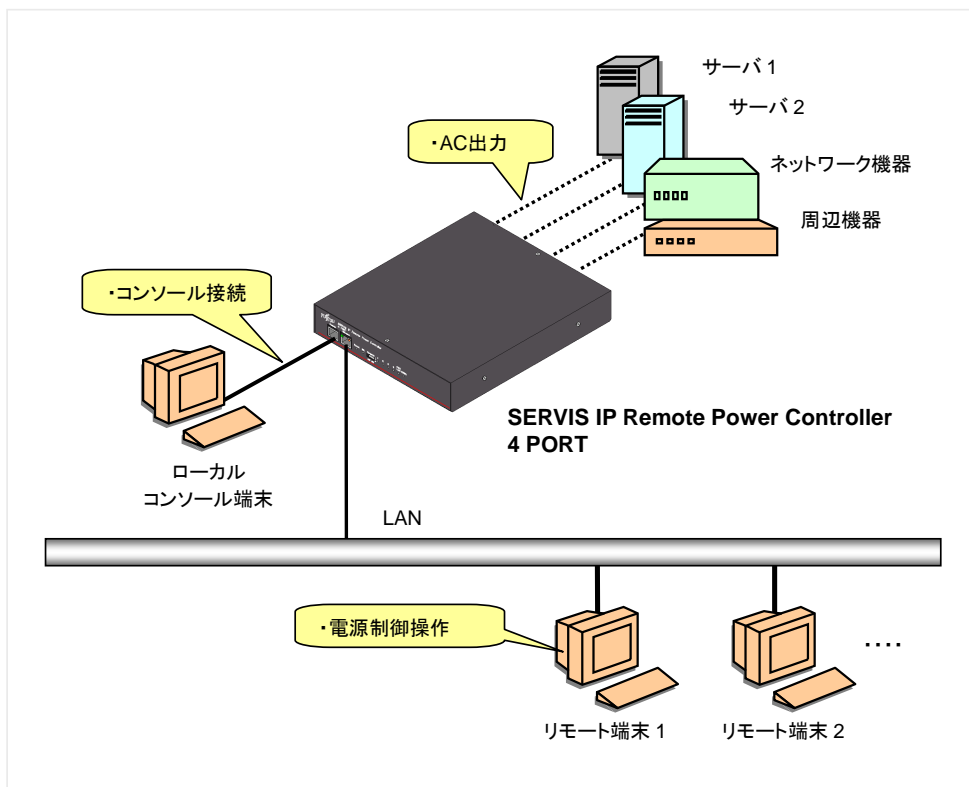
1.1 製品概要	2 ページ
1.2 本体各部の名称と機能	3 ページ
1.2.1 装置前面	3 ページ
1.2.2 装置背面	6 ページ
1.3 設置方法	7 ページ
1.3.1 電源ケーブル固定	7 ページ
1.3.2 平置き	7 ページ
1.3.3 ラックマウント	8 ページ

### 1.1. 製品概要

本製品は、ネットワークを経由した遠隔地から本製品がもつ 4 個のコンセント出力を個別に ON/OFF 制御するための装置です。本機能を使用し、コンセント出力の OFF → ON の操作を行うことにより、本装置から電源供給されている機器を遠隔地からリポートさせることができます。

本製品は、スケジュール機能を搭載しており、日付/曜日/時間などを指定することで各コンセントの出力を自動的に ON/OFF させることができます。

また、各コンセントに接続している対象機器の消費電力量を計測・監視する機能を持ち、ある電力値を閾値として条件設定しておくことにより、その条件に一致した場合にコンセントの出力を停止したり、メール通知を行ったりすることができます。

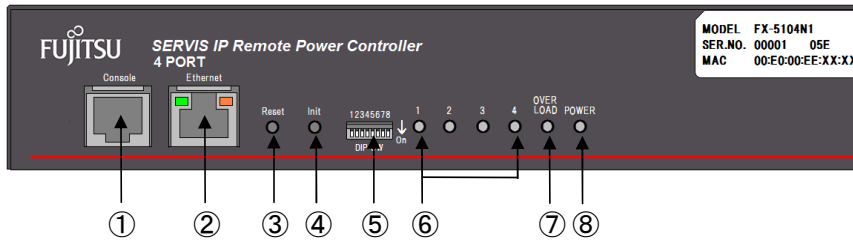


## 1.2. 本体各部の名称と機能

## 1.2.1 装置前面

1

ご利用になる前に



## ① Console ポート

本製品に添付の D-sub9 ピン⇄RJ45 変換アダプタ (FP-AD009RJX) と市販の Cat5 ストレートケーブルを使用してローカルコンソール端末と接続するためのポートです。

## ② Ethernet ポート

10BASE-T/100BASE-TX に対応した Ethernet 接続用ソケットです。コネクタ形状は RJ45 モジュージャックです。

## ③ Reset ボタン

本製品が動作中に、押下すると CPU リセットが実行されます。約 40 秒で本製品は再起動します。

## ④ Init ボタン

本ボタンを押下しながら本製品の電源を投入すると、初期設定値で起動します。

## 1.2 本体各部の名称と機能

### ⑤ ディップスイッチ

ディップスイッチ 1~8 の ON/OFF を切り替えることにより、下記のように動作します。

番号	機能	設定内容
1	ブートモード	ON : 自己診断モードで起動する。 OFF : 通常動作モードで起動する。
2	Duplex	ON : Ethernet の Duplex を Half にする。 OFF : Ethernet の Duplex を Full にする。
3	Speed	ON : Ethernet の Speed を 10M にする。 OFF : Ethernet の Speed を 100M にする。
4	オートネゴシエーション	ON : オートネゴシエーションが無効でディップスイッチ 2, 3 の設定に従う。 OFF : オートネゴシエーションが有効でディップスイッチ 2, 3 の設定は無視する。
5	DHCP	ON : DHCP を有効にする。 OFF : DHCP を無効にする。
6	—(未使用)	—
7	—(未使用)	—
8	リカバリーモード	ON : リカバリーモードを有効にする。 OFF : リカバリーモードを無効にする。

また、ディップスイッチ 8 が ON (リカバリーモードが有効) の場合、1~7 の状態による動作は下記のとおりです。

1	2	3	4	5	6	7	8	規定動作
ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	→ kernel のリカバリー
ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	→ filesystem のリカバリー
ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	→ kernel と filesystem のリカバリー
—	OFF	—	—	—	—	—	ON	→ Flash 書き込み時ベリファイなし
—	ON	—	—	—	—	—	ON	→ Flash 書き込み時ベリファイあり
ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	→ 設定値のリカバリー

リカバリーモードの詳細については、下記をご参照ください。

📖 参照 [7.2 リカバリーモード \(161 ページ\)](#)

### ⑥ 1~4 LED

各 AC 出力コンセントの ON/OFF 状態を表示します。

LED 名	表示内容
1, 2, 3, 4	<p>緑色点灯、橙色点灯、赤色点灯、消灯の 4 種類の表示が可能です。</p> <p>手動操作およびスケジュール管理設定による、コンセント ON が実行された状態で緑色点灯します。</p> <p>手動操作およびスケジュール管理設定による、コンセント OFF が実行された状態で消灯します。</p> <p>また、監視機能の条件動作として、各 LED の色表示を任意に設定することができます。</p> <p>📖 参照 <a href="#">4.4.2.1 監視機能の編集 (53 ページ)</a></p>




### ⑦ OVER LOAD LED

サーキットプロテクタの状態を表示します。

LED名	表示内容
OVER LOAD	赤色点灯 :サーキットプロテクタがトリップしている状態(異常時)。
	消灯 :サーキットプロテクタが動作していない状態(正常時)。

\* サーキットプロテクタトリップ時に、全てのコンセントの電源を OFF にする設定になっている場合、1~4 LED は、消灯状態になります。一方、コンセント ON を維持する設定になっている場合、トリップ直前に ON の状態だったコンセント番号の LED は、緑色点灯が維持されます。

 参照 [4.4.12.3 挙動の設定 \(90 ページ\)](#)

### ⑧ POWER LED

本体の電源状態を表示します。

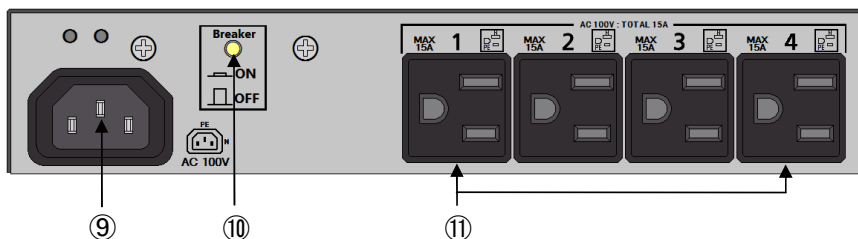
LED名	表示内容
POWER	緑色点灯 :主電源が ON の状態で内部動作電源が正常の状態。
	橙色点灯 :システム起動の初期化中、ファームウェアの初期化中、またはファームウェア更新中。
	消灯 :主電源が OFF の状態。

1

ご利用になる前に

## 1.2 本体各部の名称と機能

### 1.2.2 装置背面

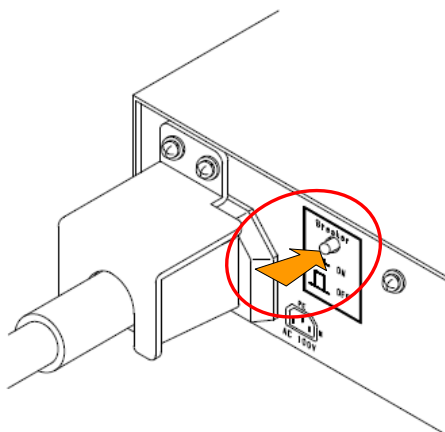


#### ⑨ 電源インレット

本製品に添付の電源ケーブルを接続します(AC100V入力)。  
コネクター形状は IEC320 です。

#### ⑩ Breaker ボタン

4 個の出力コンセントの電流値の負荷合計がサーキットプロテクタのトリップ値を超えると復帰用ボタンが飛び出し、過電流を示す状態(トリップ状態)となります。その際回路は遮断され、全ての出力コンセントは OFF となります。トリップ状態となったサーキットプロテクタを通常の状態に戻すには、復帰用ボタンを押し込んでください。



#### ⑪ AC 出力コンセント 1~4

電源制御用 AC100V 出力コンセントです。コンセントの最大定格は 1 個のコンセント当たり 15A、および 4 個合計でも 15A です。定格値を超えるとサーキットプロテクタがトリップ状態となります。

1

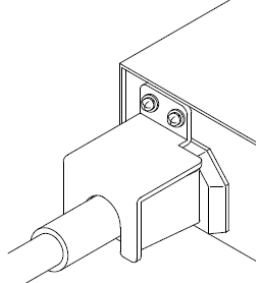
ご利用になる前に

## 1.3. 設置方法

1

### 1.3.1 電源ケーブル固定

添付の電源ケーブル固定金具を取り付けることで、電源ケーブルの抜けを防止することができます。



ご利用になる前に

### 重要

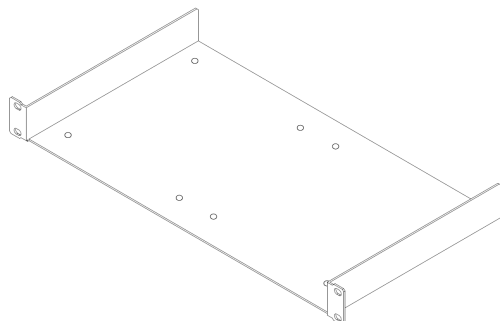
本製品をご使用の際は、安全の為、電源ケーブル固定金具を用いて電源ケーブルを固定して下さい。

### 1.3.2 平置き

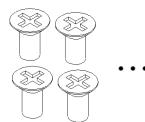
デスク上などの水平な場所に設置してご使用いただけます。

### 1.3.3 ラックマウント

オプションのラックマウントトレイ(型格: FP-P008)を取り付けることで、EIA 規格の 19 インチラックに取り付け、固定することが可能です。  
ラックマウントトレイに本製品を 2 台並べて取り付けることが可能です。

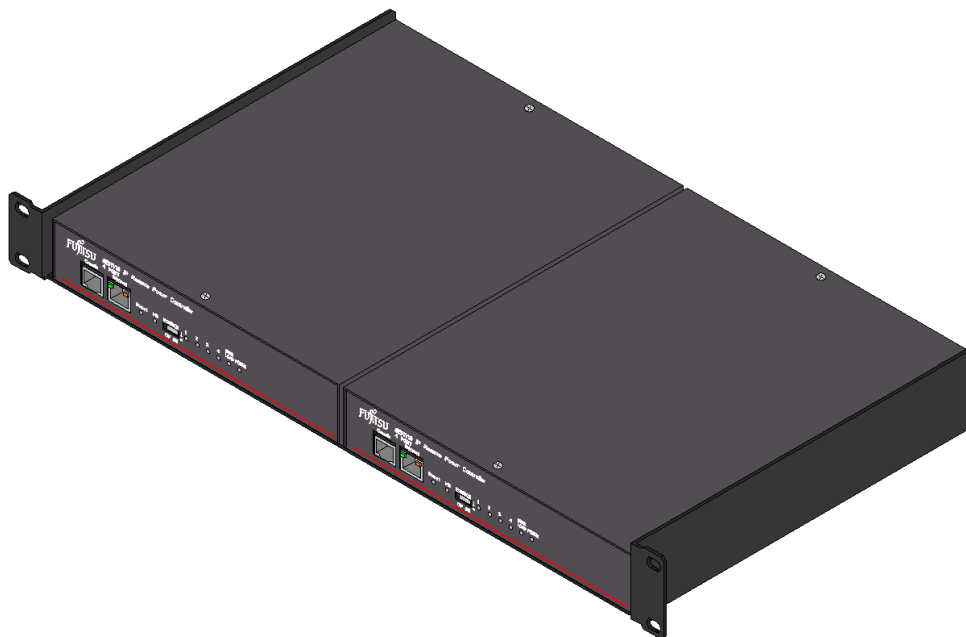


ラックマウントトレイ



本体-トレイ間ネジ

#### ラックマウントトレイ取り付け例



## Chapter 2 - スタートアップ

# 2

スタートアップ

本製品を操作する前段階として、スタートアップを行う上で必要な情報を説明しています。システム構築作業を始める前に必ずお読みください。

### 本章の内容

---

2.1 ご使用上の注意	10 ページ
2.2 接続構成	11 ページ
2.3 接続方法	12 ページ
2.3.1 添付品以外に必要なもの	12 ページ
2.3.2 コンソール端末の接続	13 ページ

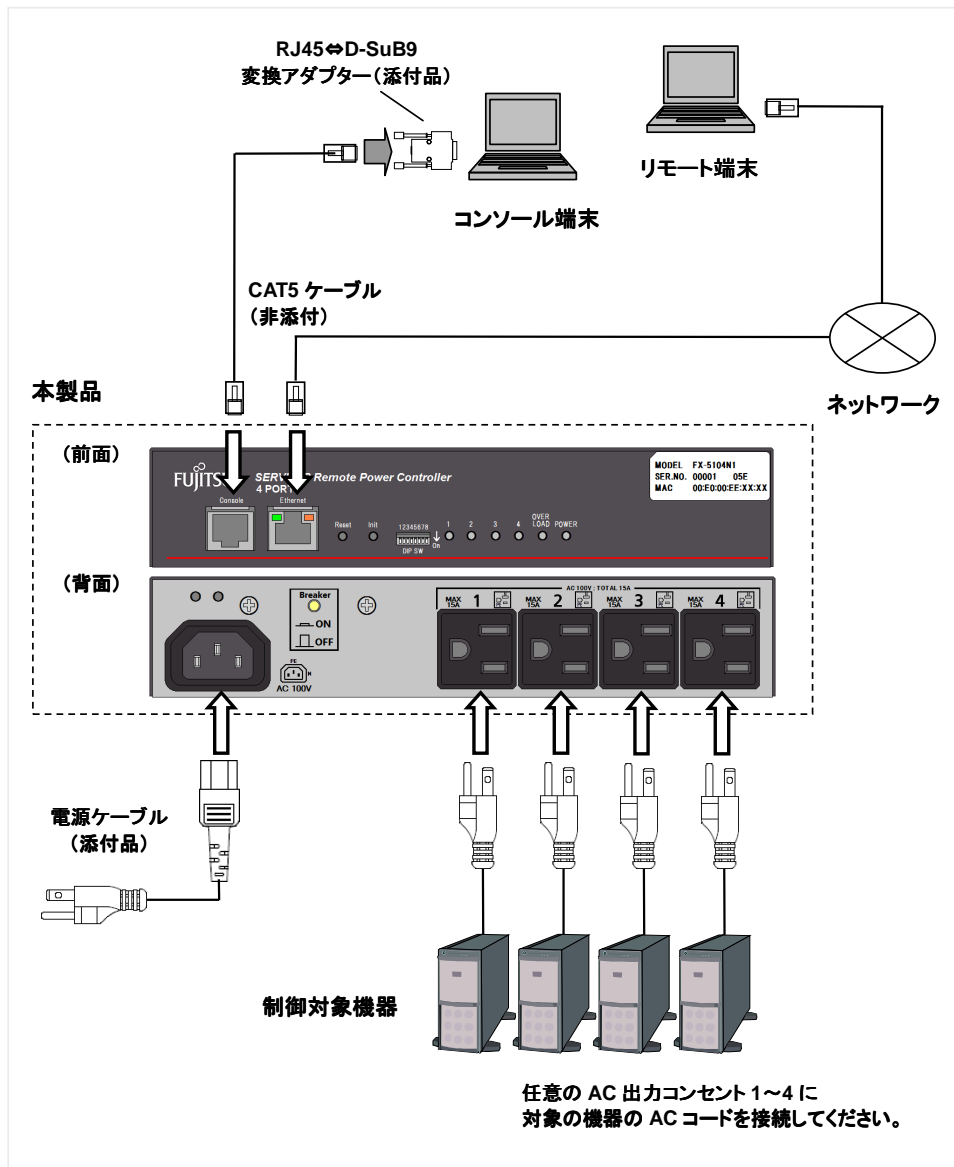
### 2.1. ご使用上の注意

本製品をご使用いただくにあたり、下記の事項にご注意ください。

- 本製品に添付の電源ケーブルをご利用いただき、接地端子(FG)がある3芯コンセントに接続してください。接地接続を実施しないで接続すると、装置の故障や感電の原因となります。
- 本製品の供給電源については、商用電源が供給された状態でご使用ください。50Hzあるいは60Hz以外の電源周波数の場合、正確な電力値を取得することができません。45Hz未満の場合は、電源異常と判断し、電力測定を行いません。
- 本製品の供給電源において、電源周波数が極端に低い場合は、サーキットプロテクタが動作したと判断し、出力コンセントがOFFとなる場合がありますので、ご注意ください。
- UPSや自家発電などの交流波形が正弦波ではない電源に本装置を接続しないでください。装置の故障の原因となります。また、交流波形が正弦波ではない電源に接続をした場合は、消費電力の計測ができなくなります。
- モーターなど、誘導負荷の製品は接続しないでください。過電流が発生し、装置故障の原因となります。
- 本製品のAC出力コンセントがOFFの場合、ライン側の出力はOFFとなりますが、ニュートラル側は、OFFとはなりません。感電の恐れがありますので、本製品を開けて修理や分解を行わないでください。
- 接続機器の突入電流が大きいと、出力コンセントがON/OFF動作しなくなるおそれがあります。接続構成には十分ご注意ください。

## 2.2. 接続構成

全体の接続構成図を以下に示します。下図のように、接続を行ってください。



### 2.3. 接続方法

#### 2.3.1 添付品以外に必要なもの

(1) コンソール端末

RS-232C インターフェース(D-Sub 9pin)を持つ PC をご用意ください。  
本製品の初期設定などに使用します。

(2) リモート端末

ネットワーク接続が可能な PC をご用意ください。遠隔地からの操作に使用します。

(3) ネットワーク機器

ネットワーク接続のためのルータ、スイッチングハブなどをご用意ください。

(4) Cat5 ケーブル

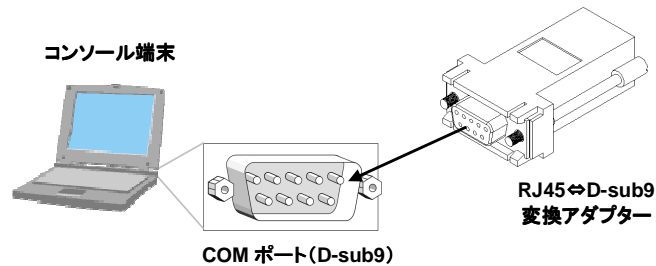
本製品の Console ポートおよび Ethernet ポートに接続するためのケーブルです。  
市販の CAT5E あるいは CAT6 ストレートケーブルをご用意ください。



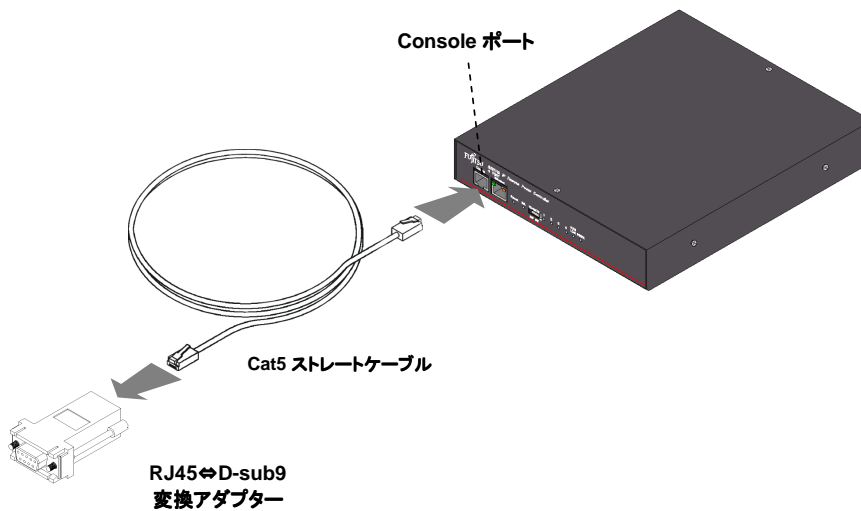
## 2.3.2 コンソール端末の接続

添付の RJ45⇔D-sub9 変換アダプター (型格: FP-AD009RJX) および市販の Cat5 ケーブルで本製品とコンソール端末を接続してください。

1. コンソール端末に、添付の変換アダプターを接続してください。



2. 1 で接続した変換アダプターと本製品の Console ポートを、CAT5 ケーブルで接続してください。



2

スタートアップ

# MEMO

2

スタートアップ

## Chapter 3 - 基本操作

# 3

### 基本操作

本製品を使用して、遠隔地からネットワーク経由で対象機器の電源を制御するための基本的な操作手順を説明しています。

#### 本章の内容

---

3.1 基本操作の概要	16 ページ
3.2 ディップスイッチ設定	17 ページ
3.3 ネットワーク設定	18 ページ
3.4 リモート端末からのログイン	20 ページ
3.5 手動による対象機器の電源制御	24 ページ
3.5.1 電源の投入	24 ページ
3.5.2 電源の切断	27 ページ
3.6 スケジュール管理による電源制御	30 ページ
3.6.1 スケジュールの登録	30 ページ
3.7 設定の保存、操作の終了	33 ページ

### 3.1. 基本操作の概要

本製品を使用し、ネットワーク経由にて、対象機器の電源制御を行う基本的な手順について、以下に示します。

**Step1** ディップスイッチを設定する

本製品をご利用になる環境に合わせてディップスイッチを設定します。

📖 参照 [3.2 ディップスイッチ設定 \(17 ページ\)](#)

**Step2** IP アドレスを設定する

本製品にコンソール端末を接続し、IP アドレスを設定します。

📖 参照 [3.3 ネットワーク設定 \(18 ページ\)](#)

**Step3** リモート端末からログインする

ネットワーク上のリモート端末から本製品に Web インターフェースにてアクセスし、「ユーザー名」、「パスワード」を入力してログインします。

📖 参照 [3.4 リモート端末からのログイン \(20 ページ\)](#)

**Step4** 手動で電源制御を行う

Web 設定画面上から手動で対象機器の電源投入／電源切断の制御を行います。

📖 参照 [3.5 手動による対象機器の電源制御 \(24 ページ\)](#)

**Step5** スケジュール管理で電源制御を行う

Web 設定画面上でスケジュール設定を行い、対象機器の電源投入／電源切断を自動で制御します。

📖 参照 [3.6 スケジュール管理による電源制御 \(30 ページ\)](#)

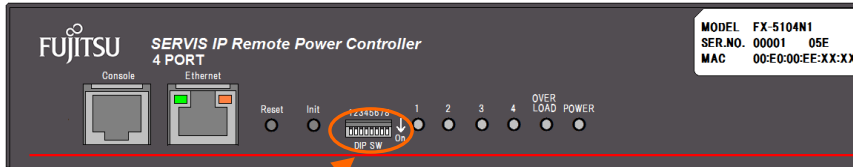
**Step6** 操作完了後、設定を保存し、ログアウトする

本製品の設定や電源制御操作が終了したら、設定を保存し、Web 画面をログアウトします。

📖 参照 [3.7 設定の保存、操作の終了 \(33 ページ\)](#)

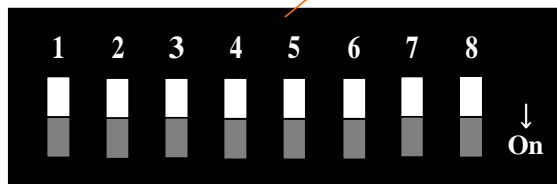
## 3.2. ディップスイッチ設定

ご使用のネットワーク環境に合わせて、通信速度、Duplex、DHCP の有効/無効などの設定を本製品前面のディップスイッチで変更します。ディップスイッチ設定を変更する場合は、必ず本製品の電源が OFF の状態で行ってください。



3

基本操作



がスイッチを示します。

デフォルト設定(1~8 すべてのスイッチが OFF)の場合、下記のように動作します。

- ① 通常動作モード
- ② オートネゴシエーション有効
- ③ DHCP 無効

ディップスイッチ 1~8 の ON/OFF を切り替えることにより、下記のように動作します。

番号	機能	設定内容
1	ブートモード	ON : 自己診断モードで起動する。 OFF : 通常動作モードで起動する。
2	Duplex	ON : Ethernet の Duplex を Half にする。 OFF : Ethernet の Duplex を Full にする。
3	Speed	ON : Ethernet の Speed を 10M にする。 OFF : Ethernet の Speed を 100M にする。
4	オートネゴシエーション	ON : オートネゴシエーションが無効でディップスイッチ 2, 3 の設定に従う。 OFF : オートネゴシエーションが有効でディップスイッチ 2, 3 の設定は無視する。
5	DHCP	ON : DHCP を有効にする。 OFF : DHCP を無効にする。
6	—(未使用)	—
7	—(未使用)	—
8	リカバリーモード	ON : リカバリーモードを有効にする。 OFF : リカバリーモードを無効にする。

ディップスイッチ 8 を ON にすることでディップスイッチ 1~7 の設定の意味は変わります。

参照 1.2.1 装置前面 (3 ページ)

本製品と対象機器との接続およびネットワーク接続を行い、本製品を起動させます。

参照 2.2 接続構成 (11 ページ)


## 3.3. ネットワーク設定

ネットワーク上のリモート端末から本製品にアクセスするために、ネットワーク設定を行う必要があります。

初期設定として、本製品のコンソールからコマンド入力によって、ネットワーク設定を行う手順を説明します。例として、下記の値に設定にする手順を示します。

IP アドレス : 192.168.1.100  
 サブネットマスク : 255.255.255.0  
 デフォルトゲートウェイ : 192.168.1.1

1. 本製品の Console ポートとコンソール端末を接続します。添付の RJ45⇔D-sub9 変換アダプターおよび市販の Cat5 ストレートケーブルで接続してください。

 参照 2.3.2 コンソール端末の接続 (13 ページ)

2. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーション(ハイパーターミナルなど)を起動し、以下のようにパラメータを設定します。

通信設定	設定値
ボーレート	9600bps
データ長	8bit
パリティ	なし
ストップビット	1bit

3. 本製品が起動すると、login: プロンプトが表示されます。デフォルトの管理者アカウント: admin を入力します。

```
FX-5104N1 login: admin Enter
```

書式変更: フォント: (英)  
 Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

4. Password: プロンプトが表示されます。admin アカウントのデフォルトのパスワード: admin を入力します。(パスワードは表示されません)

```
FX-5104N1 login: admin  

Password: <表示されません> Enter
```

書式変更: フォント: (英)  
 Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

5. \$ プロンプトが表示されます。set ip コマンドにより、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ の設定を行います。

```
$ setip -i 192.168.1.100 -m 255.255.255.0 -g 192.168.1.1 Enter  

IP Address : 192.168.1.100  

Subnet Mask : 255.255.255.0  

Gateway Address : 192.168.1.1  

$
```

書式変更: フォント: (英)  
 Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

## ◆ 書式

```
setip [-i <IP アドレス>] [-m <サブネットマスク>] [-g <ゲートウェイアドレス>] [-b <ブロードキャストアドレス>]
```

 参照 5.4.1 setip コマンド (115 ページ)

6. 設定変更を保存するため、saveconf コマンドを実行します。

```
$ saveconf Enter
Save configuration
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

参照 [5.4.21 saveconf コマンド \(139 ページ\)](#)



7. 設定変更を反映するため、reboot コマンドを実行し、本装置を再起動させます。再起動には、40 秒ほどかかります。

```
$ reboot Enter
Save electric power data to FlashROM starting, don't turn off!
please wait for 10 seconds...
```

基  
書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

参照 [5.4.25 reboot コマンド \(143 ページ\)](#)

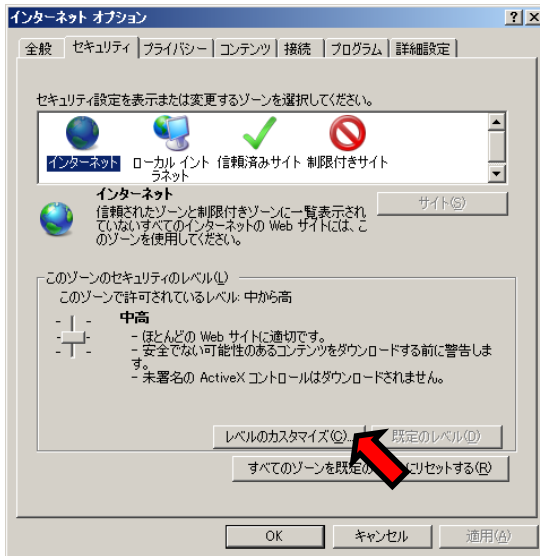
本装置が再起動すれば、指定したネットワーク設定で動作します。

以上で、ネットワーク設定は完了です。

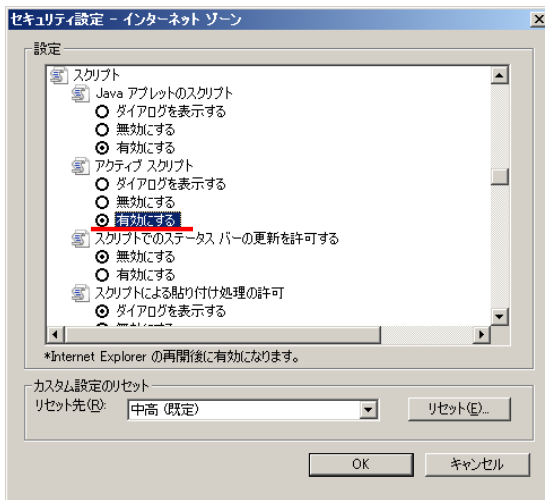
## 3.4. リモート端末からのログイン

本製品を Web インターフェースから操作する場合、ブラウザ設定において、JavaScript を有効にする必要があります。JavaScript が無効になっている場合、正常に動作しません。例として、Internet Explorer 7.0 の場合の設定方法を下に示します。

1. 「ツール」メニュー→「インターネットオプション」→「セキュリティ」タブ をクリックすると以下のようなダイアログが表示されます。「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックします。



2. 下のような「セキュリティの設定」ダイアログが表示されます。アクティブ スクリプト の項目で “有効にする” にチェックして[OK]ボタンをクリックしてください。



警告ダイアログが表示されますが、[はい]ボタンをクリックしてください。以上で、JavaScript は有効になります。



ネットワーク上のリモート端末から Web インターフェースを用いて、本製品にログインする手順を以下に説明します。

1. リモート端末でブラウザを起動し、設定した IP アドレスに対して https プロトコルでアクセスします。(以下には、Microsoft Internet Explorer 7.0 を用いてアクセスした場合を示します。)

IP アドレスは、以下のように設定されているとします。

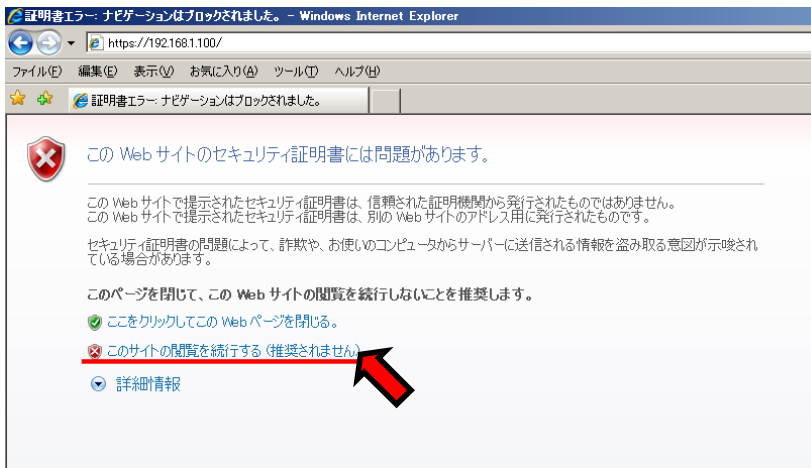
- IP Address: 192.168.1.100



3

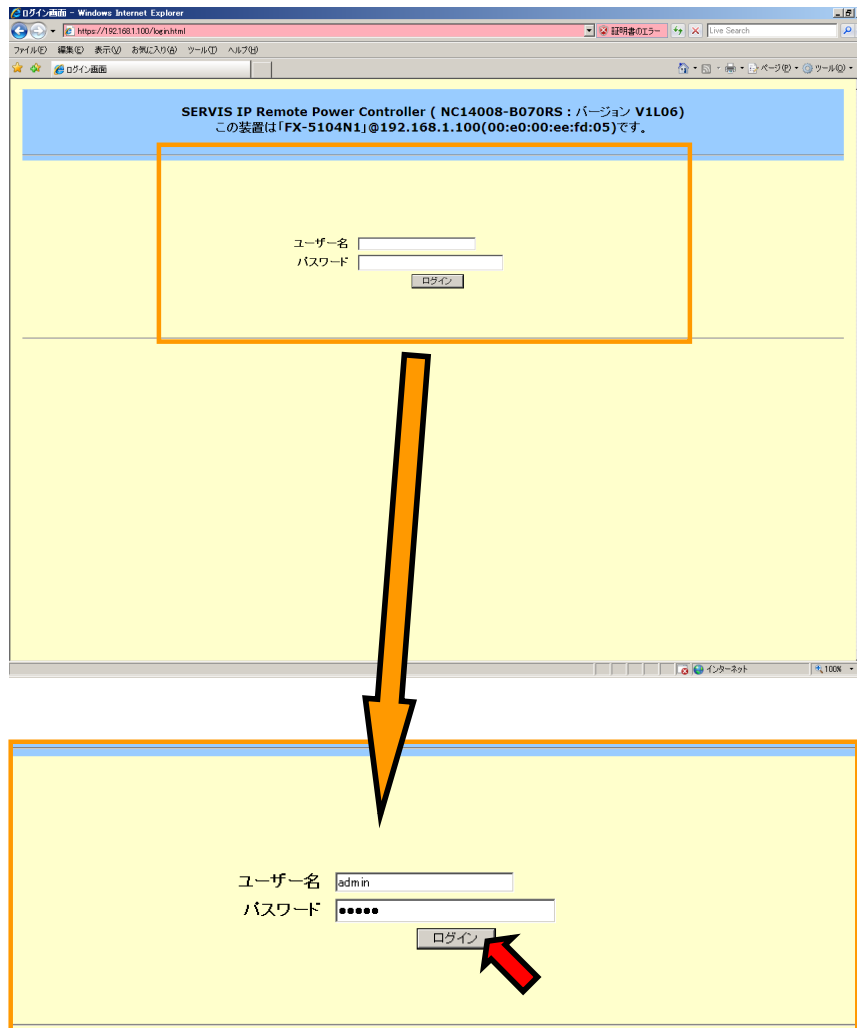
基本操作

2. セキュリティ証明書に関するメッセージが表示されます。“このサイトの閲覧を続行する”をクリックしてください。



### 3.4 リモート端末からのログイン

- Web ページのログイン画面が表示されます。デフォルトで管理用アカウント: admin およびパスワード: admin が設定されています。ユーザー名: admin, パスワード: admin を入力し、[ログイン]ボタンをクリックしてください。



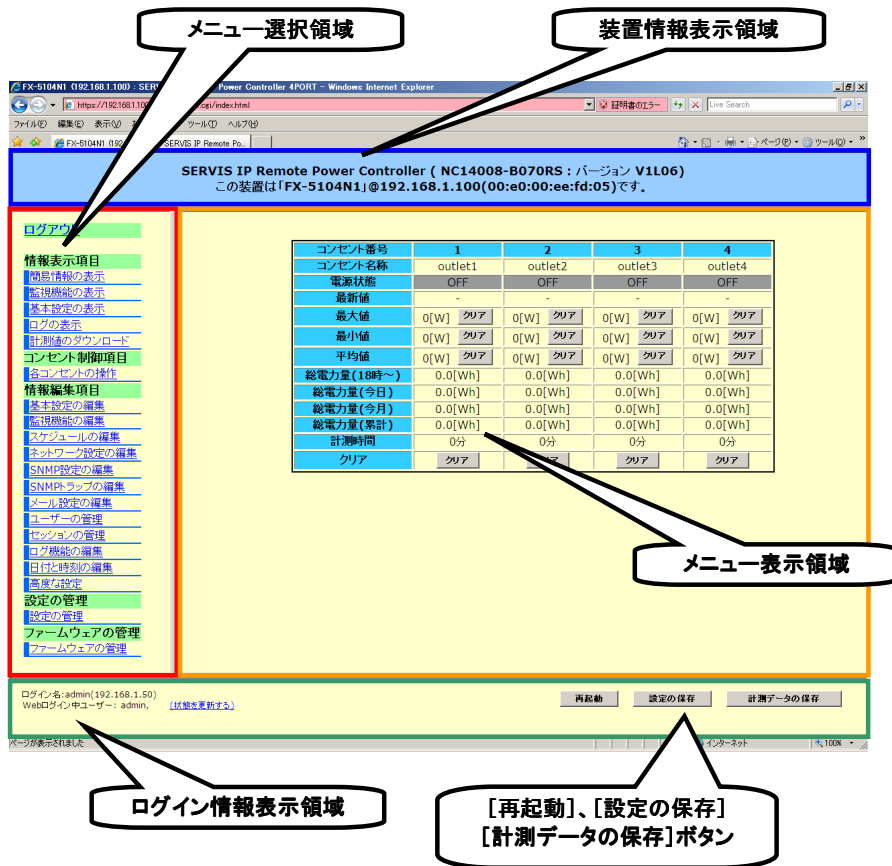
セキュリティ確保のため、admin アカウントのパスワード変更をお勧めします。  
パスワード変更の方法については、下記をご参照ください。  
📖 参照 [4.4.8.2 ユーザー情報の変更 \(76 ページ\)](#)

3

基本  
操作

### 3.4 リモート端末からのログイン

4. ログインすると、下のようなページが表示されます。画面左のメニュー選択領域からメニューを選択してクリックすると、右の表示領域にその内容が表示されます。



3

基本操作

各フレームの表示内容は、下記のとおりです。

項目名	説明
装置情報表示領域	本装置の名称、ファームウェアバージョン、現在設定されている IP アドレス、MAC アドレスを表示します。
メニュー選択領域	各情報、設定メニューの選択領域です。
メニュー表示領域	メニュー選択領域で選択した内容を表示します。
ログイン情報表示領域	現在本装置にログインしているユーザーアカウント情報を表示します。
[再起動]ボタン	このボタンをクリックすると、本装置を再起動することができます。
[設定の保存]ボタン	このボタンをクリックすると、変更した内容を装置内部の ROM に書き込みます。
[計測データの保存]ボタン	このボタンをクリックすると、各コンセントの消費電力あるいは電力量の計測データを FlashROM に保存します。

次項から、本製品の AC 出力コンセントに接続された対象機器の電源制御方法について、説明します。

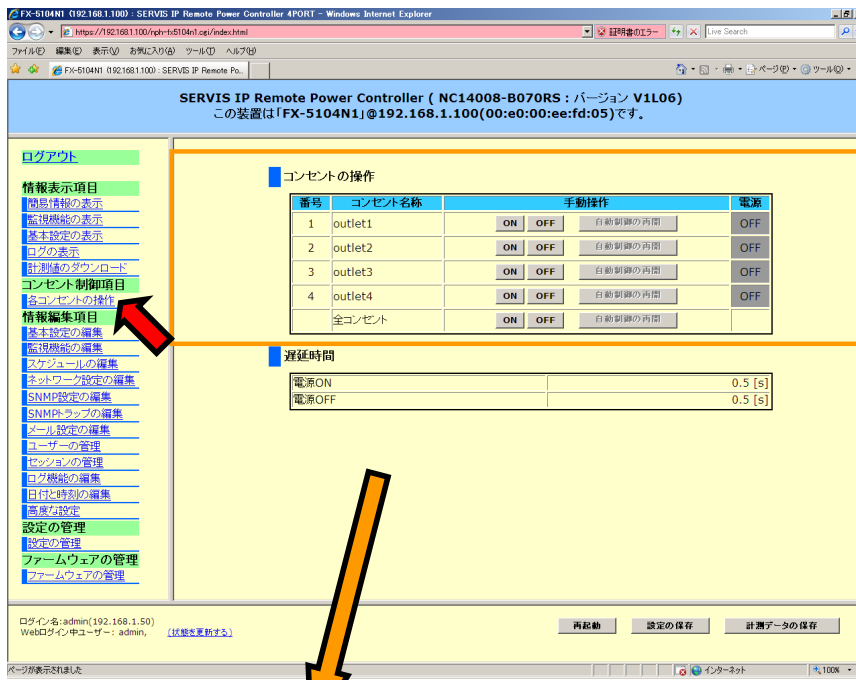
## 3.5.1 手動による対象機器の電源制御

ネットワーク上のリモート端末から本製品にログインし、対象機器の電源を手動で制御する手順を以下に説明します。

### 3.5.1 電源の投入

本製品の AC 出力コンセントに接続された機器の電源を ON にする操作手順を以下に示します。

1. Web ページ上の画面左側のメニュー選択領域において、各コンセントの操作 をクリックすると下のようなページが表示されます。”■コンセントの操作” と表示された箇所が電源制御操作に関する項目です。



### 3.5 手動による対象機器の電源制御

- 電源を ON にする機器が接続されているコンセント番号の[ON]ボタンをクリックします。(ここでは、1 番のコンセントを ON にします。)

コンセントの操作

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

3

基本操作

- 下のような、確認ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- 1 番のコンセントは電源 ON の操作が実行され、下のように、“電源” 表示が緑色で“ON” となります。

コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

#### 重要

手動による電源制御を行うと、制御を実行したコンセントの [自動制御の再開] ボタンがアクティブになります。[自動制御の再開] ボタンがアクティブな場合、そのコンセントのスケジュール管理による制御は動作しません。[自動制御の再開] ボタンをクリックするとボタンはグレイアウト状態になり、スケジュール管理設定が有効になります。

 参照 [3.6 スケジュール管理による電源制御 \(30 ページ\)](#)

### 3.5 手動による対象機器の電源制御

1 から 4 番の全ての AC 出力コンセントをまとめて電源 ON することも可能です。

1. 手動操作の一番下にある "全コンセント" 項目の[ON]ボタンをクリックします。

■ コンセントの操作

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

2. 下のような、確認ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



3. 1 から 4 番の全てのコンセントは電源 ON の操作が実行され、下のように、"電源" 表示が緑色で"ON" となります。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	ON
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	ON
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	ON
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

3

基本  
操作

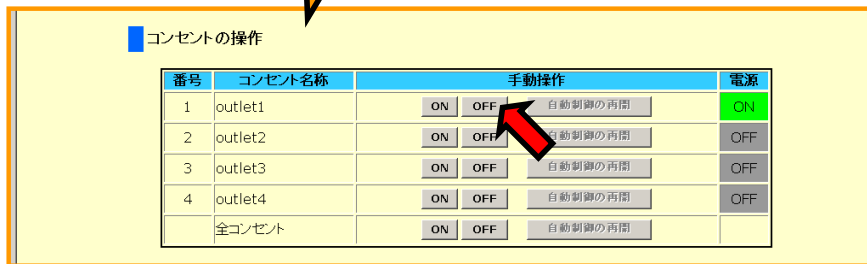
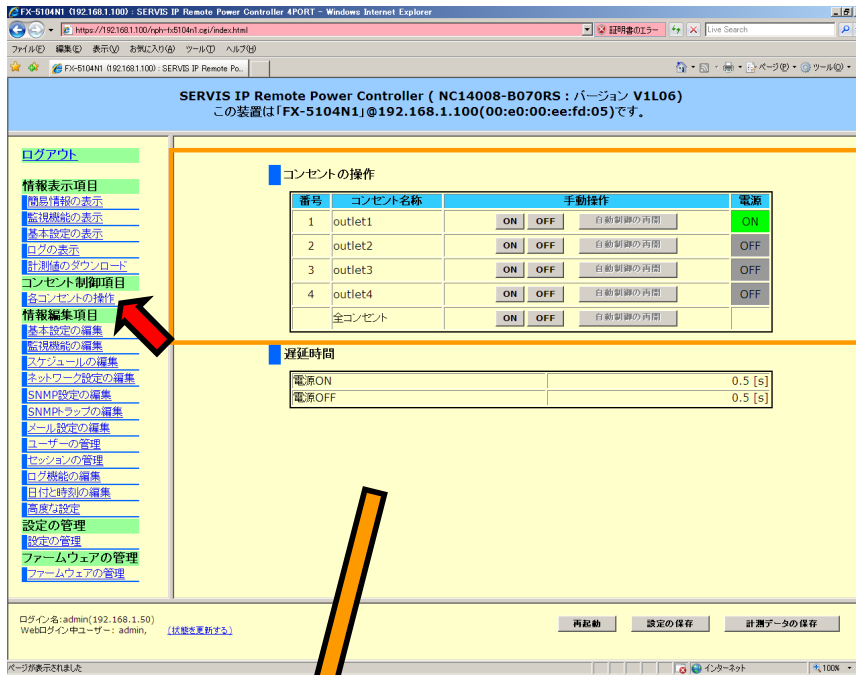
### 3.5.2 電源の切断

本製品の AC 出力コンセントに接続された対象機器の電源を ON の状態から OFF にする操作手順を以下に示します。

- Web ページ上の画面左側のメニュー選択領域において、各コンセントの操作 をクリックすると下のようなページが表示されます。■「コンセントの操作」と表示された箇所が電源制御に関する操作や情報に関する項目です。  
電源を OFF にする機器が接続されているコンセント番号の [OFF] ボタンをクリックし

3

基本操作



### 3.5 手動による対象機器の電源制御

2. 下のような、確認ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



3. 1 番のコンセントは、電源 OFF の操作が実行され、下のように、“電源” 表示が灰色で“OFF” となります。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

## 重要

手動による電源制御を行うと、制御を実行したコンセントの [自動制御の再開] ボタンがアクティブになります。[自動制御の再開] ボタンがアクティブな場合、そのコンセントのスケジュール管理による制御は動作しません。[自動制御の再開] ボタンをクリックするとボタンはグレイアウト状態になり、スケジュール管理設定が有効になります。

📖 参照 [3.6 スケジュール管理による電源制御 \(30 ページ\)](#)



### 3.5 手動による対象機器の電源制御

1 から 4 番の全ての AC 出力コンセントをまとめて電源 OFFすることも可能です。

1. 手動操作の一番下にある "全コンセント" 項目の[OFF]ボタンをクリックします。

■ コンセントの操作

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	ON
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	ON
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	ON
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

3

基本操作

2. 下のような、確認ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



3. 1 から 4 番の全てのコンセントは電源 OFF の操作が実行され、下のように、"電源"表示が灰色で"OFF" となります。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

### 3.6.1 スケジュール管理による電源制御

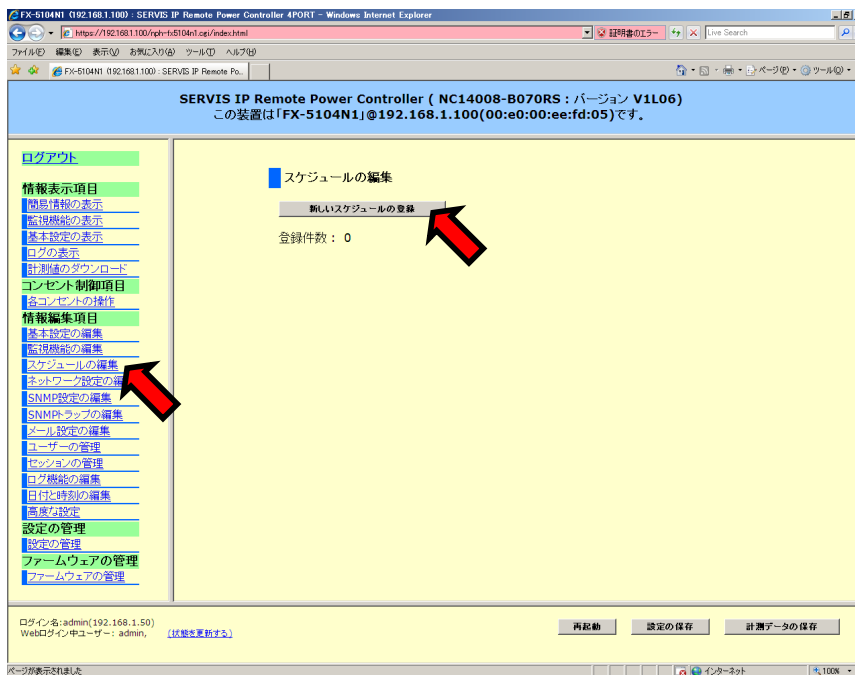
本製品は、各出力コンセントを手動で ON/OFF する方法の他に、日時を指定することにより自動で ON/OFF 制御を行うこともできます。

ネットワーク上のリモート端末から本製品にログインし、スケジュール管理により、対象機器の電源を自動で制御する手順を以下に説明します。

#### 3.6.1 スケジュールの登録

スケジュールを登録する操作手順を以下に示します。

1. Web ページ上の画面左側のメニュー選択領域において、スケジュールの編集 をクリックすると下のようなページが表示されます。ここでスケジュールの新規登録および編集を行います。[新しいスケジュールの登録] ボタンをクリックします。



2. 下のような、“スケジュールの詳細” ページが表示されます。ここでスケジュールの設定を行います。

3

基本操作

設定方法の詳細については、下記をご参照ください。

参照 [4.4.3 スケジュールの編集 \(57 ページ\)](#)

3. 下記の設定例のようにスケジュール設定を行う場合の画面を示します。  
 設定例：毎月 14 日、0 時 0 分に コンセント 1, 2 を ON にする。  
 スケジュール設定の有効期限は、2010 年 3 月 31 日～2019 年 4 月 1 日  
 設定項目を入力後、[反映]ボタンをクリックします。

4. 下のようにスケジュールが登録され、「スケジュールの編集」ページにリスト表示されます。

**スケジュールの編集**

新しいスケジュールの登録

登録件数： 1

順序	番号	有効	コンセント	スケジュール	詳細
▼	1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	間隔： 毎月 14 日 時刻： 0時 0分 <input checked="" type="checkbox"/> 期間 [2010年 3月 31(水)] ~ [2019年 4月 1(月)] 状態： ON	詳細 削除

反映

リスト上の「有効」チェックボックスにチェックが入っている状態でスケジュール動作は実行されます。

ある一定の時間に電源を投入し、また別のある時間に電源を切断するような場合は、2種類のスケジュールを登録していただくことになります。

## 重要

「各コンセントの操作」ページで手動による電源制御を行うと、手動で制御したコンセントのスケジュール管理設定は動作しません。その場合、「各コンセントの操作」ページの「手動操作」で[自動制御の再開]ボタンをクリックすると、スケジュール管理設定が有効になります。

 参照 [4.3.1 各コンセントの操作 \(50 ページ\)](#)

## 3.7. 設定の保存、操作の終了

本製品の各種設定および操作を実行したのち、設定を保存し、操作を終了する手順を以下に説明します。

### 3.7.1 設定の保存

本装置の設定を変更した場合、設定の保存を実行する必要があります。「設定の保存」を実行しないと、本装置に関する全ての設定変更は、再起動により失われます。Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックします。

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] クリア	4[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
最小値	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
平均値	10[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	クリア	クリア	クリア	クリア

確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



設定の保存が完了するまで約 10 秒かかります。

3

基本操作

## 3.7 設定の保存、操作の終了

### 3.7.2 ログアウト

電源管理の操作が終了したら、本製品の Web ページからログアウトします。

1. Web ページの左上部の[ログアウト]ボタンをクリックすると、Web ページからログアウトします。

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] <input type="button" value="クリア"/>	4[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
最小値	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
平均値	10[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>

ログアウトすると、再びログインページが表示されます。

3

基本  
操作

## Chapter 4 - Web インターフェース

# 4

ブラウザを用いた Web インターフェース設定画面から本装置を操作するための各 GUI 操作および機能について説明しています。

### 本章の内容

---

4.1 Web インターフェースの概要	36 ページ
4.2 情報表示項目	36 ページ
4.2.1 簡易情報の表示	37 ページ
4.2.2 監視機能の表示	39 ページ
4.2.3 基本設定の表示	42 ページ
4.2.4 ログの表示	43 ページ
4.2.5 計測値のダウンロード	45 ページ
4.3 コンセント制御項目	50 ページ
4.3.1 各コンセントの操作	50 ページ
4.4 情報編集項目	51 ページ
4.4.1 基本設定の編集	52 ページ
4.4.2 監視機能の編集	53 ページ
4.4.3 スケジュールの編集	57 ページ
4.4.4 ネットワーク設定の編集	61 ページ
4.4.5 SNMP 設定の編集	62 ページ
4.4.6 SNMPトラップの編集	64 ページ
4.4.7 メール設定の編集	66 ページ
4.4.8 ユーザーの管理	73 ページ
4.4.9 セッションの管理	79 ページ
4.4.10 ログ機能の編集	81 ページ
4.4.11 日付と時刻の編集	82 ページ
4.4.12 高度な設定	86 ページ
4.5 設定の管理	92 ページ
4.6 ファームウェアの管理	97 ページ
4.7 設定の保存	101 ページ
4.8 計測データの保存	102 ページ
4.9 再起動	103 ページ
4.10 Copyright の表示	105 ページ
4.11 初期設定値	106 ページ

### 4.1. Web インターフェースの概要

本章では、ブラウザを用いた Web インターフェース設定画面から本装置を操作するための各 GUI 操作および機能について説明しています。初期導入時に行う本装置の IP アドレスの設定を除き、全ての設定はブラウザを用いた Web インターフェース設定画面から行うことができます。

### 4.2. 情報表示項目

メニュー選択領域の「情報表示項目」では、各種設定情報を確認することができます。

The screenshot shows the web interface for the SERVIS IP Remote Power Controller. The 'Information Display Items' menu is highlighted, and the main content area displays a table of power data for four outlets (outlet1 to outlet4).

コンソント番号	1	2	3	4
コンソント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] <input type="button" value="クリア"/>	4[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
最小値	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
平均値	10[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>

- 簡易情報の表示
- 監視機能の表示
- 基本設定の表示
- ログの表示
- 計測値のダウンロード

各項目について、次項から説明します。

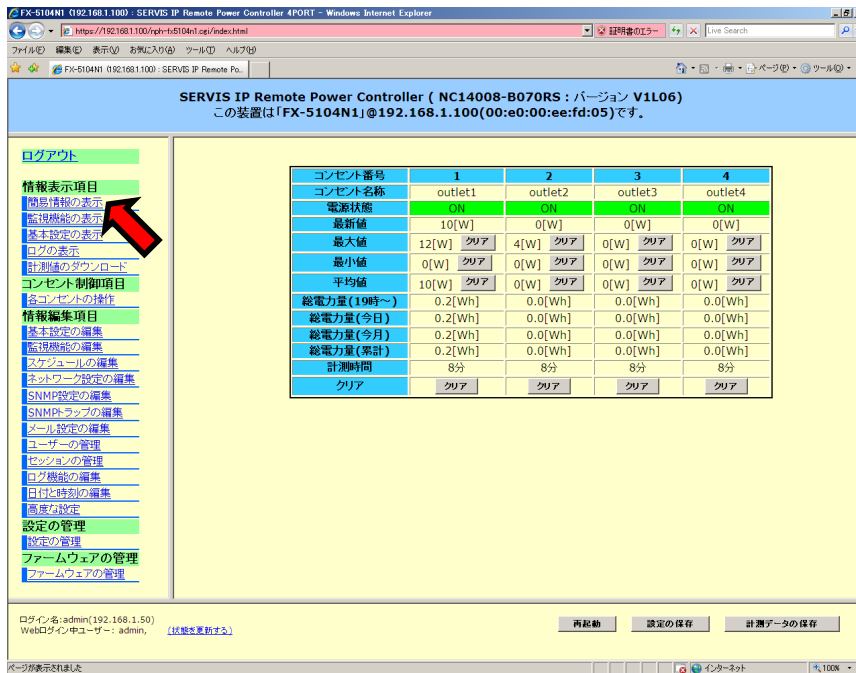


## 4.2.1 簡易情報の表示

メニュー選択領域で、**簡易情報の表示** をクリックすると、下のような情報が表示されます。ここでは、各コンセントの現在の消費電力あるいは累積の消費電力量を確認することができます。

本ページの表示については、60 秒毎に表示が自動更新され(デフォルト設定)、アイドルタイムアウトすることはありません。表示の自動更新を有効にするか、無効にするかは、「高度な設定」 ページで選択することができます。

 参照 4.4.12.3 挙動の設定 (90 ページ)



SERVIS IP Remote Power Controller ( NC14008-B070RS :バージョン V11.06)  
この装置は「FX-5104N1」@192.168.1.100(00:e0:00:ee:fd:05)です。

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] <input type="button" value="クリア"/>	4[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
最小値	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
平均値	10[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>	0[W] <input type="button" value="クリア"/>
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>	<input type="button" value="クリア"/>

項	項目名	説明
1	コンセント番号	本製品の背面にある 1 から 4 の各出力コンセントを示します。
2	コンセント名称	各コンセントに設定された名称を示します。
3	電源状態	各出力コンセントの現在の状態を ON/OFF で示します。
4	最新値	現在の消費電力値を表示します ([W] 単位)。
5	最大値	計測開始からの消費電力値の最大値を示します。 領域内の [クリア] ボタンをクリックすると 最大値がクリアされます。
6	最小値	計測開始からの消費電力値の最小値を示します。 領域内の [クリア] ボタンをクリックすると 最小値がクリアされます。
7	平均値	計測開始からの消費電力値の平均値を示します。 領域内の [クリア] ボタンをクリックすると 平均値がクリアされます。
8	総電力量 (X 時~)	1 時間の総電力量を示します。00 分で値はリセットされます。 例: 装置に設定されている現在時刻が 6 時 25 分の場合、項目に (6 時~) と表示され、6:00 から 6:25 までの電力量の合計値が表示されます。

## 4.2 情報表示項目

9	総電力量 (今日)	1日(0:00から23:59まで)の電力量の合計値を示します。24時00分で値はリセットされます。
10	総電力量 (今月)	1か月の電力量の合計値を示します。月変わり値はリセットされます。
11	総電力量 (累計)	計測開始から現在までの総電力量を示します。
12	計測時間	計測開始からの経過時間を表示します。 本装置が起動すると計測を開始します。また、「高度な設定」ページにおいて、「電力データを復元する」が有効になっている場合、本装置を再起動しても計測時間は継続されます。
13	[クリア]ボタン	最下の[クリア]ボタンをクリックするとそのコンセントの全ての計測値がクリアされます。

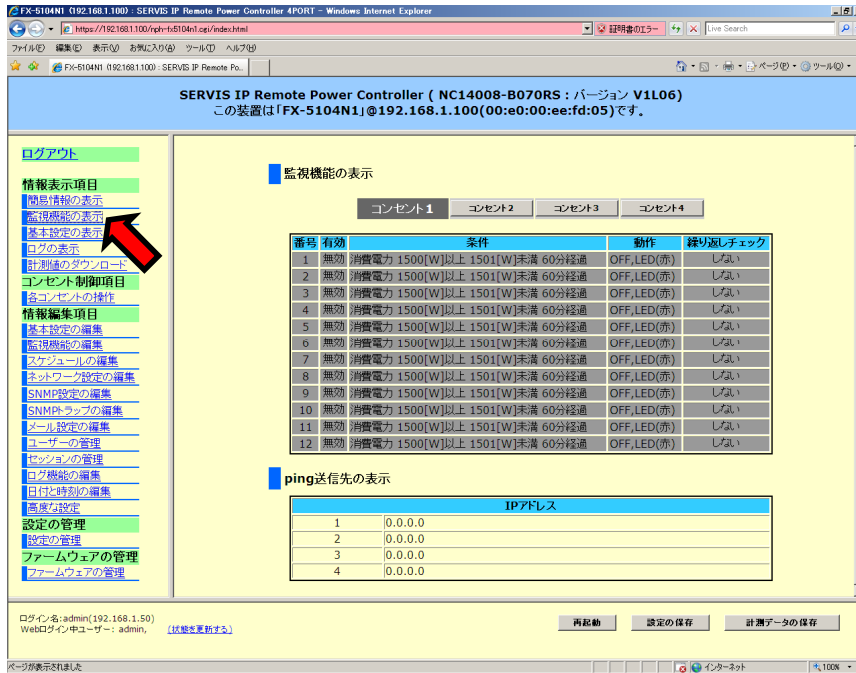
# 4

## 4.2.2 監視機能の表示

メニュー選択領域で、[監視機能の表示](#) をクリックすると、以下のような情報が表示されます。ここでは、現在設定されている、監視設定の内容 および ping 送信機能により ICMP ping パケットを送信する送信先を確認することができます。

本ページに表示される設定の内容を変更する場合は、「監視機能の編集」 ページで実行します。

☞ 参照 [4.4.2 監視機能の編集 \(53 ページ\)](#)



The screenshot shows the web interface for the SERVIS IP Remote Power Controller. The main content area is titled '監視機能の表示' (Monitoring Function Display). It features a table of monitoring conditions and actions for four ports (コンセント1 to コンセント4). Below this is a table for ping destinations (ping送信先の表示).

番号	有効	条件	動作	繰り返しチェック
1	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
2	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
3	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
4	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
5	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
6	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
7	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
8	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
9	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
10	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
11	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
12	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない

ping送信先の表示	
	IPアドレス
1	0.0.0.0
2	0.0.0.0
3	0.0.0.0
4	0.0.0.0

4

Web  
インターフェース

## 4.2 情報表示項目


### 4.2.2.1 監視機能の表示

ここでは、各出力コンセントの現在の監視設定を表示します。無効状態の設定は灰色表示されます。監視機能の設定方法については、4.4.2 項 をご参照ください。

📖 参照 4.4.2 監視機能の編集 (53 ページ)

番号	有効	条件	動作	繰り返しチェック
1	有効	消費電力 450[W]以上 500[W]未満 60分経過	OFF,LED(消灯) メール送信A	しない
2	有効	消費電力 350[W]以上 450[W]未満 60分経過	OFF->ON,LED(緑) メール送信B	しない
3	有効	消費電力 250[W]以上 350[W]未満 60分経過	何もしない,LED(橙) メール送信C	しない
4	有効	消費電力 150[W]以上 250[W]未満 60分経過	何もしない,LED(緑)	しない
5	有効	消費電力 0[W]以上 150[W]未満 60分経過	何もしない,LED(橙) メール送信D	しない
6	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
7	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
8	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
9	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
10	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
11	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない
12	無効	消費電力 1500[W]以上 1501[W]未満 60分経過	OFF,LED(赤)	しない

項	項目名	説明
1	コンセント1~4	[コンセント番号]ボタンをクリックすると、その番号のコンセントの監視設定が表示されます。
2	番号	監視設定番号1~12を示します。
3	有効	監視設定の“有効”/“無効”状態が表示されます。“有効”状態の設定のみ監視対象となります。“無効”状態の設定は、灰色表示されます。
4	条件	現在設定されている監視条件が表示されます。選択された“消費電力”、“1時間の総電力量”、“1日の総電力量”、“1カ月の総電力量”のいずれかの条件が表示されます。また、監視する消費電力あるいは、総電力量の閾値範囲、継続時間の条件内容が表示されます。

5	動作	<p>監視条件に一致した場合の動作について、現在の設定内容が表示されます。コンセント動作、LED 状態動作、メール送信動作について、それぞれの設定内容が表示されます。</p> <p>コンセント動作には、下記の 3 種類があります。  OFF: コンセントを OFF にします。  OFF-&gt;ON: コンセントを OFF にし、10 秒後に再び ON にします。  何もしない: コンセントの ON/OFF 状態を維持し、何も動作しません。</p> <p>LED 状態動作には、下記の 5 種類があります。  緑: コンセント番号の LED を緑に点灯させます。  橙: コンセント番号の LED を橙に点灯させます。  赤: コンセント番号の LED を赤に点灯させます。  消灯: コンセント番号の LED を消灯させます。  何もしない: コンセント番号の LED の色および点灯/消灯状態を維持し、何も動作しません。</p> <p>メール送信動作には、送信先および送信内容の異なる メール送信 A~D の 4 種類があります。メールの送信先および送信内容については、「メール設定の編集」ページで設定します。   参照 <a href="#">4.4.7 メール設定の編集 (66 ページ)</a></p>
6	繰り返しチェック	<p>設定した監視条件を 1 回限り、または 複数回 繰り返して実行するかを指定する繰り返しチェックの設定内容が表示されます。</p> <p>"しない"、"する"、"連続" の 3 種類の設定があります。  しない: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、その条件を満たし続けている限りは、繰り返して監視を実行しません。  する: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、指定の間隔を待ち、再度監視を開始します。監視を開始するまでの時間間隔は、"~分後" の形式で表示されます。  連続: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、すぐに再度監視を開始します。</p>

#### 4.2.2.2 ping 送信先の表示

ここでは、ping 送信機能における、ICMP ping パケットの送信先 IP アドレスを表示します。

 ping送信先の表示

IPアドレス	
1	192.168.1.200
2	192.168.1.150
3	0.0.0.0
4	0.0.0.0

項	項目名	説明
1	IP アドレス	ping パケットの送信先アドレス(4 つまで設定可)を表示します。

## 4.2 情報表示項目

### 4.2.3 基本設定の表示

メニュー選択領域で、**基本設定の表示** をクリックすると、以下のような情報が表示されます。ここでは、ネットワーク設定、ファームウェアバージョンなど、本装置の現在の各種情報を確認することができます。



The screenshot shows the web interface of the SERVIS IP Remote Power Controller. The main content area displays the 'Device Information' (装置情報) table. The left sidebar contains a menu with 'Basic Settings Display' (基本設定の表示) highlighted by a red arrow.

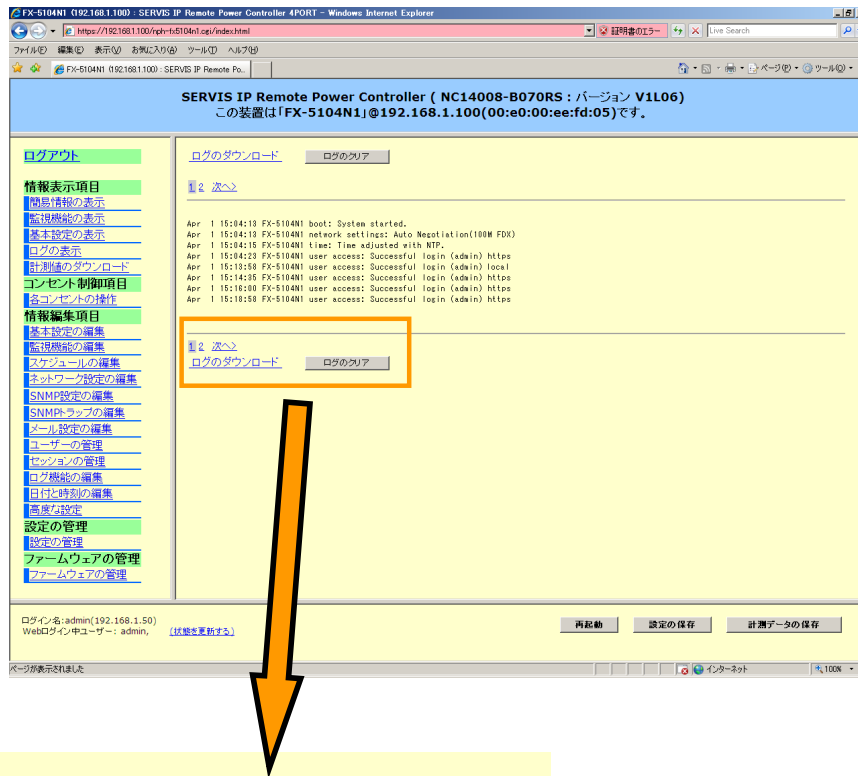
装置情報	
装置名称	FX-5104N1
DHCP設定	無効
オートネゴシエーション設定	有効
通信速度/通信モード	100Mbps/Full
IPアドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ(無効時 0.0.0.0)	192.168.1.1
ブロードキャスト	192.168.0.255
優先DNSサーバ	(未設定)
代替DNSサーバ	(未設定)
MACアドレス	00:e0:00:ee:fd:05
日付と時刻	2010/03/31 19:07:16 JST
ブートローダーバージョン	V1L03
カーネルバージョン	V1L04
ファイルシステムバージョン	V1L06
サブマイコンバージョン	13

DHCP が有効の場合は、“DHCP 設定” 項目が “有効” になり、“IP アドレス” などの項目には、DHCP サーバから割り当てられた現在のネットワーク設定が表示されます。

## 4.2.4 ログの表示

メニュー選択領域で、[ログの表示](#) をクリックすると、以下のようなログ情報が表示されます。ここでは、本装置のログを確認することができます。ログの意味については、下記をご参照ください。

☞ 参照 [Chapter 8 - ログ \(169 ページ\)](#)



[1 2 次へ>](#)

[ログのダウンロード](#)

ログのクリア

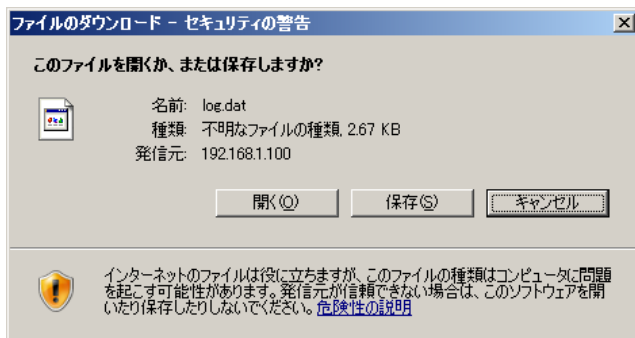
上記の番号表示は、ログファイルのページ数を示し、1 ページあたり 200KB のデータサイズで最大 10 ページ分までログが内部保存されます。番号が大きくなるにつれて古いログになります。“1” をクリックした場合に表示されるログが最新ログです。

4

Web  
インターフェース

## 4.2 情報表示項目

ログのダウンロード をクリックすると下記のようなダイアログが表示されます。[保存]ボタンをクリックし、保存先およびファイル名称を指定すると、ログをダウンロードすることができます。



[ログのクリア]ボタンをクリックすると蓄積されているログはクリアされます。

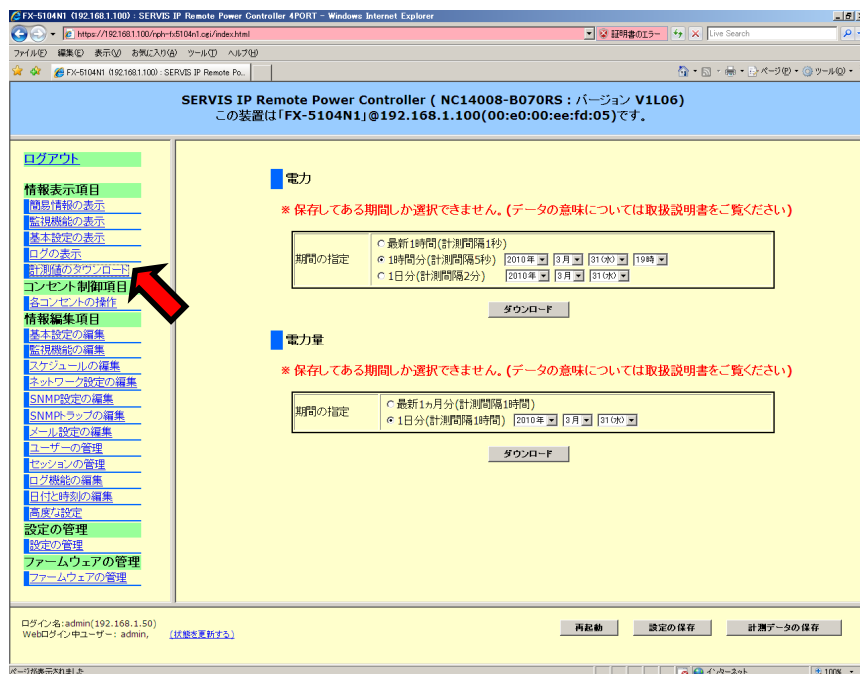
4

Web  
インター  
フェース



## 4.2.5 計測値のダウンロード

メニュー選択領域で、計測値のダウンロード をクリックすると、以下のような画面が表示されます。ここでは、本装置が計測した各コンセントの電力あるいは電力量を CSV 形式のファイルとして、ダウンロードすることができます。



4

Web  
インターフェース

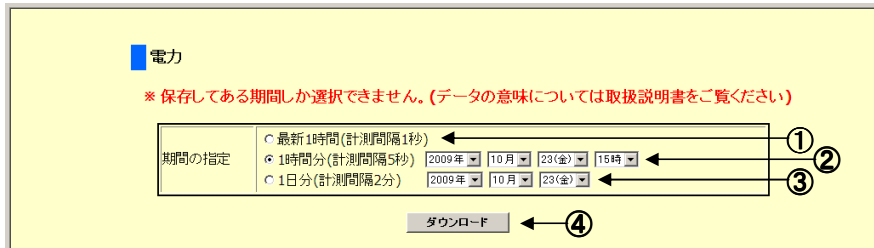
## 重要

また、本製品に添付の CD-ROM 内に格納されている Excel テンプレートを用いることにより、計測したデータをグラフ表示することができます。  
グラフ表示の方法については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_Excel テンプレートの使い方.pdf」をご参照ください。

## 4.2 情報表示項目

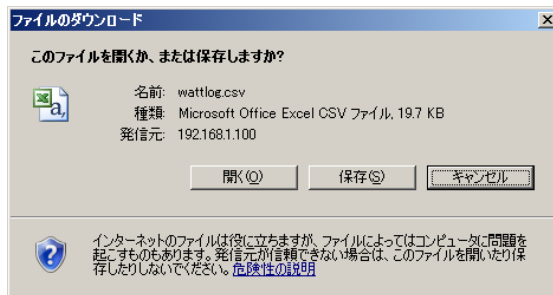
### 4.2.5.1 電力

ここでは、本装置が計測した電力値をダウンロードします。



項	項目名	説明
1	最新 1 時間 (計測間隔 1 秒)	直近 1 時間分の電力計測値を選択します。 ダウンロードされる CSV ファイルには、直近 1 時間における、各コンセントの 1 秒毎の電力計測値が含まれます。
2	1 時間分 (計測間隔 5 秒)	指定する日時、1 時間分の電力計測値を選択します。 例：リストボックスの日時指定で "2009 年 10 月 23 日 15 時" と設定している場合、2009/10/23 15:00~15:59 の間における、5 秒毎の電力計測値が含まれます。ただし、過去 1 ヶ月より前の計測値は保存していません。
3	1 日分 (計測間隔 2 分)	指定する日付、1 日分の電力計測値を選択します。 例：リストボックスの日付指定で "2009 年 10 月 23 日" と設定している場合、2009/10/23 00:00~23:59 の間における、2 分毎の電力計測値が含まれます。ただし、過去 1 ヶ月より前の計測値は保存していません。
4	[ダウンロード] ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1~3 項で選択した期間の電力計測値の CSV ファイルをダウンロードします。

ダウンロードする計測データの種類をラジオボタンで選択し、[ダウンロード]ボタンをクリックすると、下のようなダイアログが表示されます。[保存]ボタンをクリックします。



「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。ファイル名称と保存先を指定して計測値データファイルを保存します。

ダウンロードした電力計測値の CSV ファイルを Microsoft Excel で開くと下記のようなデータ構成になっています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	hostname	FX-5104N1							
2	MAC address	00e000ee.f005							
3	IP address	192.168.1.100							
4	unit	electric power[W]							
5									
6	date	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4				
7	2009/5/12 8:54	200	204	119	0				
8	2009/5/12 8:54	200	204	119	0				
9	2009/5/12 8:54	200	204	120	0				
10	2009/5/12 8:54	200	204	120	0				
11	2009/5/12 8:54	199	203	120	0				
12	2009/5/12 8:54	200	206	120	0				
13	2009/5/12 8:54	199	206	119	0				
14	2009/5/12 8:54	199	204	122	0				
15	2009/5/12 8:54	198	204	119	0				
16	2009/5/12 8:54	198	204	119	0				
17	2009/5/12 8:54	199	204	119	0				
18	2009/5/12 8:54	199	204	120	0				
19	2009/5/12 8:54	199	205	119	0				
20	2009/5/12 8:54	198	205	119	0				
21	2009/5/12 8:54	199	205	120	0				

Annotations in the image:

- Arrows point from rows 1-4 to the text: 装置名称 (Device Name), MAC アドレス (MAC Address), IP アドレス (IP Address).
- A bracket on the right side of rows 7-21 points to the text: A 列に示す日時に計測された各コンセントの電力値 (Power value measured at the date and time shown in column A for each outlet).

4

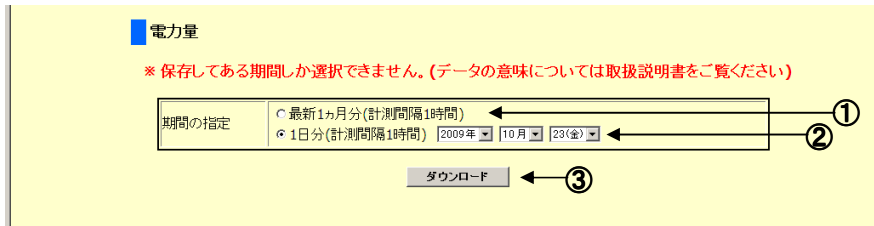
Web  
インターフェイス

ダウンロードしたデータをグラフ表示することができます。  
 グラフ表示の方法については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_Excel テンプレートの使い方.pdf」をご参照ください。

## 4.2 情報表示項目

### 4.2.5.2 電力量

ここでは、本装置が計測した電力量の値をダウンロードします。



項	項目名	説明
1	最新 1ヵ月分 (計測間隔 1 時間)	その月の 1 日から本日までの電力量計測値を選択します。 ダウンロードされる CSV ファイルには、その月の 1 日から本日までの各 コンセントの 1 時間毎の電力量計測値が含まれます。
2	1 日分 (計測間隔 1 時間)	指定する日付、1 日分の電力量計測値を選択します。 例: リストボックスの日付指定で "2009 年 10 月 23 日" と設定している 場合、2009 年 10 月 23 日、00:00~23:59 の間における、1 時間毎の 電力量計測値が含まれます。 ただし、過去 1 年より前の計測値は保存していません。
3	[ダウンロード] ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1, 2 項で選択した期間の電力量計測 値の CSV ファイルをダウンロードします。

ダウンロードする計測データの種類をラジオボタンで選択し、[ダウンロード]ボタンをクリックすると、下のようなダイアログが表示されます。[保存]ボタンをクリックします。



「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。ファイル名称と保存先を指定して計測値データファイルを保存します。

ダウンロードした電力量計測値の CSV ファイルを Microsoft Excel で開くと下記のようなデータ構成になっています。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	hostname	Fx5104N1							
2	MAC address	00:e0:00:ee:fd:05							
3	IP address	192.168.1.100							
4	unit	electric energy[Wh]							
5									
6	date	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4				
7	2009/5/1 0:00	0.38	50	24.06726	110				
8	2009/5/1 1:00	0.34	52	96.03147	86				
9	2009/5/1 2:00	0.38	46	27.22821	106				
10	2009/5/1 3:00	0.35	48	97.86662	125				
11	2009/5/1 4:00	0.31	48	4.195486	116				
12	2009/5/1 5:00	0.36	46	1.287653	110				
13	2009/5/1 6:00	0.4	45	30.51288	82				
14	2009/5/1 7:00	0.38	45	72.09141	98				
15	2009/5/1 8:00	1	45	82.26851	117				
16	2009/5/1 9:00	4.1	45	61.02629	97				
17	2009/5/1 10:00	4.9	48	3.077635	117				
18	2009/5/1 11:00	4	48	18.35962	99				
19	2009/5/1 12:00	4.5	47	67.41651	119				
20	2009/5/1 13:00	4.6	46	17.24748	125				
21	2009/5/1 14:00	4.7	45	69.69033	106				

Annotations in the image:

- Lines 1-4 are grouped with a bracket and labeled:
  - 装置名称 (Device Name)
  - MAC アドレス (MAC Address)
  - IP アドレス (IP Address)
- Lines 7-21 are grouped with a bracket and labeled:
  - A 列に示す日時から (From the date and time shown in column A)
  - 1 時間の間に計測された (Measured within 1 hour)
  - 各コンセントの消費電力量 (Electric energy consumption of each outlet)

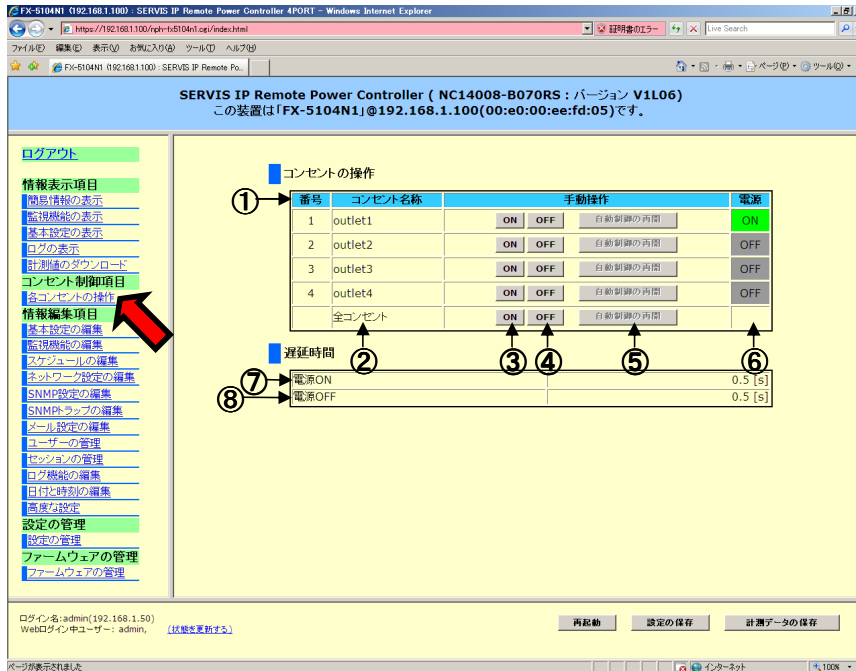
4

Webインターフェース

ダウンロードしたデータをグラフ表示することができます。  
 グラフ表示の方法については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_Excel テンプレートの使い方.pdf」をご参照ください。

### 4.3.1 各コンセントの操作

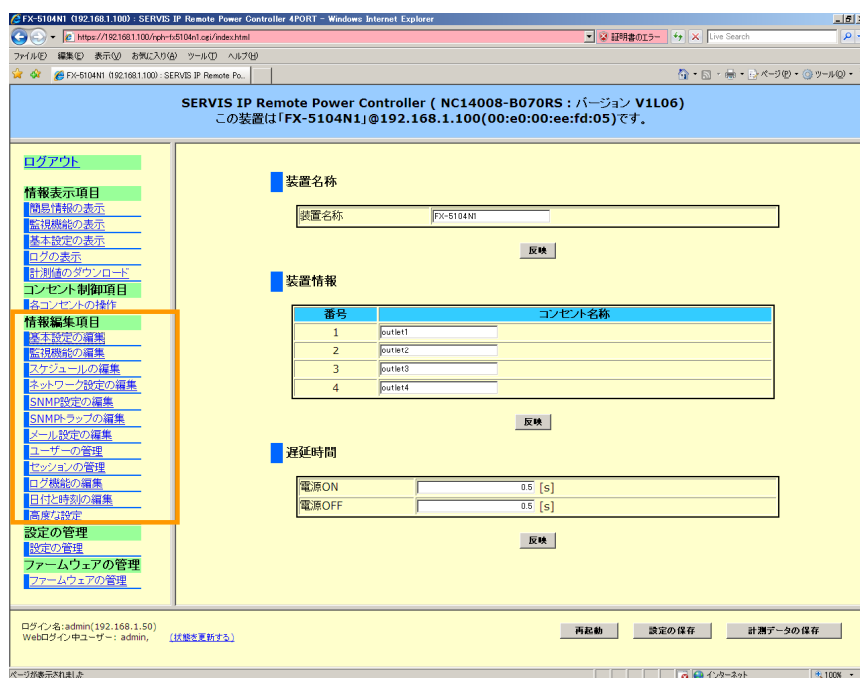
メニュー選択領域で、各コンセントの操作 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、各出力コンセントを手動で制御することができます。



項	項目名	説明
1	番号	本製品の背面にある 1 から 4 の各出力コンセントを示します。
2	コンセント名称	各コンセントに設定された名称を示します。
3	[ON]ボタン	このボタンをクリックすると、各コンセントの電源が ON になります。全コンセントの [ON] ボタンをクリックすると、1 から 4 の全コンセントの電源が ON になります。
4	[OFF]ボタン	このボタンをクリックすると、各コンセントの電源が OFF になります。全コンセントの [OFF] ボタンをクリックすると、1 から 4 の全コンセントの電源が OFF になります。
5	[自動制御の再開]ボタン	上記の [ON] あるいは [OFF] ボタンをクリックすると [自動制御の再開] ボタンがアクティブになります。[自動制御の再開] ボタンがアクティブの場合、そのコンセントのスケジュール管理設定は動作しません。[自動制御の再開] ボタンをクリックすると、ボタンはグレイアウト状態になり、スケジュール管理設定が有効になります。 参照 4.4.3 スケジュールの編集 (57 ページ)
6	電源	各出力コンセントの現在の状態を ON (緑色)/OFF (灰色) で示します。
7	電源 ON 遅延時間	全コンセントの ON 操作を行った際に、1 から 4 のコンセントが順番に ON になる時間間隔を示します (0.1 秒単位)。
8	電源 OFF 遅延時間	全コンセントの OFF 操作を行った際に、1 から 4 のコンセントが順番に OFF になる時間間隔を示します (0.1 秒単位)。

## 4.4. 情報編集項目

メニュー選択領域の「情報編集項目」では、各種機能設定を行うことができます。



4

Web  
インターフェイス

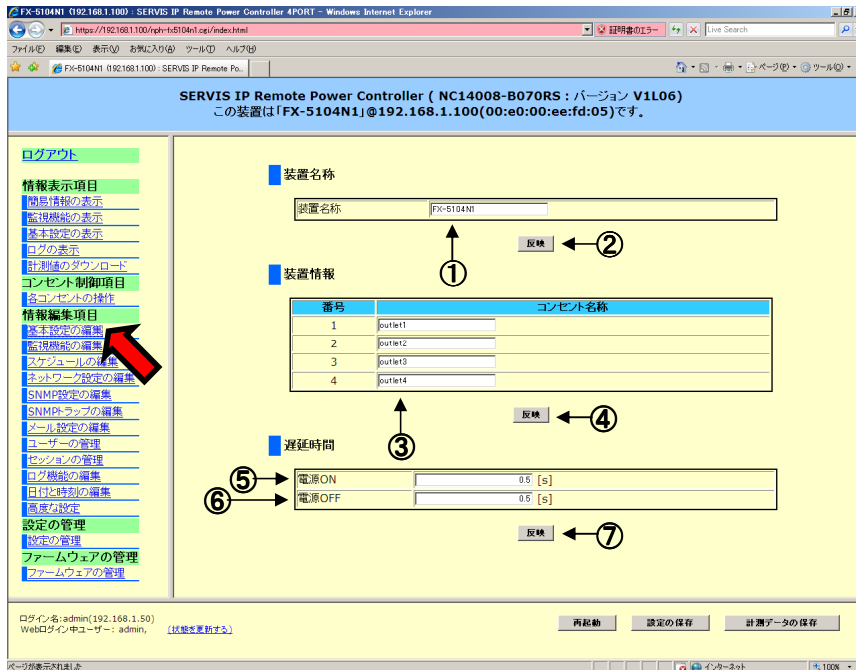
- 基本設定の編集
- 監視機能の編集
- スケジュールの編集
- ネットワーク設定の編集
- SNMP 設定の編集
- SNMPトラップの編集
- メール設定の編集
- ユーザーの管理
- セッションの管理
- ログ機能の編集
- 日付と時刻の編集
- 高度な設定

各項目について、次項から説明します。

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.1 基本設定の編集

メニュー選択領域で、**基本設定の編集** をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、本装置の名称および各コンセント名称の設定を行うことができます。



項	項目名	説明
1	装置名称	本製品の装置名称を設定します。31文字まで設定可能です。
2	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、「装置名称」テキストボックスに入力した内容に変更します。
3	コンセント名称	各出力コンセントの名称を設定します。31文字まで設定可能です。
4	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、「コンセント名称」テキストボックスに入力した内容に変更します。
5	電源 ON 遅延時間	全コンセントの ON 操作を行った際に、1 から 4 のコンセントが順番に ON になる時間間隔を設定します (0.1 秒単位)。0.1 ~ 60 秒の範囲で設定可能です。
6	電源 OFF 遅延時間	全コンセントの OFF 操作を行った際に、1 から 4 のコンセントが順番に OFF になる時間間隔を設定します (0.1 秒単位)。0.1 ~ 60 秒の範囲で設定可能です。
7	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、遅延時間設定において、「電源 ON」および「電源 OFF」テキストボックスに入力した内容に変更します。

### 重要

装置名称の変更を反映させるには、設定の保存 および 再起動が必要です。Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] および [再起動] ボタンをそれぞれクリックしてください。

参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)、4.9 再起動 (103 ページ)

4

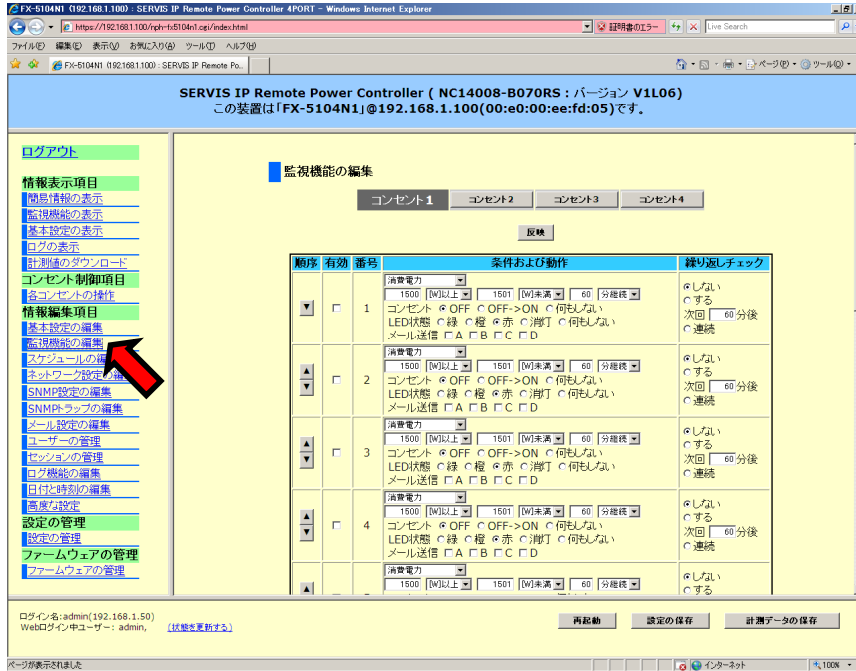
Web インターフェース



4.4.2 監視機能の編集

メニュー選択領域で、監視機能の編集 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。

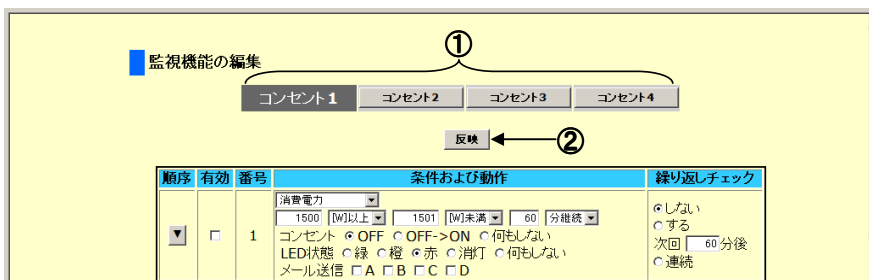
本製品は、各コンセントに接続している対象機器の消費電力値および電力量を計測・監視する機能を持ち、消費電力値あるいは電力量を閾値として条件設定しておくことにより、その条件に一致した場合にコンセントの出力を停止したり、メール通知を行ったりすることができます。本ページでは、監視機能に関する条件設定を行います。



4  
Web  
インター  
フェース

4.4.2.1 監視機能の編集

ここでは、各出力コンセントの監視条件の設定を行います。監視設定は、コンセントごとに12件まで設定することができます。



## 4.4 情報編集項目

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

項	項目名	説明
1	コンセント1~4 ボタン	監視対象のコンセントを指定します。 例えば、コンセント 2 番について、監視条件を設定する場合は、[コンセント 2]ボタンをクリックし、以下の設定を行います。
2	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、監視設定が反映されます。
3	順序	↑, ↓ ボタンをクリックすることにより、設定番号が入れ替わります。 各コンセントにつき、12 番までの監視条件を設定することができます。 <b>1 番の監視設定から順番に実行されます。</b>
4	有効	監視設定の "有効"/"無効" を指定します。 チェックボックスにチェックが入っている状態で監視が有効となります。
5	番号	監視設定番号 1~12 を示します。
6	監視種類	監視する計測値の種類を指定します。 リストボックスから、"消費電力"、"1 時間の総電力量"、"1 日の総電力量"、"1 カ月の総電力量" のいずれかを選択します。  監視種類の各内容は、下記のとおりです。 消費電力: 消費電力値を監視します。 1 時間の総電力量: 毎時 00 分から 59 分までの 1 時間の総電力量を監視します。00 分で値はリセットされます。 1 日の総電力量: 00 時 00 分から 23 時 59 分までの 1 日の総電力量を監視します。00 時 00 分で値はリセットされます。 1 カ月の総電力量: 装置内蔵時刻の月の 1 日から末日までの 1 カ月の総電力量を監視します。月変わりではリセットされます。
7	計測値範囲	監視する消費電力あるいは総電力量の閾値を範囲設定します。 例えば、250[W]以上、350[W]未満 のように指定します。 監視種類が、"消費電力" の場合、単位は [W] となります。 計測条件が、"1 時間の総電力量"、"1 日の総電力量"、"1 カ月の総電力量" の場合、単位は [Wh] あるいは [kWh] を選択できます。
8	継続時間	第 7 項の計測値範囲で「消費電力」を設定した場合、監視する期間を指定します。1~60 分の範囲で指定することができます。 計測条件で、「消費電力」を選択した場合のみ、継続時間を[分]単位で指定することができます。その他の計測条件の場合は、本項目はグレイアウト状態になります。
9	コンセント 動作	監視条件に一致した場合のコンセントに関する動作を指定します。 "OFF"、"OFF->ON"、"何もしない" のいずれかをラジオボタンで選択します。  監視条件に一致した場合の各動作内容は、下記のとおりです。 OFF: コンセントを OFF にします。 OFF->ON: コンセントを OFF にし、10 秒後に再び ON にします。 何もしない: コンセントの ON/OFF 状態を維持し、何も動作しません。

4

10	LED 状態 動作	<p>監視条件に一致した場合の LED 表示に関する動作を指定します。 "緑"、"橙"、"赤"、"消灯"、"何もしない" のいずれかをラジオボタンで選択します。</p> <p>監視条件に一致した場合の各動作内容は、下記のとおりです。          緑: コンセント番号の LED を緑に点灯させます。          橙: コンセント番号の LED を橙に点灯させます。          赤: コンセント番号の LED を赤に点灯させます。          消灯: コンセント番号の LED を消灯させます。          何もしない: コンセント番号の LED の色および点灯/消灯状態を維持し、何も動作しません。</p>
11	メール送信 動作	<p>監視条件に一致した場合のメール送信に関する動作を指定します。 メールの送信先および送信内容についてそれぞれ異なる "A"、"B"、"C"、"D" の 4 種類についてチェックボックスで選択します。複数の選択も可能です。</p> <p>監視条件に一致してもメール送信を実行しない場合は、"A"～"D" の全てのチェックボックスのチェックを外します。 メールの送信先および送信内容については、次章「メール設定の編集」で設定します。</p>
12	繰り返しチェック	<p>本項目では、4～11 項について設定した監視条件を 1 回限り、または複数回 繰り返して実行するかを設定することができます。"しない"、"する"、"連続" のいずれかをラジオボタンで選択します。また、"する" を選択している場合、"次回～分後" のテキストボックスに繰り返し間隔の時間(分)を設定することができます。</p> <p>各設定内容は、下記の通りです。          しない: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、その条件を満たし続けている限りは、繰り返して監視を実行しません。          ただし、その監視条件の範囲を外れて、再度監視条件に一致した場合は、監視は実行されます。          する: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、指定の間隔を待ち、再度監視を開始します。監視を開始するまでの時間間隔は、"次回～分後" のテキストボックスで指定します。          連続: 監視条件に一致して、指定の動作を 1 回実行した後、すぐに再度監視を開始します。</p>

## 重要

コンセントの状態が OFF の時は、そのコンセントの監視は実行されません。監視条件やスケジュール動作の実行によりコンセントが OFF となった場合も 同様に監視は実行されません。

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。

Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。

 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)

監視条件に一致した場合の動作として、コンセント"OFF" が実行されると、「各コンセントの操作」ページにおいて、そのコンセントの [自動制御の再開] ボタンがアクティブになり、そのコンセントのスケジュール管理による制御は動作しません。[自動制御の再開] ボタンをクリックすると ボタンはグレイアウト状態になり、スケジュール管理設定が有効になります。

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.2.2 ping 送信先の編集

本製品は、ネットワーク上の機器に対して、ICMP ping パケットを送信することができます。本機能を利用して、各コンセントに接続された対象機器がネットワークに接続されている場合、死活監視を行うことができます。ここでは、ping の送信先 IP アドレスの設定および送信を実行します。

ping送信先の編集		操作	
IPアドレス		反映	送信
1	192.168.1.200	反映	送信
2	192.168.1.150	反映	送信
3	0.0.0.0	反映	送信
4	0.0.0.0	反映	送信

項	項目名	説明
1	IPアドレス	ping を送信する IP アドレスを入力します。1~4 の IP アドレスを指定することができます。
2	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、指定した IP アドレス設定に変更されます。
3	[送信]ボタン	このボタンをクリックすると、指定の IP アドレスに対して、ping が送信されます。

[送信]ボタンをクリックして、ping の応答があった場合は、下記のように表示されます。

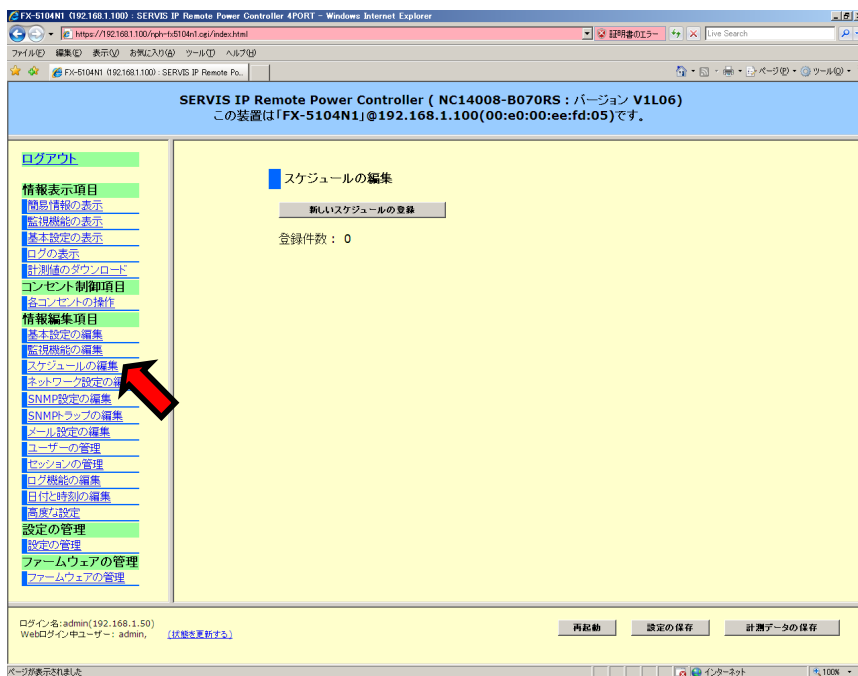
[送信]ボタンをクリックして、ping の応答がない場合は、下記のように表示されます。

### 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。  
 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)

## 4.4.3 スケジュールの編集

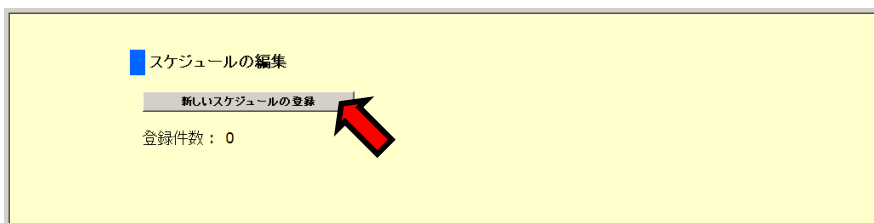
メニュー選択領域で、スケジュールの編集 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、コンセントのON/OFFをスケジュール管理するための設定を行うことができます。



4

Web  
インターフェース

新規スケジュールを登録する場合は、「新しいスケジュールの登録」ボタンをクリックします。



## 4.4 情報編集項目

下のような、「スケジュールの詳細」ページが表示されます。ここでスケジュールの設定を行います。

項	項目名	説明
1	番号	登録スケジュールの追番が表示されます。スケジュールは、20まで登録することができます。
2	有効	このスケジュールを登録と同時に有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。
3	コンセント	制御対象のコンセント番号にチェックを入れます。
4	●1回	ある特定の日時を指定して1回だけコンセントの制御を行う場合、本項目のラジオボタンを選択し、その年・月・日・時間をドロップダウンリストで設定します。
5	●繰り返し予定 毎日	毎日決まった日時にコンセントの制御を行う場合、本項目のラジオボタンを選択します。
6	●繰り返し予定 毎月	毎月決まった日時にコンセントの制御を行う場合、本項目のラジオボタンを選択し、その日付をドロップダウンリストで設定します。
7	●繰り返し予定 毎週	毎週決まった日時にコンセントの制御を行う場合、本項目のラジオボタンを選択し、その曜日をチェックボックスで選択します。 "祝" ラジオボタンは、祝日を意味します。
8	時刻	コンセントの ON/OFF を実行する時刻をドロップダウンリストで設定します。
9	期間	このスケジュールの有効期間の開始年月日および終了年月日をそれぞれドロップダウンリストで設定します。"期間" チェックボックスにチェックが入っている状態で、期間の設定が有効となります。
10	●コンセントの 状態	設定した日時が来た場合、コンセントを ON にするか、OFF にするかをドロップダウンリストで選択します。
11	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、スケジュール設定が登録・変更されます。
12	[キャンセル]ボタン	このボタンをクリックすると、スケジュールを登録・変更せずに「スケジュールの編集」画面に戻ります。

4

Web  
インター  
フェース

下記の設定例のようにスケジュール設定を行うことができます。

設定例 1: 毎日、17 時 30 分に コンセント 1, 2 を ON にする。  
スケジュール設定の有効期限は、2010 年 3 月 31 日～2019 年 4 月 1 日

The screenshot shows the 'スケジュールの詳細' (Schedule Details) form. It includes a table for '番号' (Number), '有効' (Valid), and 'コンセント' (Outlet). The 'スケジュール' (Schedule) section contains the following settings:

- 回数 (Frequency): 1回 (Once)
- 開始日時 (Start Date/Time): 2010年 3月 31日 0時 0分
- 繰り返し予定 (Repeat Schedule): 毎日 (Daily)
- 毎月 (Monthly): 日 (Day)
- 毎週 (Weekly): 月 (Monday), 火 (Tuesday), 水 (Wednesday), 木 (Thursday), 金 (Friday), 土 (Saturday), 日 (Sunday), 祝 (Holiday)
- 時刻 (Time): 17時 30分
- 期間 (Period): 2010年 3月 31日 ~ 2019年 4月 1日
- コンセントの状態 (Outlet Status): ON

Buttons for '反映' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) are visible at the bottom.

[反映]ボタンをクリックするとスケジュールが登録されます。

設定例 2: 毎週 月、火、水、木曜日、20 時 00 分に コンセント 2, 4 を OFF にする。  
スケジュール設定の有効期限は、2010 年 3 月 31 日～2015 年 4 月 1 日

The screenshot shows the 'スケジュールの詳細' (Schedule Details) form. It includes a table for '番号' (Number), '有効' (Valid), and 'コンセント' (Outlet). The 'スケジュール' (Schedule) section contains the following settings:

- 回数 (Frequency): 1回 (Once)
- 開始日時 (Start Date/Time): 2010年 3月 31日 0時 0分
- 繰り返し予定 (Repeat Schedule): 毎日 (Daily)
- 毎月 (Monthly): 日 (Day)
- 毎週 (Weekly): 月 (Monday), 火 (Tuesday), 水 (Wednesday), 木 (Thursday), 金 (Friday), 土 (Saturday), 日 (Sunday), 祝 (Holiday)
- 時刻 (Time): 20時 0分
- 期間 (Period): 2010年 3月 31日 ~ 2015年 4月 1日
- コンセントの状態 (Outlet Status): OFF

Buttons for '反映' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) are visible at the bottom.

[反映]ボタンをクリックするとスケジュールが登録されます。

4

Web  
インターフェース

## 4.4 情報編集項目


スケジュールが登録されると、下のように "スケジュールの編集" ページにリスト表示されます。

スケジュール リスト上の各操作ボタンの内容は、下記のとおりです。

項	項目名	説明
1	[詳細]ボタン	このボタンをクリックすると、"スケジュールの詳細" ページに移動します。"スケジュールの詳細" ページで再度 スケジュール設定の変更を行うことができます。
2	[削除]ボタン	このボタンをクリックすると、スケジュール内容が削除されます。
3	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、本リスト上のスケジュールの設定変更を反映します。

スケジュールは、20 件まで登録することができます。

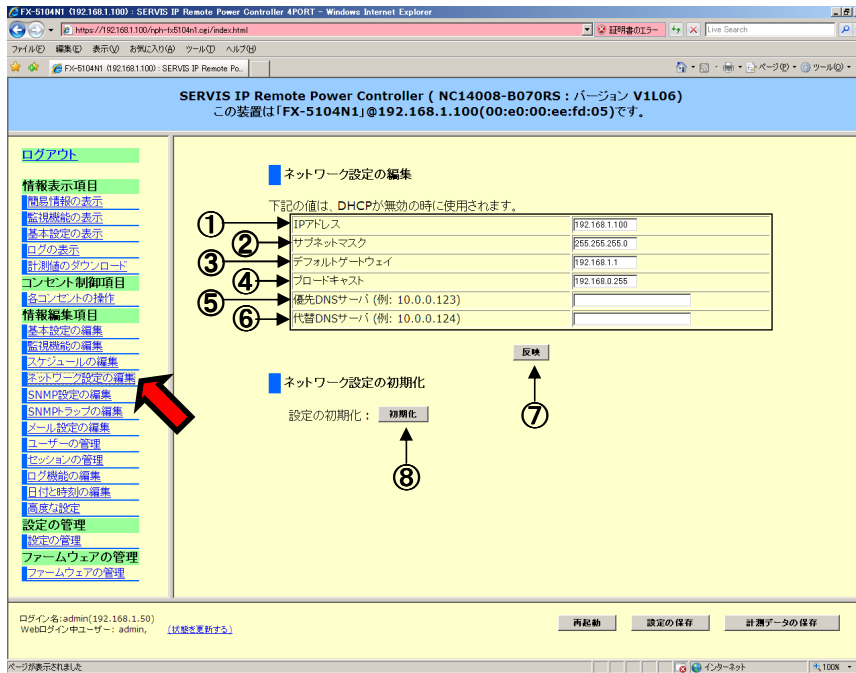
### 重要

本設定の変更を保存させるには、"設定の保存" が必要です。  
 Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。  
 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)



## 4.4.4 ネットワーク設定の編集

メニュー選択領域で、ネットワーク設定の編集 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、本製品のネットワーク設定を行うことができます。



4

Web  
インターフェース

項	項目名	説明
1	IP アドレス	本装置の IP アドレスを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
2	サブネットマスク	本装置のサブネットマスクを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
3	デフォルトゲートウェイ	本装置のデフォルトゲートウェイを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
4	ブロードキャスト	本装置のブロードキャストを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
5	優先 DNS サーバ	本装置が名前解決に使用する優先 DNS サーバの IP アドレスを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
6	代替 DNS サーバ	本装置が名前解決に使用する代替 DNS サーバの IP アドレスを指定します。DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、この項目の設定値は無視されます。
7	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記項目に入力した設定値に変更します。
8	[初期化]ボタン	このボタンをクリックすると、ネットワーク設定を初期設定に戻します。初期設定を反映させるためには、再起動が必要です。

### 重要

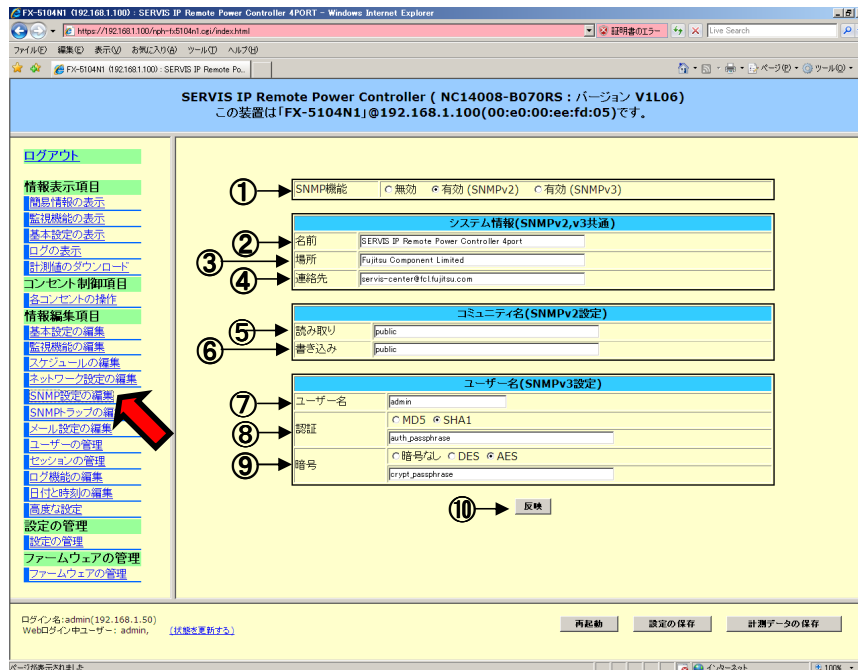
ネットワーク設定の変更を反映させるには、“設定の保存” および “再起動” が必要です。Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] および [再起動] ボタンをそれぞれクリックしてください。

☞ 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)、4.9 再起動 (103 ページ)

## 4

### 4.4.5 SNMP 設定の編集

メニュー選択領域で、SNMP 設定の編集 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。本製品は、SNMP エージェント機能を持ち、本製品を管理するための情報を提供します。本設定画面では、SNMP 機能に関する設定を行うことができます。



本製品に添付の CD-ROM 内にプライベート MIB ファイル「NC14008-B070-MIB.txt」が格納されています。必要に応じてご利用ください。

また、プライベート MIB の詳細については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_MIB リファレンス」をご参照ください。

項	項目名	説明
1	SNMP 機能	SNMP 機能の "有効"/"無効" を設定します。 SNMPv2 を有効にする場合は、"有効(SNMPv2)" を選択します。 SNMPv3 を有効にする場合は、"有効(SNMPv3)" を選択します。 ラジオボタンで選択してください。
2	システム情報 名前	本項目は、system.sysName の値として送信されます。 この装置の名称を入力してください。63 文字まで設定可能です。
3	システム情報 場所	本項目は、system.sysLocation の値として送信されます。 この装置の場所を入力してください。63 文字まで設定可能です。
4	システム情報 連絡先	本項目は、system.sysContact の値として送信されます。 この装置に関して誰と連絡をとるべきであることを説明するものです。通常、電子メールアドレスを含む値となります。63 文字まで設定可能です。
5	コミュニティ名 読み取り	リードオンリーのコミュニティ名を設定します。 本項目を空白に設定した場合、読み取りでのアクセスが不可となります。 63 文字まで設定可能です。初期設定値は、"public" です。
6	コミュニティ名 書き込み	リード/ライトのコミュニティ名を設定します。 本項目を空白に設定した場合、書き込みでのアクセスが不可となります。 63 文字まで設定可能です。初期設定値は、"public" です。
7	SNMPv3 設定 ユーザー名	SNMPv3 で利用するユーザー名を設定します。 31 文字まで設定可能です。初期設定値は、"admin" です。
8	SNMPv3 設定 認証	SNMPv3 認証プロトコルの指定、および認証パスワードを設定します。 認証プロトコルは、"MD5" あるいは "SHA1" から選択します。 認証パスワードは、9 文字以上、63 文字まで設定可能です。
9	SNMPv3 設定 暗号	SNMPv3 暗号プロトコルの指定、および暗号パスワードを設定します。 暗号プロトコルは、"暗号なし"、"DES" あるいは "AES" から選択します。 暗号パスワードは、9 文字以上、63 文字まで設定可能です。
10	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、本画面上で設定した設定値に変更します。

## 重要

SNMP 設定の変更を反映させるには、"設定の保存" および "再起動" が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] および [再起動] ボタンをそれぞれクリックしてください。

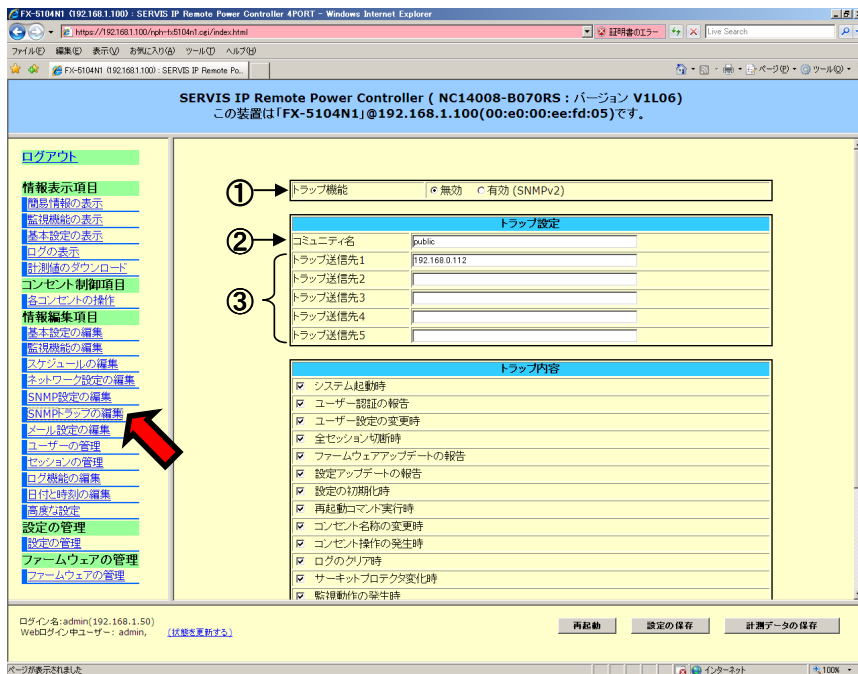
 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)、[4.9 再起動 \(103 ページ\)](#)

## 重要

SNMPv3 の認証あるいは暗号パスワードを設定した直後の本装置の起動時には、パスワード生成のため、時間がかかることがあります。

### 4.4.6 SNMPトラップの編集

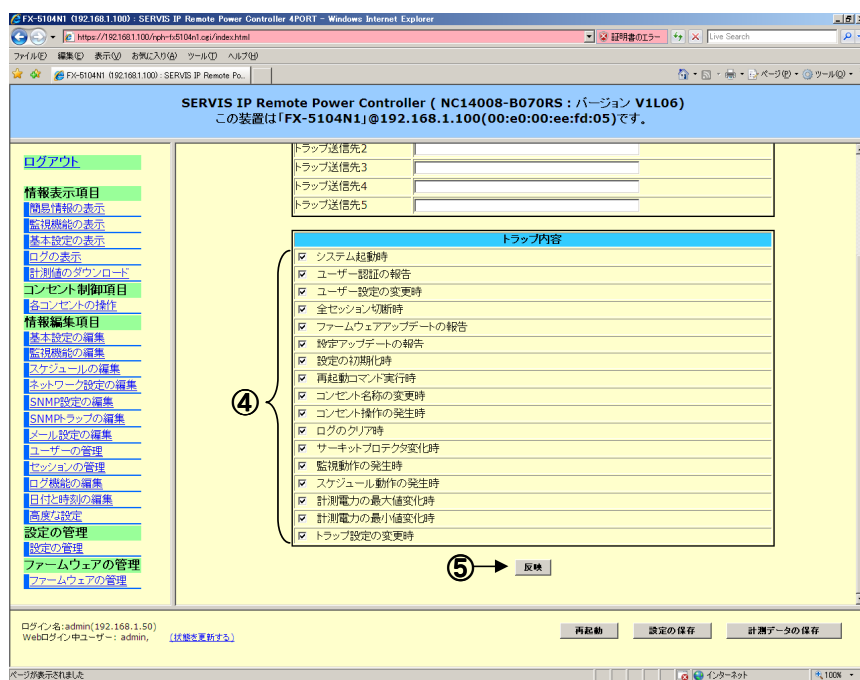
メニュー選択領域で、**SNMPトラップの編集** をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。本製品は、イベント通知として SNMP トラップ通知が可能です。ここでは、SNMP トラップ通知に関する設定を行います。



本製品に添付の CD-ROM 内にトラップ用 MIB 「NC14008-B070-TRAP-MIB.txt」が格納されています。必要に応じてご利用ください。

また、トラップ用 MIB の詳細については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_MIB リファレンス」をご参照ください。

項	項目名	説明
1	トラップ機能	SNMP トラップ通知機能の "有効"/"無効" を設定します。有効にする場合は、"有効 (SNMP)" ラジオボタンで選択してください。
2	トラップ設定 コミュニティ名	SNMP トラップのコミュニティ名を設定します。
3	トラップ設定 トラップ送信先	SNMP トラップの送信先 IP アドレスを設定します。送信先は 5 つまで設定することができます。



4

Web  
インターフェース

項	項目名	説明
4	トラップ内容	SNMPトラップ通知を行うイベントを選択します。 17種類の中から通知を実施するイベントのチェックボックスにチェックを入れます。
5	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、本画面上で設定した設定値に変更します。

## 重要

SNMP設定の変更を反映させるには、「設定の保存」および「再起動」が必要です。  
Webインターフェースの右下に表示される「設定の保存」および「再起動」ボタンをそれぞれクリックしてください。

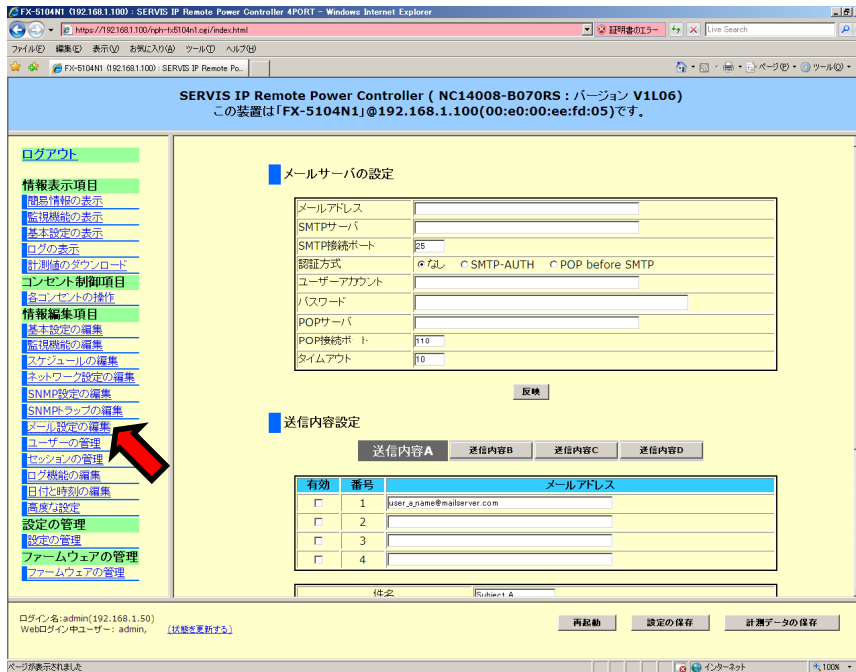
参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)、[4.9 再起動 \(103 ページ\)](#)

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.7 メール設定の編集

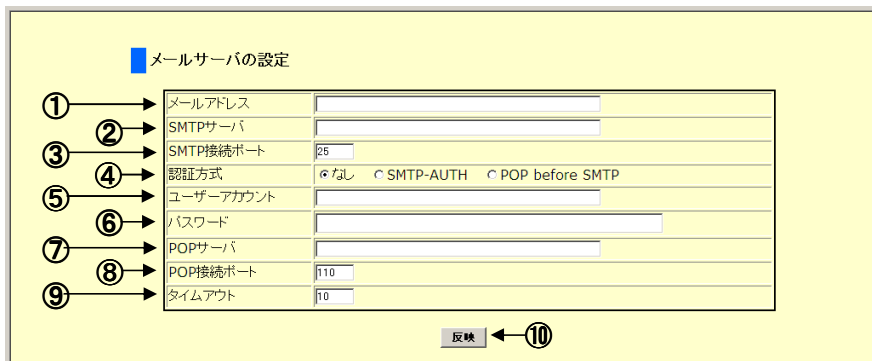
メニュー選択領域で、**メール設定の編集** をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、各コンセントの監視機能において監視条件に一致した場合に、メール通知を実行するためのメールサーバ、送信先およびメール内容の設定を行います。

☞ 参照 4.4.2 監視機能の編集 (53 ページ)



#### 4.4.7.1 メールサーバの設定

ここでは、本装置からメールを送信するメールサーバの設定を行います。




項	項目名	説明
1	メールアドレス	メール送信元のメールアドレスを指定します。
2	SMTP サーバ	SMTP サーバの IP アドレスを指定します。
3	SMTP 接続ポート	SMTP サーバのポート番号を指定します。 初期設定値は、"25" です。
4	認証方式	SMTP サーバとの認証方式を指定します。"なし"、"SMTP-AUTH"、 "POP before SMTP" のいずれかを選択します。 初期設定値は、"なし" です。 "SMTP-AUTH" は、「AUTH PLAIN」認証のみとなっています。
5	ユーザーアカウント	認証方式が"SMTP-AUTH" あるいは "POP before SMTP" の場合に、 認証を行うユーザーアカウントを指定します。63 文字まで設定可能です。
6	パスワード	認証方式が"SMTP-AUTH" あるいは "POP before SMTP" の場合に、 認証を行うユーザーアカウントのパスワードを指定します。 入力は、「●」で表示されます。63 文字まで設定可能です。
7	POP サーバ	認証方式が "POP before SMTP" の場合に、参照される POP サーバの IP アドレスを指定します。
8	POP 接続ポート	認証方式が "POP before SMTP" の場合に、参照される POP サーバの ポート番号を指定します。初期設定値は、"110" です。
9	タイムアウト	メールサーバへのアクセスタイムアウトを設定します。初期設定値は "10" [秒]です。
10	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1~9 項で設定した値に変更します。

### 重要

"SMTP 接続ポート" および "POP 接続ポート" は、ご利用のメールサーバの設定に合わせて指定して下さい。また、"SMTP-AUTH" でサポートしているユーザー認証方式は「AUTH PLAIN」です。「AUTH-LOGIN」、「AUTH CRAM-MD5」等には未対応です。

### 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存]ボタンをクリックしてください。  
 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.7.2 送信内容設定

ここでは、メールの送信先 および 送信するメール内容を設定します。

項	項目名	説明
1	送信内容 選択ボタン	[送信内容 A]、[送信内容 B]、[送信内容 C]、[送信内容 D]を指定するためのボタンです。[送信内容 B]ボタンをクリックすると、送信内容 B の設定内容が表示され、編集することができます。
2	有効	通知先へのメール送付の "有効"/"無効" を指定します。チェックボックスにチェックが入っている状態でメール送付が有効となります。
3	番号	送信先メールアドレスは、[送信内容 A]、[送信内容 B]、[送信内容 C]、[送信内容 D]のそれぞれにおいて、4 つまで設定することができます。
4	メールアドレス	通知先のメールアドレスを指定します。63 文字まで設定可能です。
5	件名	メールの件名を指定します。日本語(マルチバイト文字)を含め、20 文字まで設定可能です。
6	本文	メールの本文内容を指定します。日本語(マルチバイト文字)を含め、64 文字まで設定可能です。
7	送信先 (文字コード)	送信メールの文字コードを下記 3 種類の中からラジオボタンで選択します。 ISO-2022-JP : ISO-2022-JP 文字コードで送信します。通常は、本設定を選択してください。 UTF-8 : UTF-8 文字コードで送信します。 EUC-JP : EUC-JP 文字コードで送信します。
8	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると 上記 2~7 項で設定した値を反映させます。
9	[送信テスト]ボタン	このボタンをクリックすると、本設定ページの現在の設定内容でテストメール送信が実行されます。



## 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
 Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。  
 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)

例として "送信内容 B" に、下記の設定を行う手順を示します。

- ・メール送信先 : user\_1@test.com および master\_1@test.com
- ・件名 : 消費電力値異常
- ・本文 : 装置の消費電力値が監視閾値を超えました。

1. Web インターフェースの "メール設定の編集" ページにおいて、[送信内容 B] ボタンをクリックして、現在の設定内容を表示します。

送信内容設定

送信内容A 送信内容B 送信内容C 送信内容D

有効	番号	メールアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	1	user_b_name@mailserver.com
<input type="checkbox"/>	2	
<input type="checkbox"/>	3	
<input type="checkbox"/>	4	

件名

本文

送信先(文字コード)

- ISO-2022-JP(デフォルト)
- UTF-8
- EUC-JP

反映

送信テスト

## 4

## 4.4 情報編集項目

2. "メールアドレス"項目に送信先のメールアドレスを入力し、「有効」チェックボックスにチェックを入れます。さらに"件名"および"本文"項目にそれぞれ指定の文字列を入力し、その後、[反映]ボタンをクリックします。

送信内容設定

送信内容A 送信内容B 送信内容C 送信内容D

有効	番号	メールアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	1	user_1@test.com
<input checked="" type="checkbox"/>	2	master_1@test.com
<input type="checkbox"/>	3	
<input type="checkbox"/>	4	

件名 消費電力値異常

本文 装置の消費電力値が監視閾値を超えました。

送信先(文字コード)  
 ISO-2022-JP(デフォルト)  
 UTF-8  
 EUC-JP

送信テスト

反映

3. 変更した設定を内部保存するために、Web インターフェース右下の[設定の保存]ボタンをクリックします。

送信内容設定

送信内容A 送信内容B 送信内容C 送信内容D

有効	番号	メールアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	1	user_1@test.com
<input checked="" type="checkbox"/>	2	master_1@test.com
<input type="checkbox"/>	3	
<input type="checkbox"/>	4	

件名 消費電力値異常

本文 装置の消費電力値が監視閾値を超えました。

送信先(文字コード)  
 ISO-2022-JP(デフォルト)  
 UTF-8  
 EUC-JP

送信テスト

反映

再起動 設定の保存 計測データの保存

以上で、「送信内容 B」の設定は完了です。

[送信テスト]ボタンをクリックすることにより、正常にメールが送信されるか確認することができます。

"監視機能の編集" ページにおいて、監視動作として メール送信の "B" にチェックを入れると、監視条件に一致した場合に上記設定内容にてメールが送信されます。

順序	有効	番号	条件および動作	繰り返しチェック
▼	<input type="checkbox"/>	1	消費電力 <input type="text" value="1500"/> [W]以上 <input type="text" value="1501"/> [W]未満 <input type="text" value="60"/> 分継続 コンセント <input checked="" type="radio"/> OFF <input type="radio"/> OFF->ON <input type="radio"/> 何もしない LED状態 <input type="radio"/> 緑 <input checked="" type="radio"/> 橙 <input type="radio"/> 赤 <input type="radio"/> 消灯 <input type="radio"/> 何もしない メール送信 <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する 次回 <input type="text" value="60"/> 分後 <input type="radio"/> 連続

4

監視条件による動作がメール送信に設定されている場合、下記のようなメール内容が送信されます。

From: "FX-5104N1" <servis-center@fcl.fujitsu.com>	①
To: user_1@test.co.jp	②
Subject: 消費電力値異常	③
-----	
時刻: 2009/04/14 10:42:13	④
IP アドレス: 10.74.119.100	⑤
MAC アドレス: (00:e0:00:ee:fd:05)	⑥
コンセント1番の消費電力が 250[W]以上 350[W]未満 60分経過しました (計測値: 315[W])。	⑦
[通知内容] (例): 装置 A の消費電力値が監視閾値を超えました。	⑧

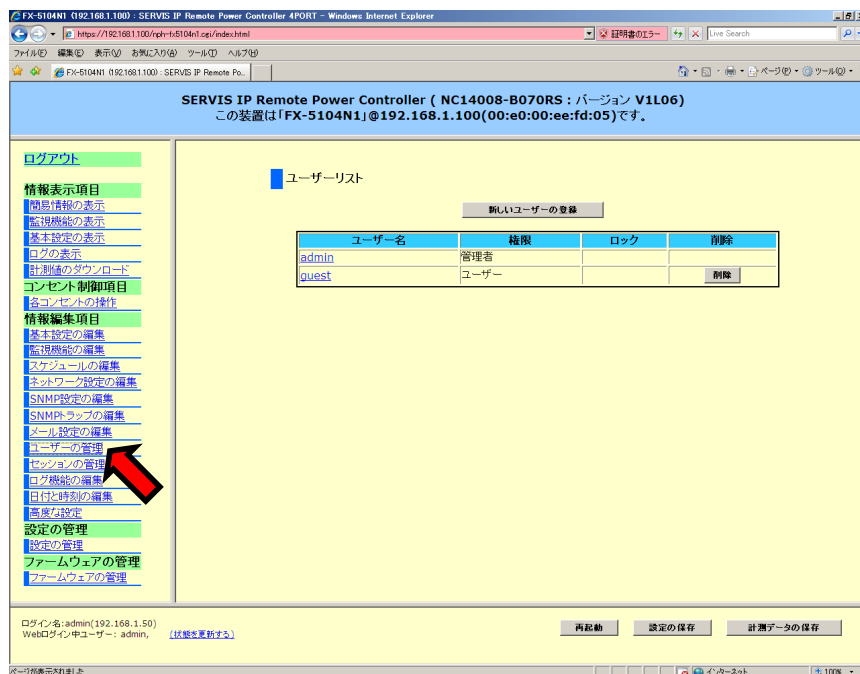
Web  
インターフェイス

項	項目名	説明
1	送信元(From)	メール設定の編集ページの ■メールサーバの設定 "メールアドレス" 項目で設定されているアドレスが表示されます。
2	送信先(To)	送信先のメールアドレスです。 メール設定の編集ページの ■送信内容設定 "メールアドレス" 項目で設定されているアドレスにメール送信されます。
3	件名(Subject)	メール設定の編集ページの ■送信内容設定 "件名" 項目で設定されている文字列が表示されます。
4	時刻	監視条件に一致した時刻が表示されます。
5	IP アドレス	本装置の IP アドレス が表示されます。
6	MAC アドレス	本装置の MAC アドレス が表示されます。

7	監視結果	<p>メール送信の原因となった監視条件が表示されます。</p> <p>[消費電力の監視条件を満たした場合] "コンセント&lt;p&gt;番の消費電力が &lt;o&gt;[W]以上 &lt;u&gt;[W]未満 &lt;c&gt;分経過しました(計測値:&lt;k&gt;[W])。"</p> <p>[1時間あたりの総電力量の監視条件を満たした場合] "コンセント&lt;p&gt;番の1時間あたりの消費電力量が &lt;o&gt;[Wh]以上 &lt;u&gt;[Wh]未満になりました(計測値:&lt;k&gt;[Wh])。"</p> <p>[1日あたりの総電力量の監視条件を満たした場合] "コンセント&lt;p&gt;番の1日あたりの消費電力量が &lt;o&gt;[Wh]以上 &lt;u&gt;[Wh]未満になりました(計測値:&lt;k&gt;[Wh])。"</p> <p>[1ヵ月あたりの総電力量の監視条件を満たした場合] "コンセント&lt;p&gt;番の1ヵ月あたりの消費電力量が &lt;o&gt;[Wh]以上 &lt;u&gt;[Wh]未満になりました(計測値:&lt;k&gt;[Wh])。"</p> <p>&lt;p&gt; : コンセント番号 &lt;o&gt; : 監視機能の「以上」に設定した閾値 &lt;u&gt; : 監視機能の「未満」に設定した閾値 &lt;c&gt; : 監視機能の「分継続」に設定した閾値 &lt;k&gt; : 計測値</p>
8	通知内容	<p>メール設定の編集ページの ■送信内容設定 "本文" 項目で設定されている文字列が表示されます。</p>

## 4.4.8 ユーザーの管理

メニュー選択領域で、ユーザーの管理 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、新規ユーザーアカウントの登録、ユーザー情報の変更、削除を行うことができます。



4

Web  
インターフェイス

デフォルトで下記 2 種類のユーザーアカウントが登録されています。”admin”アカウントは、削除することができません。

項	ユーザー名	アカウント権限
1	admin	管理者 (デフォルトパスワード: admin)
2	guest	ユーザー (デフォルトパスワード: guest)

## 重要

本設定により、ユーザーアカウントの登録、ユーザー情報の変更、ユーザーアカウントの削除を行った場合、変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。

Web インターフェイスの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。

📖 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)

## 4.4 情報編集項目

本装置には、“管理者”と“ユーザー”という2種類のアカウント権限が存在します。下表のように、それぞれに操作できる内容が異なります。

機能 (Web 設定ページ)	管理者	ユーザー
簡易情報の表示	●	●
監視機能の表示	●	●
基本設定の表示	●	●
ログの表示	●	●
計測値のダウンロード	●	●
各コンセントの操作	●	●
基本設定の編集	●	×
監視機能の編集	●	×
スケジュールの編集	●	×
ネットワーク設定の編集	●	×
SNMP 設定の編集	●	×
SNMP トラップの編集	●	×
メール設定の編集	●	×
ユーザーの管理	●	×
セッションの管理	●	×
ログ機能の編集	●	×
日付と時刻の編集	●	×
高度な設定	●	×
設定の管理	●	×
ファームウェアの管理	●	×

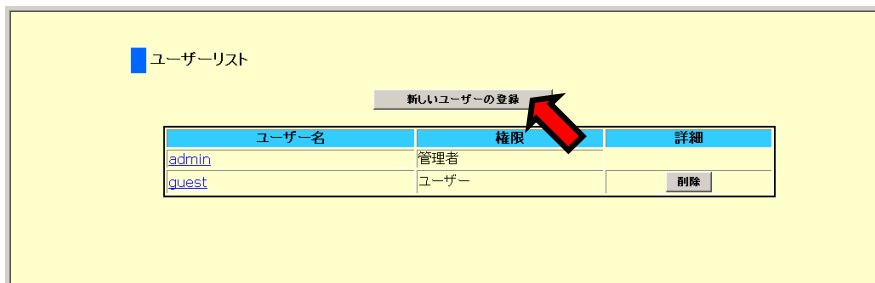
●・・・操作可能

×・・・操作不可

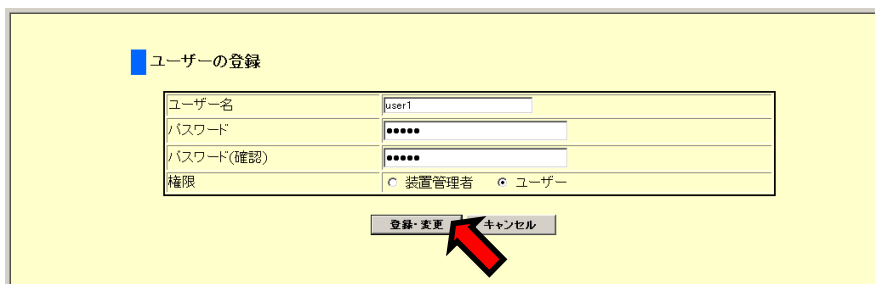
## 4.4.8.1 ユーザーアカウントの登録

新規にユーザーアカウントを登録する操作手順を以下に示します。

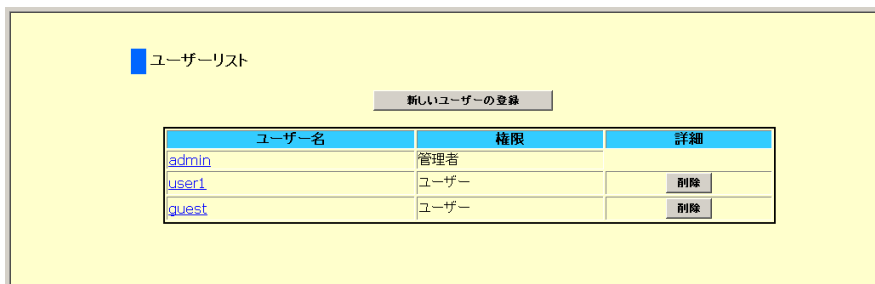
1. "ユーザーの管理" ページにおいて、[新しいユーザーの登録]ボタンをクリックします。



2. 設定ページが表示されます。新規に登録する"ユーザー名"、"パスワード"、"パスワード(確認)" に入力し、権限を "装置管理者"、"ユーザー" から選択して、[登録・変更]ボタンをクリックします。ユーザー名、パスワードは、31 文字まで設定可能です。



3. "ユーザーリスト" ページに戻り、指定したユーザーが登録されていることが確認できます。



以上で新規ユーザーアカウントの登録は完了です。

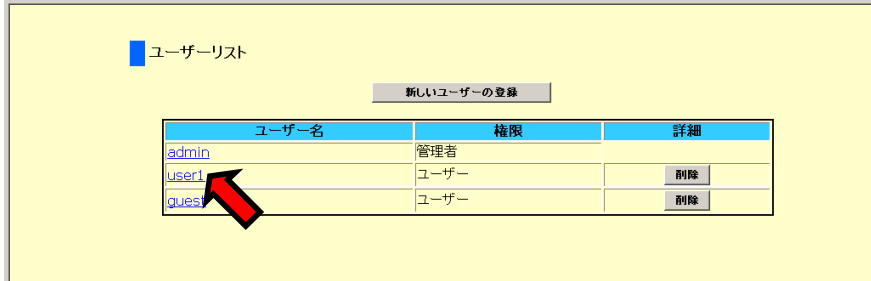
ユーザーアカウントは、admin を含めて、16 まで登録することができます。

ユーザー名およびパスワードは、大文字と小文字を判別しています。設定時には、ご注意ください。

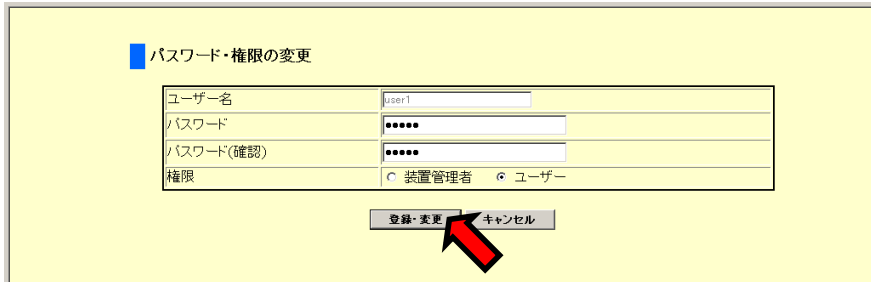
### 4.4.8.2 ユーザー情報の変更

ユーザーパスワードあるいは、ユーザー権限を変更する操作手順を以下に示します。

1. ユーザーのパスワードあるいは、ユーザー権限を変更する場合は、ユーザーリストに登録されているユーザー名をクリックします。



2. 指定したユーザーの"■パスワード・権限の変更" ページが表示されます。パスワードを変更する場合は、"パスワード"、"パスワード(確認)" に入力し、権限を変更する場合は、任意のユーザー権限を選択し、[登録・変更]ボタンをクリックします。パスワードは、31文字まで設定可能です。



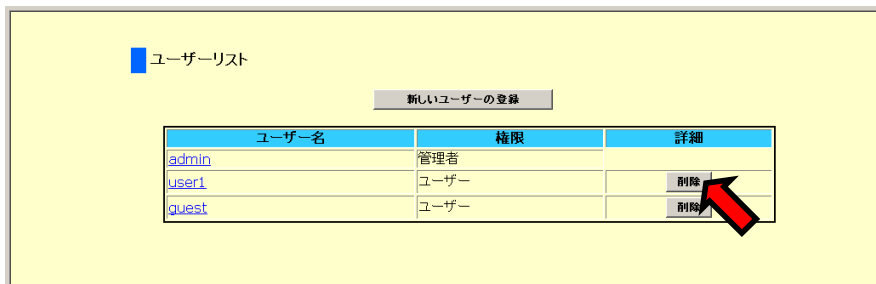
以上で、アカウント情報は変更されます。



## 4.4.8.3 ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する手順を以下に示します。

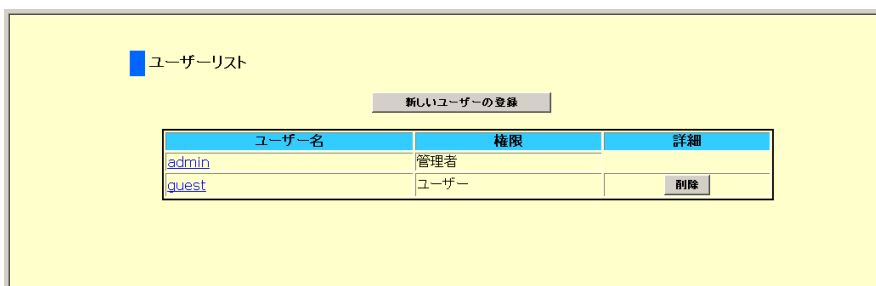
1. 現在登録されているユーザーアカウントを削除する場合は、ユーザーリストの [削除] ボタンをクリックします。



2. 下のような確認のダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



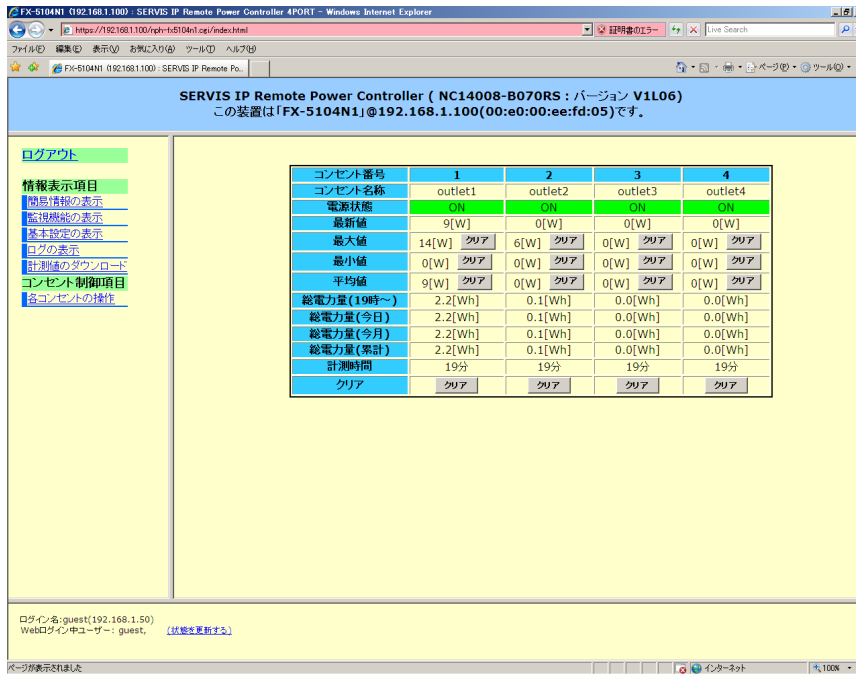
3. 指定のユーザーアカウントの削除が実行され、ユーザーリスト上からも削除されます。



## 4.4 情報編集項目

### 4.4.8.4 ユーザー権限での操作

ユーザー権限で Web インターフェースにログインすると、下のような画面表示となります。設定を変更する権限はなく、メニュー選択領域に、設定の編集項目は表示されません。表示された項目のみアクセスすることができます。



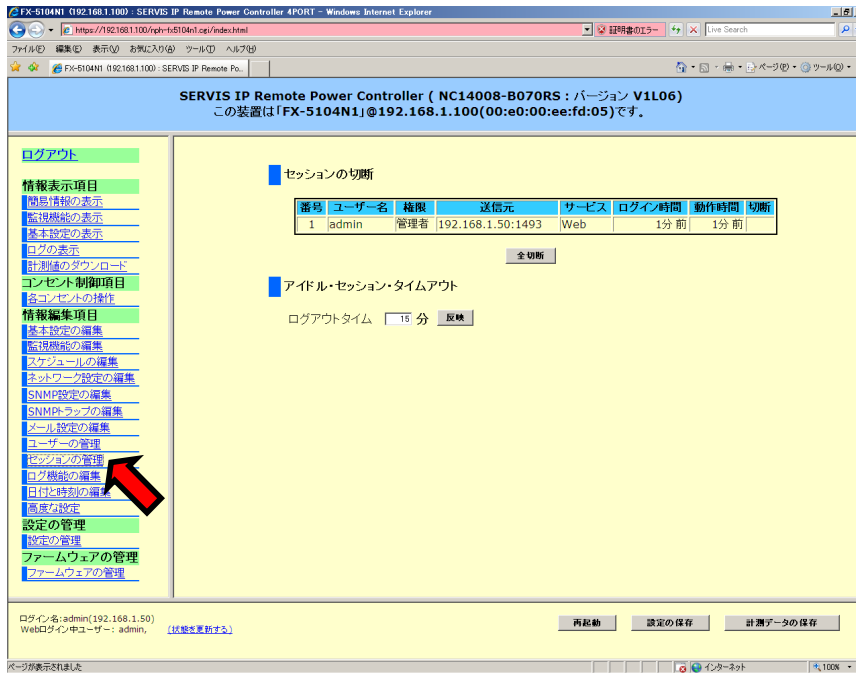
The screenshot shows the web interface of the SERVIS IP Remote Power Controller. The page title is "SERVIS IP Remote Power Controller ( NC14008-B070RS :バージョン V11.06 )" and it identifies the device as "FX-5104N1 @192.168.1.100(00:e0:00:ee:fd:05)". On the left, there is a navigation menu with items like "ログアウト", "情報表示項目", "電源状態", "最新値", "最大値", "最小値", "平均値", "総電力量", and "計測時間". The main content area displays a table with power consumption data for four outlets (outlet1 to outlet4).

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	9[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	14[W] クリア	6[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
最小値	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
平均値	9[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
総電力量(19時~)	2.2[Wh]	0.1[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	2.2[Wh]	0.1[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	2.2[Wh]	0.1[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	2.2[Wh]	0.1[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	19分	19分	19分	19分
	クリア	クリア	クリア	クリア

表示されている、メニュー選択領域の各項目については、管理者ユーザーでログインした場合と同様です。

## 4.4.9 セッションの管理

メニュー選択領域で、セッションの管理 をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、セッションに関する各種設定を行うことができます。



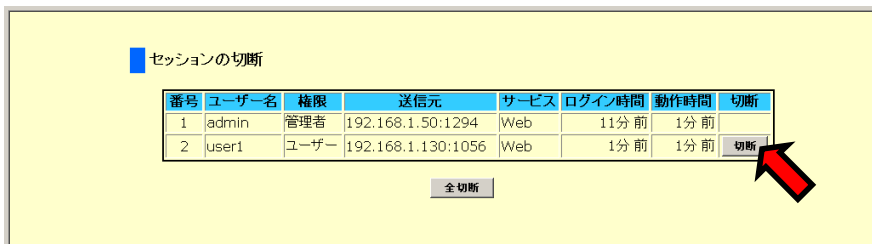
4

Web  
インターフェース

## 4.4.9.1 セッションの切断

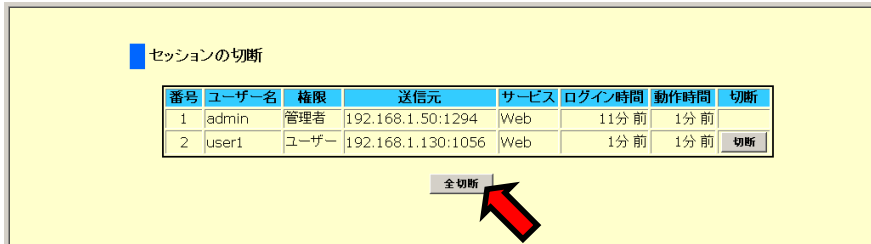
ここでは、本装置に Web 設定ページにログインしているユーザーのセッションを強制的に切断することができます。

下に示すように、**セッションの切断** のリスト上には、現在本装置にネットワークアクセスしているユーザー情報が表示されます。セッションを切断するユーザーの [切断] ボタンをクリックすると、セッションの強制切断が実行され、セッションを切断されたユーザーは、ログアウト状態となります。



## 4.4 情報編集項目

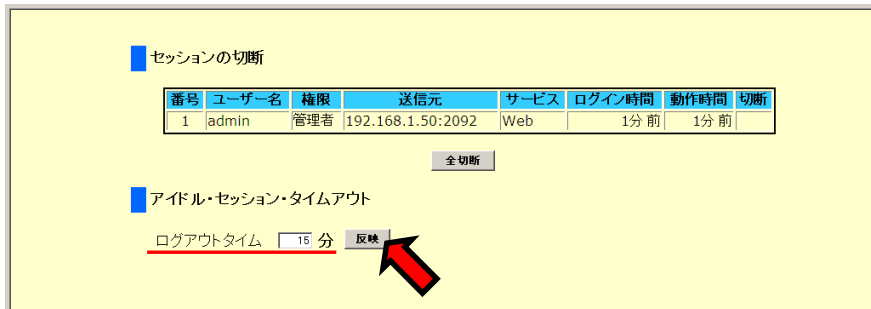
また、[全切断]ボタンをクリックすると、複数のユーザーがネットワークアクセスしている場合に、自分を除く全てのユーザーのセッションを切断します。



### 4.4.9.2 アイドル・セッション・タイムアウト

ここでは、ログインセッションを切断するタイムアウト時間を 1~360 分範囲で設定することができます。0 を設定すると、タイムアウトによるセッションの切断は実行されません。初期設定値は、15 分です。

「ログアウトタイム」のテキストボックスに数字(分単位)を入力し、[反映]ボタンをクリックすると、設定が変更されます。



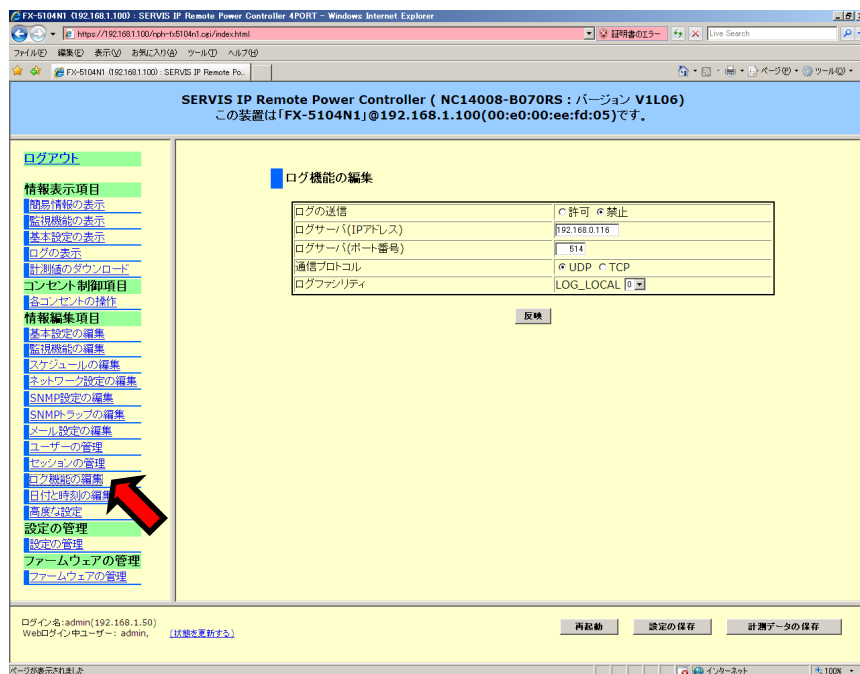
## 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存]ボタンをクリックしてください。  
📖 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)

## 4.4.10 ログ機能の編集

メニュー選択領域で、[ログ機能の編集](#) をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、本装置のログを外部の Syslog サーバへ保存するための設定を行うことができます。ログの意味については、下記をご参照ください。

☞ 参照 [Chapter 8 - ログ \(169 ページ\)](#)



各項目の表示内容は、下記のとおりです。

項	項目名	説明
1	ログの送信	外部の Syslog サーバへのログ送信の "有効"/"無効" を設定します。有効にする場合は、"許可" をラジオボタンで選択します。
2	ログサーバ (IP アドレス)	外部 Syslog サーバの IP アドレスを指定します。
3	ログサーバ (ポート番号)	外部 Syslog サーバの TCP ポート番号を指定します。初期設定値は、"514" です。
4	通信プロトコル	通信プロトコルタイプを "UDP" あるいは "TCP" から選択します。
5	ログファシリティ	送信先 Syslog サーバのログファシリティを設定します。LOG_LOCAL0~7 のいずれかを選択することができます。
6	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1 から 5 の設定を変更します。

### 4.4.11 日付と時刻の編集

メニュー選択領域で、**日付と時刻の編集** をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、本装置内部の時刻設定を行うことができます。

The screenshot shows the web interface for the SERVIS IP Remote Power Controller (NC14008-B070RS, Version V1L06). The page title is "SERVIS IP Remote Power Controller ( NC14008-B070RS : バージョン V1L06 )" and the device information is "この装置は「FX-5104N1」@192.168.1.100(00:e0:00:ee:fd:05)です。".

The left sidebar contains a menu with the following items:

- ログアウト
- 情報表示項目
  - 機内情報の表示
  - 監視機能の表示
  - 基本設定の表示
  - ログの表示
  - 詳細画面のダウンロード
- コンピュータ制御項目
  - 各コンピュータの操作
- 情報編集項目
  - 基本設定の編集
  - 監視機能の編集
  - スケジューリングの編集
  - ネットワーク設定の編集
  - SNMP設定の編集
  - SNMPトラップの編集
  - メール設定の編集
  - ユーザーの管理
  - セッションの管理
  - ログ機能の編集
  - 日付と時刻の編集
  - 風速を設定
- 設定の管理
  - 設定の管理
- ファームウェアの管理
  - ファームウェアの管理

The main content area is titled "日付/時刻とタイムゾーンの設定" and contains the following sections:

- 日付/時刻とタイムゾーンの設定**:
 

本ページが送信された日付と時刻

装置内時刻	2010/03/31 19:19:11 JST
タイムゾーン地域名称(略称)	JST
協定世界時との差分	GMT +09 : 00

反映
- 日付/時刻の変更**:
 

ボタンをクリックするとコンピュータと同じ日付/時刻が設定されます。

時刻を合わせる

NTPサーバの日付/時刻が設定されます。

NTPサーバの時刻に合わせる
- NTPの設定**:
 

NTPサーバ名/IPアドレス	ntp.ntt.jp
起動時時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
周期時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
周期[分]	60

At the bottom of the page, there are buttons for "再起動", "設定の保存", and "計測データの保存". The status bar at the bottom indicates "ログイン名: admin(192.168.1.50)", "Webログインユーザー: admin", and "ページが表示されました".

4

Web  
インターフェイス

## 4.4.11.1 日付/時刻とタイムゾーンの設定

ここでは、本装置内部の日付/時刻のタイムゾーンを設定します。  
「協定世界時との差分」の項目でドロップダウンリストから任意の値を選択し、[反映]ボタンをクリックすると設定は変更されます。

**日付/時刻とタイムゾーンの設定**

本ページが送信された日付と時刻

装置内蔵時刻	2010/03/31 19:19:11 JST
タイムゾーン地域名称(略称)	JST
協定世界時との差分	GMT +09:00

反映

**日付/時刻の変更**

ボタンをクリックするとコンピュータと同じ日付/時刻が設定されます。

時刻を合わせる

NTPサーバの日付/時刻が設定されます。

NTPサーバの時刻に合わせる

**NTPの設定**

NTPサーバ名/IPアドレス	ntp.nict.jp
起動時時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
周期時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
周期[分]	60

4

Web  
インターフェイス

協定世界時との差分設定は、NTPサーバの時刻に合わせる内部処理の際に用いられません。

## 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェイスの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。  
📖 参照 [4.7 設定の保存 \(101 ページ\)](#)

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.11.2 日付/時刻の変更

ここでは、本装置の日付/時刻を下に示す2つの方法で設定することができます。

日付/時刻とタイムゾーンの設定

本ページが送信された日付と時刻

装置内蔵時刻	2010/03/31 19:19:11 JST
タイムゾーン/地域名称(略称)	JST
協定世界時との差分	GMT [+09]: [00]

反映

日付/時刻の変更

ボタンをクリックするとコンピュータと同じ日付/時刻が設定されます。

① → 時刻を合わせる

NTPサーバの日付/時刻が設定されます。

② → NTPサーバの時刻に合わせる

各項目の表示内容は、下記のとおりです。

項	項目名	説明
1	時刻を合わせる	現在アクセスしているクライアント PC の Local 時刻を本装置の時刻として設定します。
2	NTP サーバの時刻に合わせる	NTP サーバの時刻と本装置の時刻を同期させます。その際、タイムゾーンの設定が反映されます。 また、正常に時刻同期させるには、「NTP の設定」を行う必要があります。詳細については、下記をご参照ください。 <a href="#">参照 4.4.11.3 NTP の設定 (85 ページ)</a>

任意の方法を選択し、対応するボタンをクリックすると 日付/時刻 は設定されます。



## 4.4.11.3 NTP の設定

ここでは、本装置の日付/時刻を合わせる NTP サーバの設定を行います。

**日付/時刻の変更**

ボタンをクリックするとコンピュータと同じ日付/時刻が設定されます。

時刻を合わせる

NTPサーバの日付/時刻が設定されます。

NTPサーバの時刻に合わせる

**NTPの設定**

①	NTPサーバ名/IPアドレス	ntp.nict.jp
②	起動時時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
③	周期時刻調整	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
④	周期[分]	60

反映 ← ⑤

4

Web  
インター  
フェース

各項目の表示内容は、下記のとおりです。

項	項目名	説明
1	NTP サーバ名 /IP アドレス	本装置が時刻同期を行う NTP サーバの IP アドレスを指定します。
2	起動時時刻調整	本設定を "有効" にしている場合、本装置の起動時に、指定された NTP サーバに対して時刻同期を実行します。
3	周期時刻調整	本設定を "有効" にしている場合、指定の周期で NTP サーバに対して時刻同期を実行します。
4	周期[分]	NTP サーバに対して時刻同期を行う周期を指定します(分単位)。60～10080 分の範囲で設定可能です。 本設定は、「周期時刻調整」が "無効" に設定されている場合は、無視されます。
5	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1 から 4 の設定を変更します。

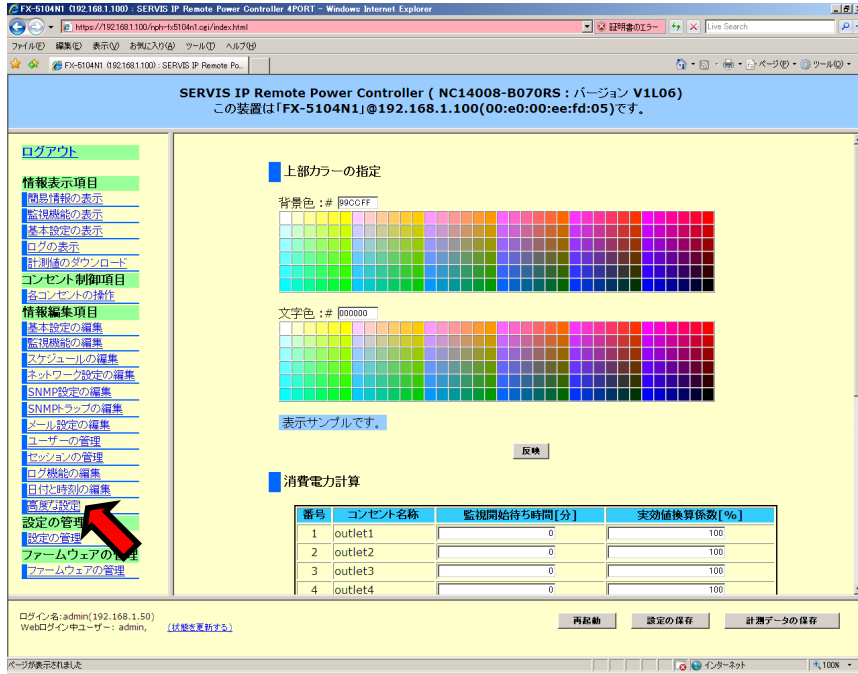
## 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存]ボタンをクリックしてください。

📖 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)

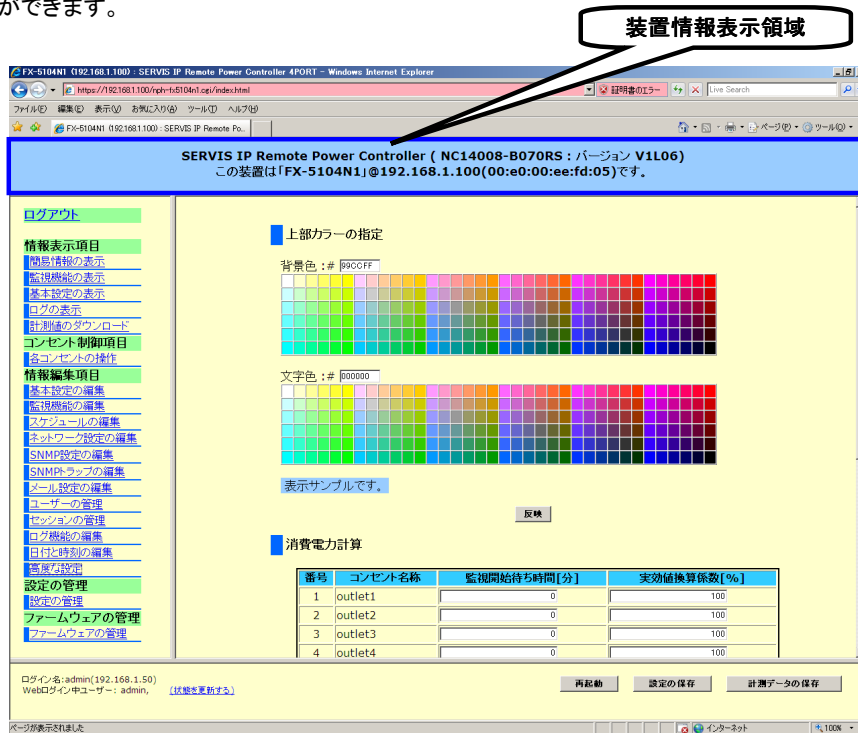
### 4.4.12 高度な設定

メニュー選択領域で、**高度な設定** をクリックすると、以下のような設定画面が表示されます。ここでは、装置情報表示領域の色設定、消費電力計算のパラメータ設定 などを行うことができます。



## 4.4.12.1 上部カラーの設定

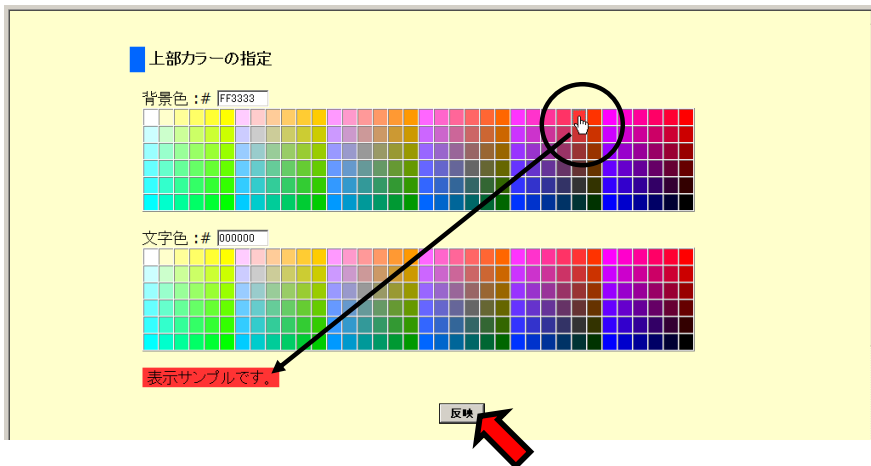
ここでは、Web インターフェース上部にある、装置情報表示領域の色設定を行います。装置情報表示領域の背景色および文字色をそれぞれのカラーボックスから選択することができます。



4

Web  
インターフェース

背景色を選択する場合は、背景色のカラーボックスから任意の色をクリックします。選択された色は、文字色カラーボックスの下の サンプル表示領域で確認することができます。選択した色を反映させるには、[反映]ボタンをクリックしてください。



## 4.4 情報編集項目

下のよう、装置情報表示領域の色が変更されます。

The screenshot shows the web interface of the SERVIS IP Remote Power Controller. The main content area is titled 'SERVIS IP Remote Power Controller (NC14008-B070RS :バージョン V11.06)'. Below this, there are two sections for color selection: '上部カラーの指定' (Top Color Designation) and '消費電力計算' (Power Consumption Calculation). The top color is set to #FF3333 and the text color is #000000. A table for power consumption calculation is shown below.

番号	コンセント名称	監視開始待ち時間[分]	実効値換算係数[%]
1	outlet1	0	100
2	outlet2	0	100
3	outlet3	0	100
4	outlet4	0	100

4

Web  
インター  
フェース

## 4.4.12.2 消費電力計算

ここでは、消費電力計算に関するパラメータの設定を行います。

消費電力計算

番号	コンセント名称	監視開始待ち時間[分]	実効値換算係数[%]
1	outlet1	0	100
2	outlet2	0	100
3	outlet3	0	100
4	outlet4	0	100

① ↑      ③ ← [反映]      ↑ ②

4

Web  
インターフェイス

項	項目名	説明
1	監視開始待ち時間[分]	突入電流を考慮し、コンセントが ON になってから、監視を開始するまでの待ち時間を設定します。各コンセントについて個別に、0～20 分の範囲で設定することができます。初期設定値は、0 分です。
2	実効値換算係数[%]	電力値は平均値として算出されています。そのためここで設定する係数を掛けることにより、簡易的に実効値表示とすることができます。100～160%の範囲で設定可能です。 "簡易情報の表示" ページで表示される電力量は、本設定値を使用して算出されます。
3	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1, 2 の設定を変更します。

## 重要

本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。  
Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。  
📖 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)

## 4.4 情報編集項目

### 4.4.12.3 挙動の設定

ここでは、本装置の下記 4 種類の状態における挙動について設定します。

➤ システム起動時

本装置の主電源を ON にした場合。本装置前面の Reset ボタンを押下して、リセットを実行した場合。Web インターフェースで[再起動] ボタンをクリックする、あるいは コンソールから reboot コマンド入力によって再起動を実行した場合。

➤ サーキットプロテクタトリップ時

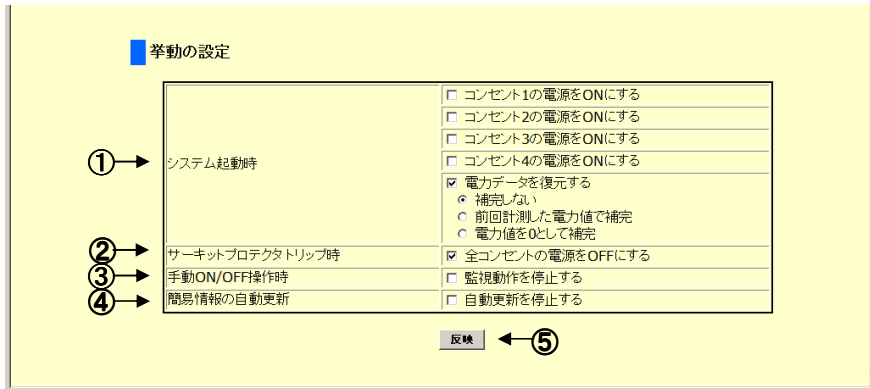
出力コンセントの電流値合計がサーキットプロテクタのトリップ値を超えて、サーキットプロテクタが作動した場合。


➤ 手動 ON/OFF 操作時

手動で出力コンセントの ON/OFF 操作を実行した場合。各コンセントの操作ページで [ON]/[OFF] ボタンをクリックする。あるいは、ローカルコンソールなどからのコマンド操作により、power コマンドを実行した場合を意味します。

➤ 簡易情報の自動更新

Web インターフェースの 簡易情報の表示 ページの情報更新に関する設定を行います。



項	項目名	説明
1	システム起動時	<p>"コンセント番号の電源を ON にする" チェックボックスにチェックを入れると、本装置のシステム起動時に チェックを入れたコンセント番号が ON の状態になります。チェックボックスにチェックが入っていない場合、本装置の主電源投入時は、コンセントは OFF となります。再起動時には、再起動前のコンセント ON/OFF 状態を保持します。</p> <p>"電力データを復元する" チェックボックスにチェックを入れると、本装置のシステム起動時に FlashROM に保存された計測データを復元して、「簡易情報の表示」ページに反映させることができます。   参照 7.4 計測データの復元と補完 (167 ページ)</p> <p>FlashROM に保存した時刻とシステム起動時の時刻に差がある場合、下記のラジオボタン設定に従って、計測データの復元を実行します。</p> <p>"補完しない"            保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合でも、最後に保存した計測データのままデータを復元します。</p> <p>"前回計測した電力値で補完"            保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合に、最後の計測値が継続したものと仮定して値を補完します。</p> <p>"電力値を 0 として補完"            保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合に、その間は電力値 0 として値を補完します。</p>
2	サーキットプロテクタトリップ時	<p>"全コンセントの電源を OFF にする" チェックボックスにチェックを入れると、サーキットプロテクタがトリップ値を超えて作動した際に、全ての出力コンセントの状態を OFF にリセットします。            チェックボックスにチェックが入っていない場合、サーキットプロテクタが作動した際に、直前に ON の状態だったコンセントは、サーキットプロテクタの復帰用ボタンを戻した後に ON の状態を維持します。</p>
3	手動 ON/OFF 操作時	<p>"監視動作を停止する" チェックボックスにチェックを入れると、コンセントを手動で ON/OFF した際に、監視機能を停止します。            チェックボックスにチェックが入っていない場合、コンセントを手動で ON/OFF した際に監視機能を続行します。</p>
4	簡易情報の自動更新	<p>"自動更新を停止する" チェックボックスにチェックを入れると、「簡易情報の表示」ページの自動更新が停止されます。</p>
5	[反映]ボタン	このボタンをクリックすると、上記 1, 2, 3, 4 の設定を変更します。


## 重要

「サーキットプロテクタトリップ時」設定において、「全コンセントの電源を OFF にする」にチェックが入っていない場合、サーキットプロテクタが作動した後、復帰用ボタンを戻すとコンセント出力は、サーキットプロテクタ作動直前の ON の状態を維持しているため、すぐに再びサーキットプロテクタがトリップ状態になることが予想されます。復帰用ボタンを戻す前に電源供給装置側の原因を除去してください。

コンセント出力の手動 ON/OFF 操作により、監視機能が停止状態になった場合、「各コンセントの操作」ページで対象コンセントの [自動制御の再開] ボタンをクリックすることにより、監視機能も再開されます。

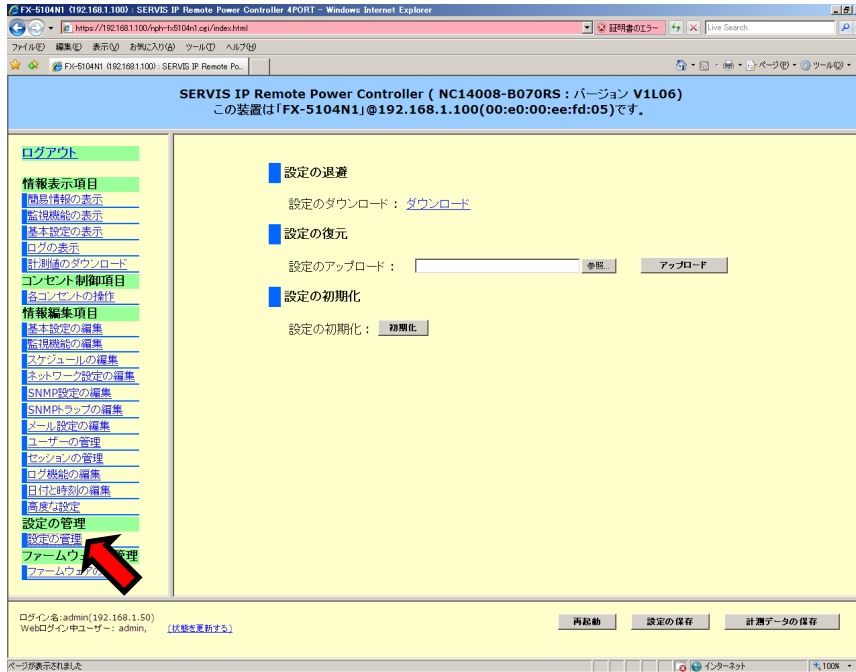
本設定の変更を保存させるには、「設定の保存」が必要です。

Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。

 参照 4.7 設定の保存 (101 ページ)

## 4.5. 設定の管理

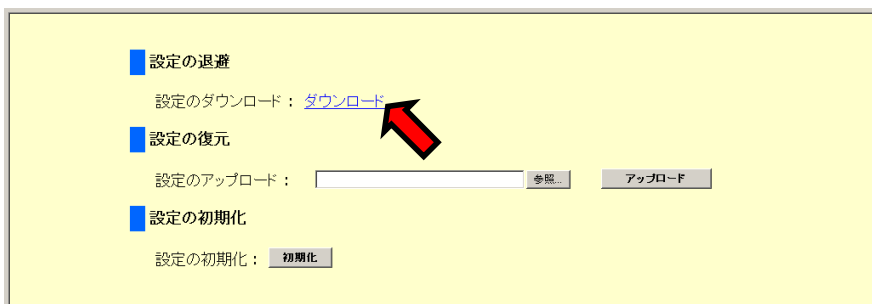
メニュー選択領域で、**設定の管理** をクリックすると、以下のような画面が表示されます。ここでは、設定ファイルのダウンロード、アップロードおよび設定の初期化 を行うことができます。



### 4.5.1.1 設定の退避

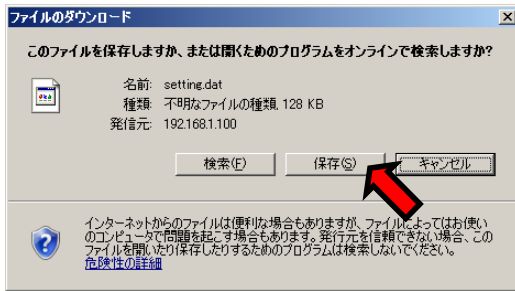
本装置の設定ファイルをクライアント端末上にダウンロードすることができます。設定をアップロードすることにより、復元を行うためのバックアップファイルになります。操作手順を以下に示します。

1. 「設定のダウンロード」の、**ダウンロード** をクリックします。





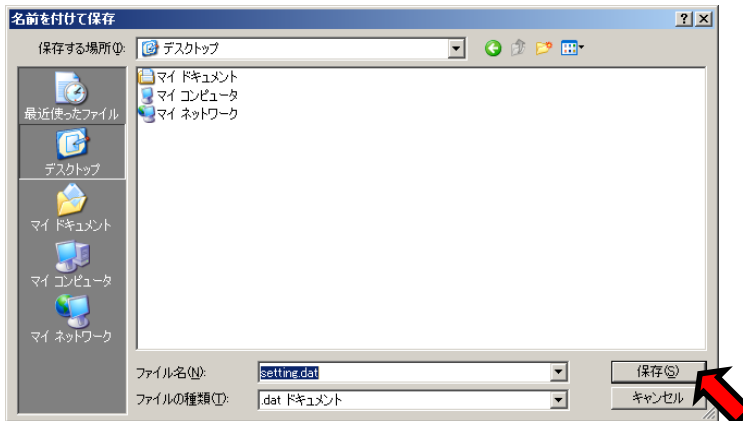
2. 「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。[保存]ボタンをクリックします。



4

Microsoft  
インターネット  
フェース

3. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。設定ファイルの保存先を指定し、[保存]ボタン をクリックします。



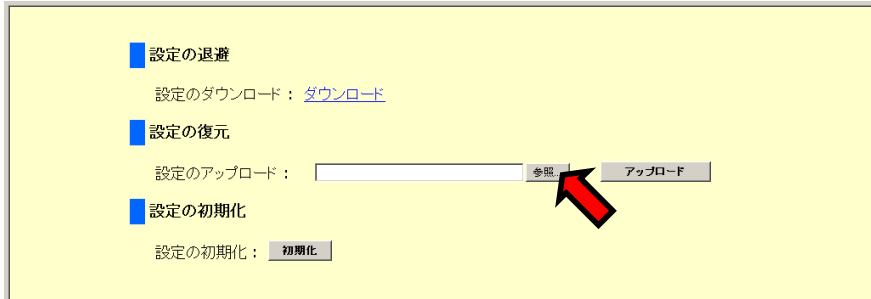
設定ファイルのダウンロードが実行され、クライアント PC 上に保存されます。

## 4.5 設定の管理

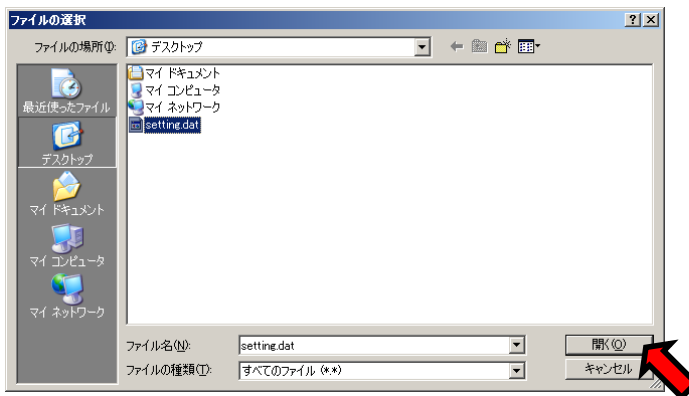
### 4.5.1.2 設定の復元

ダウンロードしておいた本装置の設定ファイルをアップロードし、設定を復元することができます。操作手順を以下に示します。

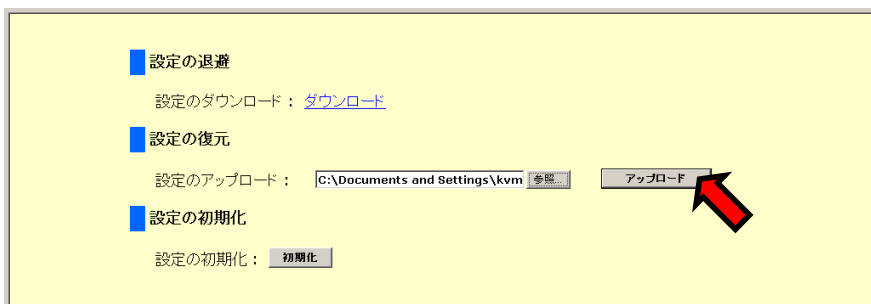
1. 「設定のアップロード」の、[参照]ボタンをクリックします。



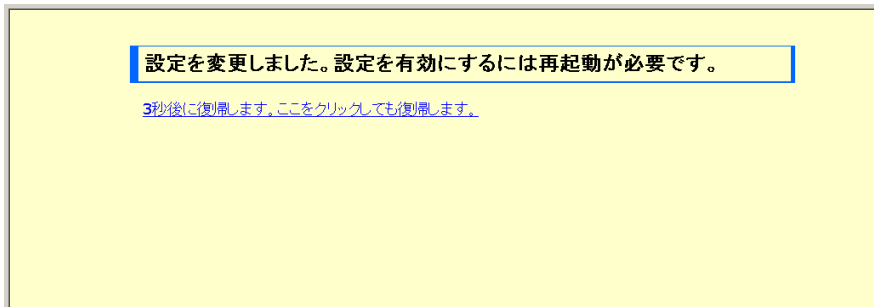
2. 「ファイルの選択」ダイアログが表示されます。本装置のバックアップファイルを選択し、[開く]ボタン をクリックします。



3. [アップロード]ボタン をクリックします。設定ファイルのアップロードが実行され、設定の復元が実行されます。



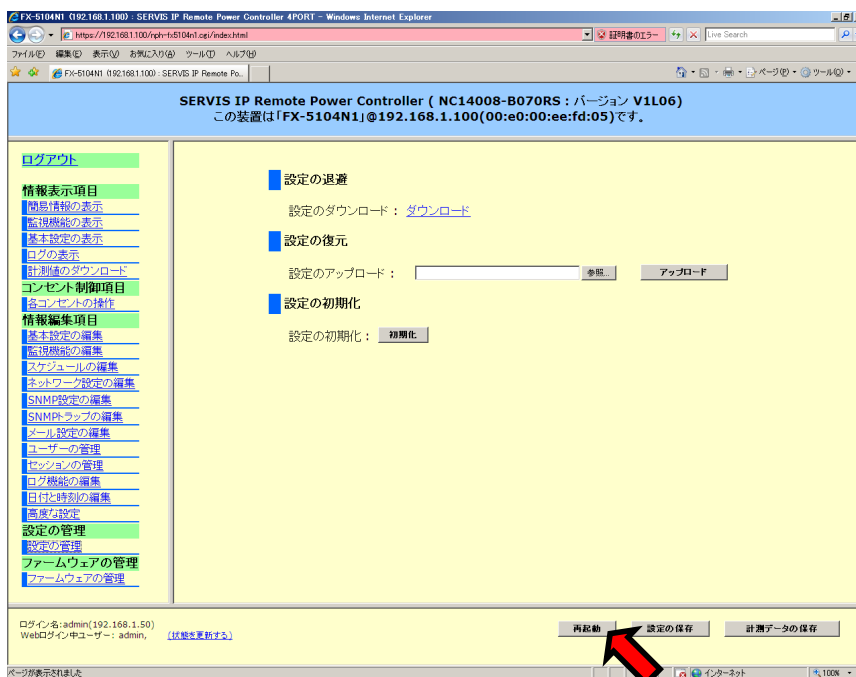
4. 設定のアップロードが完了すると、下のように表示され、約 3 秒で "設定の管理ページ" に戻ります。



4

Web  
インターフェイス

5. 設定ファイルのアップロードを反映させるために、本装置を再起動します。Web インターフェースの右下の [再起動] ボタン をクリックします。



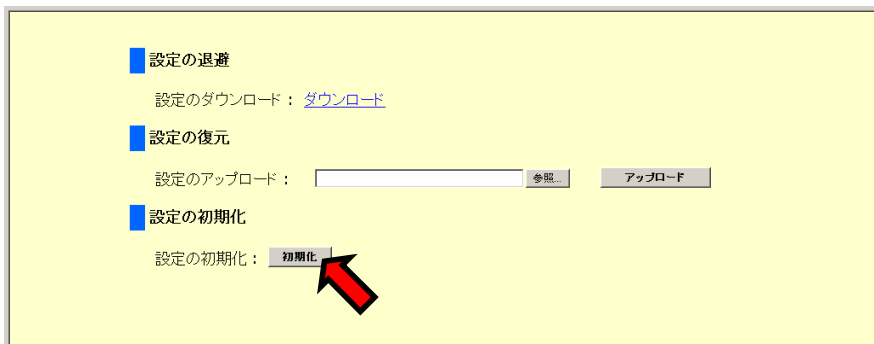
6. 確認のダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると再起動が実行されます。再起動後、復元した設定で本装置は動作します。



### 4.5.1.3 設定の初期化

「設定の初期化」の、[初期化]ボタンをクリックすると、全ての設定値を初期状態に戻すことができます。

📖 参照 [4.11 初期設定値 \(106 ページ\)](#)



下のように、確認のダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックすると設定の初期化が実行されます。

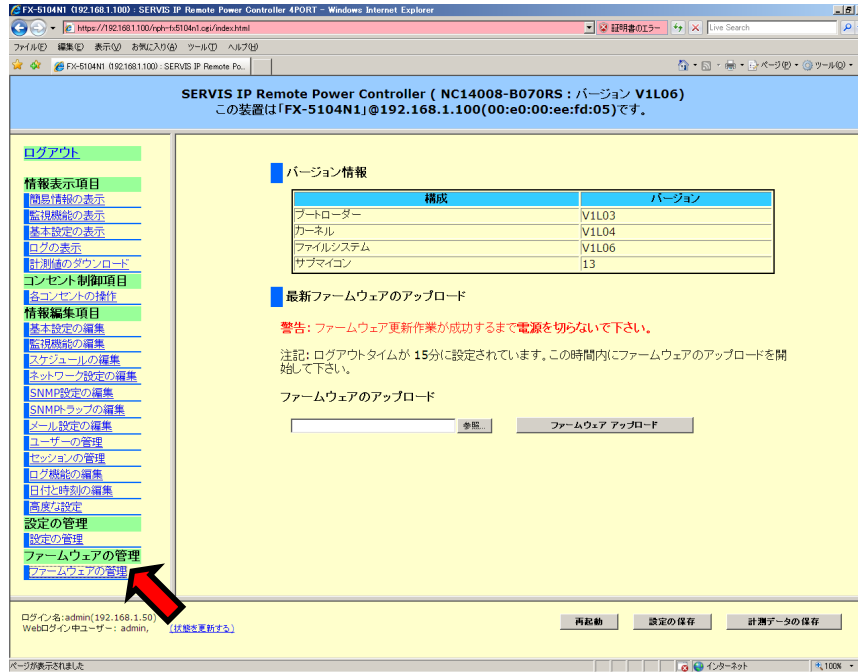


設定の初期化を反映させるためには、本装置を再起動する必要があります。

📖 参照 [4.9 再起動 \(103 ページ\)](#)

## 4.6. ファームウェアの管理

メニュー選択領域で、**ファームウェアの管理** をクリックすると、以下のような画面が表示されます。ここでは、本装置のファームウェアバージョンの確認、アップロードを行うことができます。

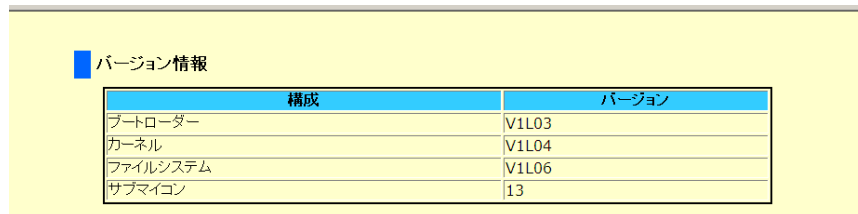


4

Webインターフェース

### 4.6.1.1 バージョン情報

ここでは、本装置の現在のファームウェア バージョン情報を確認することができます。

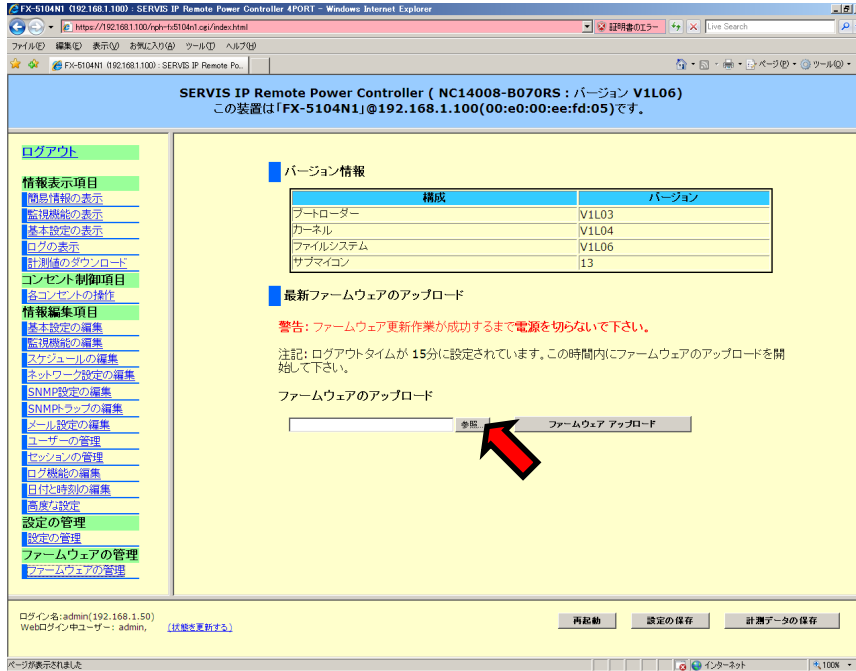


## 4.6 ファームウェアの管理

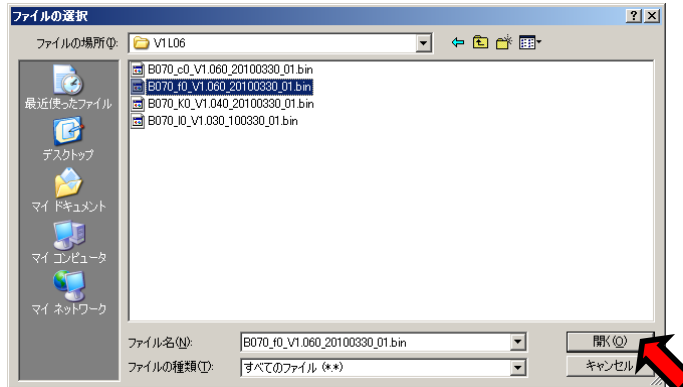
### 4.6.1.2 最新ファームウェアのアップロード

ここでは、アップロードファイルを指定して、最新ファームウェアにアップデートすることができます。以下にファームウェアアップグレードの手順を示します。

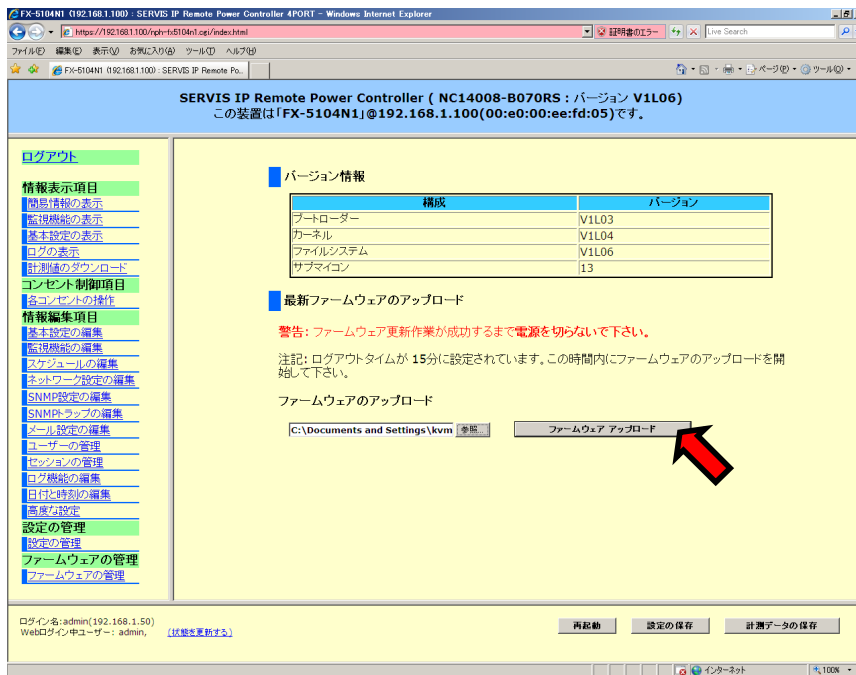
1. アップロードするファームウェアデータを指定するために[参照]ボタン をクリックします。



2. 「ファイルの選択」ダイアログが表示されます。データファイルを指定し、[開く]ボタン をクリックします。



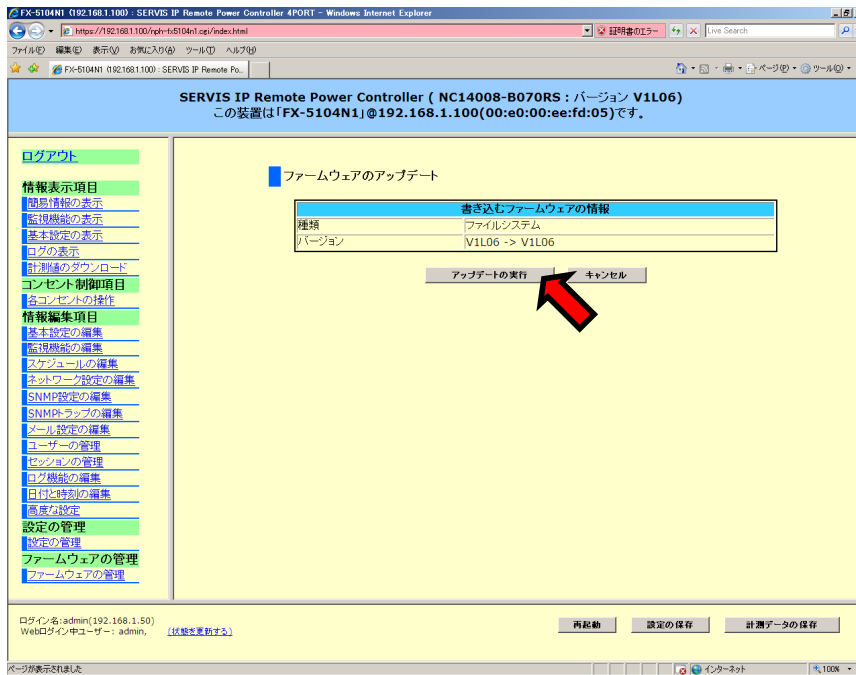
3. [ファームウェア アップロード]ボタン をクリックします。



4

Web  
インターフェイス

4. アップロードが完了すると、下ののように、ファームウェアのアップデート画面が表示されます。表示内容を確認し、[アップデートの実行]ボタン をクリックします。



### 重要

アップデートの実行中に動作を中断すると、本装置が故障する恐れがあります。ファームウェア更新作業が完了するまで電源を切らないでください。

5. "アップデート中。しばらくお待ち下さい。" というメッセージが表示され、アップデートが実行されます。アップデートには、約 2 分かかります。アップデートが完了すると、下のように表示されます。



以上でアップデート操作は、完了です。

ファームウェアのアップデートを反映させるためには、本装置を再起動する必要があります。再起動の方法については、下記をご参照ください。

📖 参照 4.9 再起動 (103 ページ)



## 4.7. 設定の保存

本装置の設定を変更した場合、設定の保存を実行する必要があります。「設定の保存」を実行しないと、本装置に関する全ての設定変更は、再起動により失われます。Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックします。

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] クリア	4[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
最小値	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
平均値	10[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	クリア	クリア	クリア	クリア

4

Web インターフェース

確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



設定の保存が完了するまで約 10 秒かかります。

## 4.8. 計測データの保存

Web インターフェースの右下に表示される [計測データの保存] ボタンをクリックすると本装置が計測した各コンセントの消費電力あるいは電力量のデータを FlashROM に保存することができます。

FlashROM に保存することができる計測データは、下記のとおりです。

- 1 秒間隔で計測した電力値[W] 1 時間分のデータ
- 5 秒間隔で計測した電力値[W] 84 時間分のデータ
- 1 時間間隔で計測した電力量[Wh] 31 日分のデータ

「計測データの保存」を実行せずに、本装置前面のリセットボタンを押下する、あるいは電源ケーブルを抜くと、本装置が計測したデータは失われます。

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] クリア	4[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
最小値	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
平均値	10[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	クリア	クリア	クリア	クリア

確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



以上で計測データの保存は完了します。

## 4.9. 再起動

設定の初期化、設定のアップロード、ファームウェアのアップデートなどを実行した後、本装置の再起動が必要となります。Web インターフェースの右下に表示される [再起動] ボタンをクリックすると本装置を再起動させることができます。

ログアウト

情報表示項目  
[開閉情報の表示](#)  
[監視機能の表示](#)  
[基本設定の表示](#)  
[ログの表示](#)  
[計測値のダウンロード](#)

コンセント制御項目  
[各コンセントの操作](#)

情報編集項目  
[基本設定の編集](#)  
[監視機能の編集](#)  
[スケジューリングの編集](#)  
[ネットワーク設定の編集](#)  
[SNMP設定の編集](#)  
[SNMPラップの編集](#)  
[メール設定の編集](#)  
[ユーザーの管理](#)  
[セッションの管理](#)  
[ログ機能の編集](#)  
[日時と時刻の編集](#)  
[高度な設定](#)

設定の管理  
[設定の管理](#)  
[ファームウェアの管理](#)  
[ファームウェアの管理](#)

コンセント番号	1	2	3	4
コンセント名称	outlet1	outlet2	outlet3	outlet4
電源状態	ON	ON	ON	ON
最新値	10[W]	0[W]	0[W]	0[W]
最大値	12[W] クリア	4[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
最小値	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
平均値	10[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア	0[W] クリア
総電力量(19時~)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今日)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(今月)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
総電力量(累計)	0.2[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]	0.0[Wh]
計測時間	8分	8分	8分	8分
	クリア	クリア	クリア	クリア

再起動 設定の保存 計測データの保存

4

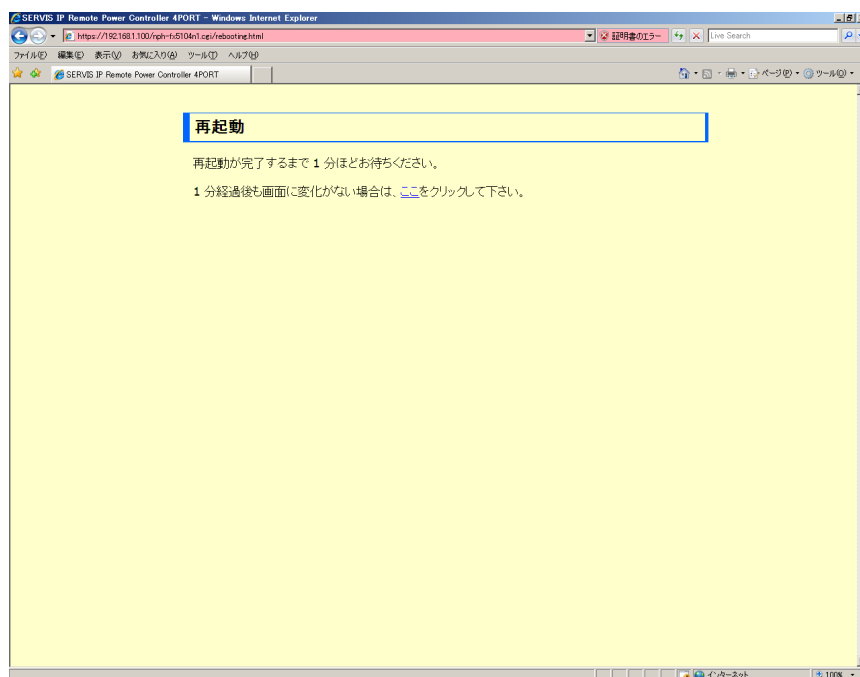
Web インターフェース

確認のダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると再起動が実行されます。



## 4.9 再起動

再起動が始まると Web インターフェースは、下のように表示されます。約 1 分お待ちください。約 1 分後、再びログイン画面が表示されます。



### 重要

再起動の実行により、各コンセントへの電源供給が停止する(OFFになる)ことはありません。再起動を実行している間、再起動前のコンセントのON/OFFの状態は維持されます。

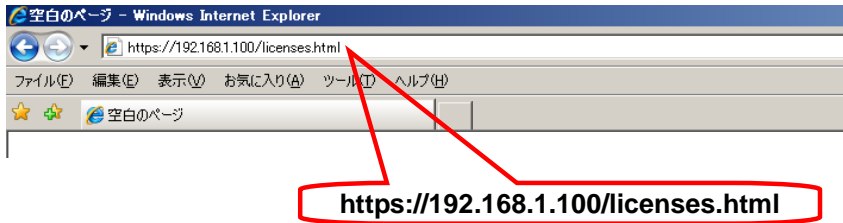
# 4

## 4.10. Copyright の表示

ブラウザのアドレスに "https://<本装置の IP アドレス>/licenses.html" を入力すると、本装置のソフトウェアに関する Copyright の情報を確認することができます。

本装置の IP アドレスが、下記のように設定されているとします。

➤ IP Address: 192.168.1.100



以下のような画面が表示されます。



4

Web  
インターフェイス

## 4.11. 初期設定値

本製品の Web インターフェース設定ページにおける、初期設定値の一覧を下記に示します。

## ■ "基本設定の編集" ページ

設定名	初期値
<b>装置名称</b>	
装置名称	FX-5104N1
<b>装置情報</b>	
コンセント名称(番号 1)	outlet1
コンセント名称(番号 2)	outlet2
コンセント名称(番号 3)	outlet3
コンセント名称(番号 4)	outlet4
<b>遅延時間</b>	
電源 ON [秒]	0.5
電源 OFF [秒]	0.5

## ■ "監視機能の編集" ページ

設定名	初期値
<b>監視機能の編集</b>	
有効/無効	無効
条件	消費電力、1500[W]以上、1501[W]未満、60分継続
動作	コンセント: OFF LED 状態: 赤 メール送信: なし
繰り返しチェック	しない
<b>ping 送信先の編集</b>	
IP アドレス (1 番)	0.0.0.0
IP アドレス (2 番)	0.0.0.0
IP アドレス (3 番)	0.0.0.0
IP アドレス (4 番)	0.0.0.0

## ■ "ネットワーク設定の編集" ページ

設定名	初期値
<b>ネットワーク設定の編集</b>	
IP アドレス	192.168.0.111
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
ブロードキャスト	192.168.0.255
優先 DNS サーバ	—
代替 DNS サーバ	—

## ■ "SNMP 設定の編集" ページ

設定名	初期値
<b>SNMP 機能</b>	
SNMP 機能	有効(SNMPv2)
<b>システム情報(SNMPv2,v3 共通)</b>	
名前	SERVIS IP Remote Power Controller 4port
場所	Fujitsu Component Limited
連絡先	servis-center@fcl.fujitsu.com
<b>コミュニティ名(SNMPv2 設定)</b>	
読み取り	public
書き込み	public
<b>ユーザー名(SNMPv3 設定)</b>	
ユーザー名	admin
認証	SHA1
	auth_passphrase
暗号	AES
	crypt_passphrase

## ■ "SNMPトラップの編集" ページ

設定名	初期値
<b>トラップ機能</b>	
トラップ機能	無効
<b>トラップ設定</b>	
コミュニティ名	public
トラップ送信先 1	192.168.0.112
トラップ送信先 2	—
トラップ送信先 3	—
トラップ送信先 4	—
トラップ送信先 5	—
<b>トラップ内容</b>	
システム起動時	有効
ユーザー認証の報告	有効
ユーザー設定の変更時	有効
全セッション切断時	有効
ファームウェアアップデートの報告	有効
設定アップデートの報告	有効
設定の初期化時	有効
再起動コマンド実行時	有効
コンセント名称の変更時	有効
コンセント操作の発生時	有効
ログのクリア時	有効
サーキットプロテクタ変化時	有効
監視動作の発生時	有効
スケジュール動作の発生時	有効
計測電力の最大値変化時	有効
計測電力の最小値変化時	有効
トラップ設定の変更時	有効

## ■ "メール設定の編集" ページ

設定名	初期値
<b>メールサーバの設定</b>	
メールアドレス	—
SMTP サーバ	—
SMTP 接続ポート	25
認証方式	なし
ユーザーアカウント	—
パスワード	—
POP サーバ	—
POP 接続ポート	110
タイムアウト	10
<b>送信内容設定</b>	
送信先 A	
メールアドレス (1 番)	user_a_name@mailserver.com
メールアドレス (2 番)	—
メールアドレス (3 番)	—
メールアドレス (4 番)	—
件名	—
本文	—
送信先(文字コード)	ISO-2022-JP
送信先 B	
メールアドレス (1 番)	user_b_name@mailserver.com
メールアドレス (2 番)	—
メールアドレス (3 番)	—
メールアドレス (4 番)	—
件名	—
本文	—
送信先(文字コード)	ISO-2022-JP
送信先 C	
メールアドレス (1 番)	user_c_name@mailserver.com
メールアドレス (2 番)	—
メールアドレス (3 番)	—
メールアドレス (4 番)	—
件名	—
本文	—
送信先(文字コード)	ISO-2022-JP
送信先 D	
メールアドレス (1 番)	user_d_name@mailserver.com
メールアドレス (2 番)	—
メールアドレス (3 番)	—
メールアドレス (4 番)	—
件名	—
本文	—
送信先(文字コード)	ISO-2022-JP

## ■ "ユーザーの管理" ページ

設定名	初期値
<b>ユーザーリスト</b>	
登録ユーザー	ユーザー名: admin、権限: 管理者 ユーザー名: guest、権限: ユーザー

\* ユーザーパスワードの初期値は、ユーザー名と同じパスワードとなっています。



## ■ "セッションの管理" ページ

設定名	初期値
<b>アイドル・セッション・タイムアウト</b>	
ログアウトタイム[分]	15

## ■ "ログ機能の編集" ページ

設定名	初期値
<b>ログ機能の編集</b>	
ログの送信	禁止
ログサーバ(IP アドレス)	192.168.0.116
ログサーバ(ポート番号)	514
通信プロトコル	UDP
ログファシリティ	LOG_LOCAL0

## ■ "日付と時刻の編集" ページ

設定名	初期値
<b>日付/時刻とタイムゾーンの設定</b>	
タイムゾーン地域名称(略称)	JST
協定世界時との差分	GMT +09 : 00
<b>NTP の設定</b>	
NTP サーバ名/IP アドレス	ntp.nict.jp
起動時時刻調整	無効
周期時刻調整	無効
周期[分]	60

## ■ "高度な設定" ページ

設定名	初期値
<b>上部カラーの指定</b>	
背景色	99CCFF
文字色	000000
<b>消費電力計算</b>	
監視開始待ち時間[分] (1 番)	0
監視開始待ち時間[分] (2 番)	0
監視開始待ち時間[分] (3 番)	0
監視開始待ち時間[分] (4 番)	0
実効値換算係数[%] (1 番)	100
実効値換算係数[%] (2 番)	100
実効値換算係数[%] (3 番)	100
実効値換算係数[%] (4 番)	100
<b>挙動の設定</b>	
システム起動時	コンセント 1 の電源を ON にする: 無効
	コンセント 2 の電源を ON にする: 無効
	コンセント 3 の電源を ON にする: 無効
	コンセント 4 の電源を ON にする: 無効
	電力データを復元する: 有効 "補充しない"
サーキットプロテクタ トリップ時	全コンセントの電源を OFF にする: 有効
手動 ON/OFF 操作時	監視動作を停止する: 無効
簡易情報の自動更新	自動更新を停止する: 無効

# MEMO

## 4

Web  
インター  
フェース

110

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT  
取扱説明書

## Chapter 5 - コマンド仕様

コマンド操作に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、コマンドの仕様について説明しています。

# 5

### 本章の内容

---

5.1 コマンド概要	112 ページ
5.2 コマンドの書式	112 ページ
5.3 コマンド実行時のエラー表示	113 ページ
5.4 コマンド一覧	114 ページ
5.4.1 setip コマンド	115 ページ
5.4.2 setdns コマンド	116 ページ
5.4.3 setpon コマンド	117 ページ
5.4.4 setcp コマンド	118 ページ
5.4.5 setschedule コマンド	119 ページ
5.4.6 setinterval コマンド	120 ページ
5.4.7 setname コマンド	121 ページ
5.4.8 setuser コマンド	122 ページ
5.4.9 setdate コマンド	124 ページ
5.4.10 settimezone コマンド	125 ページ
5.4.11 setntp コマンド	126 ページ
5.4.12 setlog コマンド	127 ページ
5.4.13 setpower コマンド	128 ページ
5.4.14 showip コマンド	129 ページ
5.4.15 showschedule コマンド	130 ページ
5.4.16 showuser コマンド	132 ページ
5.4.17 showpower コマンド	133 ページ
5.4.18 showversion コマンド	136 ページ
5.4.19 showhelp コマンド	137 ページ
5.4.20 ping コマンド	138 ページ
5.4.21 saveconf コマンド	139 ページ
5.4.22 savedata コマンド	140 ページ
5.4.23 cleardata コマンド	141 ページ
5.4.24 defaultconf コマンド	142 ページ
5.4.25 reboot コマンド	143 ページ
5.4.26 exit コマンド	144 ページ

## 5.1. コマンド概要

コマンドは、コンソール/TELNET/SSH 端末から 本製品の 設定・操作を行うための CUI ツールです。

## 5.2. コマンドの書式

画面には、コマンドプロンプトを動作モード別に表示します。それぞれコマンドの書式は以下の通りです。

```
$ コマンド名 [[<引数 1> <引数 2> …]] [[オプション 1] [オプション 2] …]]
```

**書式変更:** フォント : (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント :  
Courier New, 8 pt

### ◆ 記号の意味

[] : 省略可  
<> : 入力  
| : 選択

- コマンドによって必要とする引数の数は異なります。
- オプション設定では、“-a” のように頭に “-” を付加し、英数字 1 文字とします。
- コマンド引数の最初の文字に “-” (ハイフン) を指定することはできません。

### ◆ 使用可能文字について

特に指定のないものは下記の規約とします。

文字列	内容
半角英数字	"0~9"、"a~z"、"A~Z" の文字が使用可能。
特殊文字	"-" (マイナス)、“.” (ドット)、“/” (スラッシュ)、“+” (プラス)、“_” (アンダースコア)、“=” (イコール)、“:” (コロン) が使用可能。

### 5.3. コマンド実行時のエラー表示

コマンド名称あるいは 引数、オプションなどの入力パラメータに問題がある場合は、下記のようにエラー表示され、コマンドは実行されません。

➤ 入力コマンドに問題がある場合

```
$ setipaddress -i 192.168.1.100 Enter
Illegal command. Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

➤ 入力引数に問題がある場合

```
$ setcp_enabled Enter
Illegal argument. Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

➤ 入力オプションに問題がある場合

```
$ setip -p 192.168.1.100 Enter
Illegal option. Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

➤ コマンドを実行する権限がない場合

```
$ setip -p 192.168.1.100 Enter
Permission denied. Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

5  
マ  
ン  
ド

## 5.4. コマンド一覧

コマンドは、大文字小文字区別なく認識します。以下にコマンド一覧を示します。

項	コマンド名	説明	実行権限
1	setip	IP アドレスなどのネットワーク設定を行います。	管理者
2	setdns	DNS 情報を設定します。	管理者
3	setpon	本装置のシステム起動時にコンセントを必ず ON にするか、起動前の状態を維持するかを設定します。	管理者
4	setcp	サーキットプロテクタが作動した場合に、4 つの出力コンセントの状態を OFF に戻すかどうかを設定します。	管理者
5	setschedule	手動でコンセントの制御を行った際に、停止状態となったスケジュール管理設定を有効に戻します。	管理者
6	setinterval	コンセント操作において、ON を実行してから、電源が入るまでの間隔、あるいは OFF を実行してから電源が切れるまでの間隔を設定します。	管理者
7	setname	装置名称、コンセント名称を設定します。	管理者
8	setuser	ユーザーアカウントの登録/変更/削除を行います。	管理者
9	setdate	本装置の日付・時刻設定を行います。	管理者
10	settimezone	本装置のタイムゾーン設定を行います。	管理者
11	setntp	NTP サーバからの時刻調整設定を行います。	管理者
12	setlog	外部 Syslog サーバへのログ保存設定を行います。	管理者
13	setpower	各出力コンセントの ON/OFF を制御します。	管理者 ユーザー
14	showip	本装置のネットワーク設定を表示します。	管理者 ユーザー
15	showschedule	スケジュール管理設定の登録内容を表示します。	管理者 ユーザー
16	showuser	登録されているユーザーをリスト表示します。	管理者 ユーザー
17	showpower	現在のコンセントの状態 および消費電力値を表示します。	管理者 ユーザー
18	showversion	本装置のファームウェアバージョンを表示します。	管理者 ユーザー
19	showhelp	コマンド書式を表示します。"help" あるいは、"? " の入力でも同様のコマンドとなります。	管理者 ユーザー
20	ping	ネットワーク上の機器に対して、ICMP ping パケットを送信します。	管理者 ユーザー
21	saveconf	設定変更を FlashROM に書き込み、保存します。	管理者
22	savedata	各アウトレットの計測電力値を FlashROM に書き込みます。	管理者
23	cleardata	FlashROM に保存されている各アウトレットの計測電力値をクリアします。	管理者
24	defaultconf	全ての設定値をデフォルトに戻します。	管理者
25	reboot	本装置をリブートします。	管理者
26	exit	ログアウトします。	管理者 ユーザー

## 5.4.1 setip コマンド

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、ブロードキャストアドレスを設定します。ただし、DHCP 設定が有効の場合(ディップスイッチ 5 が ON)、本設定内容は無視されます。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

```
setip [-i <IP アドレス>] [-m <サブネットマスク>] [-g <ゲートウェイアドレス>] [-b <ブロードキャストアドレス>]
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

オプション	内容	設定値	初期値
-i	IP アドレス	XXX.XXX.XXX.XXX	192.168.1.100
-m	サブネットマスク	XXX.XXX.XXX.XXX	255.255.255.0
-g	ゲートウェイアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX	192.168.1.1
-b	ブロードキャストアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX	192.168.1.255

- 上記表の設定値 "X" には任意の数値が入ります。
- オプションなしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

## ◆ 実行例

- IP アドレスを 192.168.1.100 に設定します。

```
$ setip -i 192.168.1.100 
IP Address      : 192.168.1.100
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- IP アドレスを 192.168.1.70、サブネットマスクを 255.255.255.0、ゲートウェイアドレスを 192.168.1.1、ブロードキャストアドレスを 192.168.1.255 に設定します。

```
$ setip -i 192.168.1.70 -m 255.255.255.0 -g 192.168.1.1 -b 192.168.1.255 
IP Address      : 192.168.1.70
Subnet Mask     : 255.255.255.0
Gateway Address : 192.168.1.1
Broadcast Address : 192.168.1.255
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

5

コマンド仕様

5.4.2 setdns コマンド

DNS 情報を設定します。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

 参照 [5.4.21 saveconf コマンド \(139 ページ\)](#)

◆ 書式

setdns [-p <プライマリ DNS サーバアドレス>] [-s <セカンダリ DNS サーバアドレス>]

◆ コマンド引数

なし

◆ オプション項目

オプション	内容	設定値	初期値
-p	プライマリ DNS サーバアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX	-
-s	セカンダリ DNS サーバアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX	-

- 上記表の設定値 "X" には任意の数値が入ります。
- オプションなしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

◆ 実行例

➤ プライマリ DNS サーバアドレスを 192.168.1.50 に設定します。

```
$ setdns -p 192.168.1.50 
Primary DNS      : 192.168.1.50
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

➤ セカンダリ DNS サーバアドレスを 192.168.1.55 に設定します。

```
$ setdns -s 192.168.1.55 
Secondary DNS   : 192.168.1.55
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt



### 5.4.3 setpon コマンド

本装置のシステム起動時にコンセントを ON の状態にするか、起動前の状態を維持するかを設定します。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

📖 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

◆ 書式

setpon [<コンセント番号> <on | keep>]

◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
コンセント番号	コンセント番号を指定します。	1=コンセント 1 2=コンセント 2 3=コンセント 3 4=コンセント 4 all=全コンセント	-
on   keep	システム起動時のコンセント動作を指定します。	on=コンセントを ON にする keep=起動前のコンセントの状態を維持する。初期投入時は OFF にする	keep

5

コマンド仕様

- 引数なしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

◆ オプション項目

なし

◆ 実行例

- システム起動時にコンセント 1 を ON にするように設定します。

```
$ setpon 1 on Enter
Outlet 1 : ON in the case of system booted.
$
```

書式変更: フォント: (英) Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- 現在のシステム起動時の各コンセントの ON/OFF 設定の状態を確認します。下のよう  
に "ON" と表示されたコンセントは、システム起動時に ON になるよう設定されていることを示します。

```
$ setpon Enter
-----
No. | Action in the case of system booted
-----
 1 | ON
 2 | KEEP
 3 | KEEP
 4 | KEEP
$
```

書式変更: フォント: (英) Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

## 5.4.4 setcp コマンド

出力コンセントの電流値合計がトリップ値を超えて、サーキットプロテクタが作動した場合に、4つの出力コンセントの状態を OFF に戻すか、ON のままにするかを設定します。  
本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

☞ 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

```
setcp [<on | off>]
```

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
on   off	サーキットプロテクタトリップ時のコンセント動作を指定します。	on=コンセントの ON 状態を維持する off=コンセントの状態を OFF にする	off

- 引数なしでコマンドを実行すると、現在の設定状態が表示されます。

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- サーキットプロテクタ動作時に出力コンセント状態が OFF になるように設定します。

```
$ setcp off Enter
Outlet action in the case of CP Trip: OFF
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- サーキットプロテクタ動作時に出力コンセント状態が ON を維持するように設定します。

```
$ setcp on Enter
Outlet action in the case of CP Trip: ON
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## ◆ 備考

本設定が ON の場合、サーキットプロテクタが作動した後、復帰ボタンを戻すとコンセント出力は ON の状態を維持しているため、すぐに再びサーキットプロテクタがトリップ状態になることが予想されます。復帰ボタンを戻す前に電源供給装置側の原因を除去してください。

## 5.4.5 setschedule コマンド

コンセントの手動 ON/OFF 操作(power コマンドあるいは、Web インターフェース設定画面からの手動 ON/OFF)実行により、停止状態になったスケジュール管理設定を有効に戻します。

本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

📖 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

setschedule [<コンセント番号>]

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
コンセント番号	コンセント番号を指定します。	1=コンセント 1 2=コンセント 2 3=コンセント 3 4=コンセント 4 all=全コンセント	-

- 引数なしでコマンドを実行すると現在の各コンセントのスケジュール 動作/停止の状態が表示されます。

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 停止状態となっているコンセント 1 のスケジュール管理設定を有効に戻します。

```
$ setschedule 1 Enter
Schedule outlet 1: resumed
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- 現在の各コンセントのスケジュール管理設定の状態を確認します。下のよう  
に "suspend" と表示されたコンセントは、スケジュール管理設定が停止状態であることを示します。

```
$ setschedule Enter
Schedule outlet 1: running
Schedule outlet 2: suspend
Schedule outlet 3: suspend
Schedule outlet 4: running
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

5

コマンド仕様

## 5.4.6 setinterval コマンド

コンセント操作において、ONを実行してから、電源が入るまでの間隔、あるいはOFFを実行してから電源が切れるまでの間隔を設定します。

本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

```
setinterval [-n <電源投入間隔>] [-f <電源切断間隔>]
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

オプション	内容	設定値	初期値
-n	電源が投入されるまでの間隔(秒単位)	0.1~60	0.5
-f	電源が切断されるまでの間隔(秒単位)	0.1~60	0.5

- オプションなしでコマンドを実行すると現在の動作間隔が表示されます。

## ◆ 実行例

- 電源投入されるまでの間隔を 3 秒に、電源切断されるまでの間隔を 2.5 秒に設定します。

```
$ setinterval -n 3 -f 2.5 
Set Interval      : completed
Set Interval      : completed
$
```

- 現在のコンセント操作の動作間隔を表示します(オプションなしで実行)。

```
$ setinterval 
ON Interval       : 3.0[sec]
OFF Interval      : 2.5[sec]
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス、スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.7 setname コマンド

装置名称、コンセント名称を設定します。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

📖 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

setname [<コンセント番号 | 装置> <名称>]

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
コンセント番号   装置	設定するコンセント番号、あるいは装置本体を指定します。	1=コンセント1 2=コンセント2 3=コンセント3 4=コンセント4 h=装置	-
名称	設定するコンセント名称、あるいは装置名称を指定します。	31 文字までの半角英数特殊文字	outlet1 outlet2 outlet3 outlet4 FX-5104N1

5

コマンド仕様

- 引数なしでコマンドを実行すると、現在設定されている各コンセント名称、装置名称が表示されます。

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- コンセント 1 の名称を "test1" に設定します。

```
$ setname 1 test1 Enter
Outlet 1 name : test1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- 本装置の名称を "device1" に設定します。

```
$ setname h device1 Enter
Host name : device1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- 現在の設定名称を確認します(引数なしでコマンド実行)。

```
$ setname Enter
Host name : FX-5104N1
Outlet 1 name : test1
Outlet 2 name : test2
Outlet 3 name : test3
Outlet 4 name : test4
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.8 setuser コマンド

ユーザーアカウントの登録、変更、削除を実行します。

本コマンドを実行することができるのは、“管理者” 権限を持つアカウントです。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

```
setuser [-a <新規登録ユーザー名称>] [-m <設定変更ユーザー名称>] [-d <削除ユーザー名称>] [-p <設定パスワード>] [-g <ユーザー権限>]
```

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
ユーザー名称	登録するユーザー名称を指定します。	1~31 文字(半角英数、特殊文字)	-

## ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-a	新規登録ユーザー名称	1~31 文字(半角英数、特殊文字) * 既に登録されている名称の場合、エラーとなります。	-
-m	設定変更ユーザー名称	1~31 文字(半角英数、特殊文字) * 登録されていない名称の場合、エラーとなります。	-
-d	削除ユーザー名称	1~31 文字(半角英数、特殊文字) * 登録されていない名称の場合、エラーとなります。	-
-p	設定パスワード	0~31 文字(半角英数、特殊文字)	-
-g	ユーザー権限	admin=管理者 user=ユーザー	-

- -a, -m, -d オプションを 2 つ以上含んでコマンドを実行することはできません。
- オプションなしでコマンドを実行すると、現在登録されているアカウントが表示されます。
- -d オプションを含む場合は、他のオプションは無視されます。

## ◆ 入力可能文字

文字列	内容
半角英数字	"0~9"、"a~z"、"A~Z" の文字が使用可能。
特殊文字	"!", "%", "*", "+", "-", ".", "/", "=", "?", "@", "[", "]", "_", "{", "}", "~" が使用可能。

## ◆ 実行例

- "user1" という名称、パスワード「test1」、「ユーザー」権限 のアカウントを登録します。

```
$ setuser -a user1 -p test1 -g user Enter
Add user      : user1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- アカウント "user1" のパスワードを「himitsu」に変更します。

```
$ setuser -m user1 -p himitsu Enter
Modify user   : user1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- アカウント "user1" の権限を「管理者」に変更します。

```
$ setuser -m user1 -g admin Enter
Modify user   : user1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- アカウント "user1" を削除します。

```
$ setuser -d user1 Enter
Delete user   : user1
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- 新規アカウントを登録において、既に登録されているユーザー名の場合、下記のように表示され、コマンドは実行されません。

```
$ setuser -a master1 -g user1 Enter
The user already exists.
Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- アカウントの設定を変更する際に、指定したアカウントが登録されていない場合は、下記のように表示され、コマンドは実行されません。

```
$ setuser -m tester3 -g admin Enter
The user is not exists.
Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- アカウントを削除する際に、指定したアカウントが登録されていない場合は、下記のように表示され、コマンドは実行されません。

```
$ setuser -d tester14 Enter
The user is not exists.
Command is not executed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

5.4.9 setdate コマンド

本装置の日付設定を手動で行います。

◆ 書式

setdate [<年月日時分秒>]

◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
年月日	本装置の内蔵時計の年月日を指定します。	YYYYMMDDhhmmss YYYY : 西暦を 4 桁数字で指定します。 MM : 月を 2 桁数字(01~12)で指定します。 DD : 日を 2 桁数字(01~31)で指定します。 hh : 時を 2 桁数字(00~23)で指定します。 mm : 分を 2 桁数字(00~59)で指定します。 ss : 秒を 2 桁数字(00~59)で指定します。	-

- ss を省略した場合は、00 秒として処理されます。
- 引数なしでコマンドを実行すると、内蔵時計の現在の日時が表示されます。
- 2 月 29 日を指定した場合、指定の年がうるう年の場合、正しく 2/29 となります。うるう年以外の場合、3 月 1 日に設定されます。
- 2 月は、30、31 日を指定した場合、エラーとなります。4、6、9、11 月は、31 日を指定した場合、エラーとなります。

◆ オプション項目

なし

◆ 実行例

- 本装置の内蔵時計の日付を 2009 年 1 月 9 日 12 時 18 分 30 秒に合わせます。

```
$ setdate 20090109121830 Enter
Set date : completed
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- 現在の設定日時を確認します(引数なしでコマンド実行)。

```
$ setdate Enter
Fri Jan 9 12:18:37 2008
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt



## 5.4.10 settimezone コマンド

時刻調整を行うためのタイムゾーンの設定を行います。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

📖 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

## ◆ 書式

```
settimezone [-n <タイムゾーン名称>] [-d <GMT との差分>]
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-n	タイムゾーンの地域名称を指定します。	1~4 文字(半角英数字)	JST
-d	協定世界時(GMT)との差分を指定します。	+HH:MM あるいは -HH:MM の書式で指定します。例: -03:15  +/-HH : 時の差分を -12 から +13 の範囲で数字部は 2 桁の整数で指定する。  MM : 分の差分を 00, 15, 30, 45 のいずれかに指定する。	+09:00

- オプションなしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

## ◆ 実行例

- 現在のタイムゾーンの設定を確認します。

```
$ settimezone Enter
GMT+09:00 : JST
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- タイムゾーンの地域名称を "NGN" に、GMT との差分を -03:30 に設定します。

```
$ settimezone -n NGN -d -03:30 Enter
GMT-03:30 : NGN
Set timezone : completed.
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

5

コマンド仕様

5.4.11 setntp コマンド

時刻調整を行うための NTP サーバの設定を行います。本コマンドを実行した後、設定値を FlashROM に保存するために、saveconf コマンドを実行してください。

📖 参照 5.4.21 saveconf コマンド (139 ページ)

◆ 書式

```
setntp [-d] [-s <NTP サーバアドレス>] [-b <起動時時刻調整>] [-c <周期時刻調整>]
      [-t <同期間隔>]
```

◆ コマンド引数

なし

◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-d	NTP サーバとの時刻同期を 1 回実行する	なし	-
-s	NTP サーバアドレス/ NTP サーバ名	IP アドレス: XXX.XXX.XXX.XXX あるいは、サーバ名	ntp.nict.jp
-b	起動時時刻調整	on: 起動時時刻調整の有効 off: 起動時時刻調整の無効	off
-c	周期時刻調整	on: 周期時刻調整の有効 off: 周期時刻調整の無効	off
-t	同期間隔	NTP サーバに対して時刻同期を行う 周期を指定します(分単位)。	60

- オプションなしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

◆ 実行例

- 現在の NTP サーバ設定で時刻同期を実行します。

```
$ setntp -d 
NTP Adjust : completed
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- NTP サーバへのアクセスができないなどの要因により 時刻同期に失敗した場合、下記のように表示されます。

```
$ setntp -d 
NTP Adjust : failed
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- NTP サーバ 192.168.1.80 に対して、120 分周期で同期を行うように設定します。

```
$ setntp -s 192.168.1.80 -c on -t 120
NTP Address      : 192.168.1.80
Boot Adjust     : OFF
Auto Adjust     : ON
Adjust Interval : 120
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

### 5.4.12 setlog コマンド

外部の Syslog サーバへのログ保存設定を行います。

#### ◆ 書式

```
setlog [-d <1 | 0>] [-i <Syslog サーバアドレス>] [-p <Syslog サーバ TCP ポート番号>]
      [-t <1 | 0>] [-f <ログファシリティ番号>]
```

#### ◆ コマンド引数

なし

#### ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-d	外部 Syslog サーバへのログ保存の有効/無効	1: Syslog サーバへのログ保存の有効 0: Syslog サーバへのログ保存の無効	0 (Disable)
-i	Syslog サーバアドレス	IP アドレス: XXX.XXX.XXX.XXX	192.168.0.116
-p	TCP ポート番号	Syslog サーバにログ保存するための TCP ポート番号を指定します。	514
-t	プロトコルタイプ	1: TCP 0: UDP	0 (UDP)
-f	ファシリティ番号	ファシリティ番号を指定します。 0~7 まで指定することができます。	0 (LOG_LOCAL0)

- オプションなしでコマンドを実行すると、現在の設定値が表示されます。

#### ◆ 実行例

- 現在の設定を確認します。

```
$ setlog
Log Send          : Disable
Syslog server IP Address : 192.168.0.116
Syslog server Port   : 514
Syslog Protocol Type : UDP
Syslog Facility     : LOG_LOCAL0
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

5

コマンド仕様

- Syslog サーバへのログ保存を次のように設定します。IP アドレス “192.168.1.50”、プロトコルタイプ “TCP”、Syslog ファンリティ “LOG\_LOCAL3”。

```
$ setlog -d 1 -i 192.168.1.50 -t 1 -f 3 Enter
Log Send          : Enable
Syslog server IP Address : 192.168.1.50
Syslog Protocol Type  : TCP
Syslog Facility     : LOG_LOCAL3
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

### 5.4.13 setpower コマンド

出力コンセントの ON/OFF を制御します。

#### ◆ 書式

setpower [<コンセント番号> <on | off>]

#### ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
コンセント番号	コンセント番号を指定します。	1=コンセント 1 2=コンセント 2 3=コンセント 3 4=コンセント 4 all=全コンセント	-
on   off	コンセントの電源投入/切断の制御を指定します。	on=電源投入する off=電源切断する	-

#### ◆ オプション項目

なし

#### ◆ 実行例

- コンセント 1 を ON します。

```
$ setpower 1 on Enter
Outlet 1      : ON
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

- 全コンセントを OFF します。

```
$ setpower all off Enter
Outlet 1      : OFF
Outlet 2      : OFF
Outlet 3      : OFF
Outlet 4      : OFF
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Courier New, 8 pt

## 5.4.14 showip コマンド

本装置の現在のネットワーク設定を表示します。

## ◆ 書式

showip

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 現在のネットワーク設定を確認します。

```

$ showip Enter
-----+-----
MAC Address          | 00:e0:00:ee:fd:05
Machine Name        | FX-5104N1
D.H.C.P.            | Disabled
IP Address           | 192.168.1.100
Netmask              | 255.255.255.0
Gateway              | 192.168.1.1
Broadcast            | 192.168.1.255
Primary DNS          |
Secondary DNS        |
$

```

5

コマンド仕様

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

5.4.15 showschedule コマンド

スケジュール管理設定の登録内容を表示します。

◆ 書式

showschedule [<スケジュール番号>]

◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
スケジュール番号	登録されているスケジュール番号を指定します。	01~20の2桁半角数字	-

- 登録されていないスケジュール番号の場合、エラーとなります。
- 引数なしでコマンドを実行すると、全スケジュール情報が表示されます。

◆ オプション項目

なし

◆ 実行例

- 現在登録されている全てのスケジュール管理設定を確認します。

```

$ showschedule Enter
-----
Schedule 1
-----
Status           | Enabled
Outlet No.       | 1, 2, 3, 4
Interval         | Every Monday, Friday, Sunday
Expiration date   | 2008/01/01 - 2010/12/31
Execution time    | 17:00
Outlet power     | ON
-----
Schedule 2
-----
Status           | Disabled
Outlet No.       | 2, 4
Interval         | 1st of Each Month
Expiration date   | 2008/01/01 - 2010/12/31
Execution time    | 17:00
Outlet power     | OFF
-----
Schedule 3
-----
Status           | Enabled
Outlet No.       | 1, 3
Execution date    | 2009/01/23
Execution time    | 17:00
Outlet power     | ON
-----
$
    
```

**書式変更:** フォント : (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント :  
Courier New, 8 pt

各表示内容は、下記のとおりです。

項	内容
Status	スケジュール管理設定の有効/無効 状態が表示されます。 Enabled : 有効 Disabled : 無効
Outlet No.	制御対象のコンセント番号が表示されます。
Interval	毎日、あるいは指定の曜日、日付で制御を行う、繰り返し予定の設定が表示されます。 Everyday : 毎日制御が行われることを示します。 Every "曜日" : 毎週 指定した曜日に制御が行われることを示します。 "日付" of each month: 毎月 指定した日付に制御が行われることを示します。
Expiration date	スケジュールが有効となる期間の開始年月日および終了年月日が表示されます。 YYYY/MM/DD – YYYY/MM/DD YYYY : 西暦 MM : 月 DD : 日
Execution date	特定の日時に制御を行う、通常予定の日付設定が表示されます。 YYYY/MM/DD YYYY : 西暦 MM : 月 DD : 日
Execution time	制御を行う、時刻設定が表示されます。 HH:MM HH : 時 MM : 分
Outlet power	スケジュール設定した日時が来た場合のコンセント制御 (ON/OFF) が表示されます。 ON : コンセントを ON にします。 OFF : コンセントを OFF にします。

## 5

コマンド仕様

## 5.4.16 showuser コマンド

登録されているアカウントをリスト表示します。コマンド実行後に表示されるリスト上の User Group の項目は、それぞれ "admin": 管理者、"user": ユーザー を示し、アカウントに対応する権限を意味します。

## ◆ 書式

```
showuser
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 現在の登録されているアカウント情報を確認します。

```
$ showip Enter
-----
User Name / User Group
-----
admin / admin
guest / user
user1 / user

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレッ  
クス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt



## 5.4.17 showpower コマンド

各コンセントの現在の消費電力値、計測開始からの最大消費電力値、最小消費電力値、平均消費電力値を表示します。

標準モード、CSV モードの 2 種類の表示モードを選択することができ、標準モードの場合、一定のフォーマットで、計測値が更新表示されます。CSV モードの場合、Web インターフェースの「計測値のダウンロード」画面でダウンロードすることができる計測値の CSV ファイルと同様のフォーマットで計測値が表示されます。

CSV モードで表示させたデータをそのまま保存することで、Excel テンプレートによる消費電力値のグラフ表示に用いることができます。

また、電圧値をオプション指定し、計測電流値から消費電力値を算出する際のパラメータとして使用することができます。任意のキー (Alt, Shift, Ctrl キーなどは不可) を入力する、あるいは指定の回数だけ表示を実行すると表示モードは終了します。

5

コマンド仕様

## ◆ 書式

```
showpower [-i <表示間隔>] [-n <表示回数>] [-v <電圧値>] [-m <表示モード>]
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-i	消費電力値の表示 (更新) 間隔を指定します。	0.4 [秒] 単位の値を設定可能 (例: 0.4, 0.8, 1.2, 1.6, ...)	0.4
-n	表示回数を指定します。	1~3600 [回] の範囲で設定可能 0 を指定すると任意のキー入力があるまで連続表示されます。	1
-v	電圧値を指定します。計測電流値から消費電力値を算出する際のパラメータとして利用されます。	95~107 [V] の範囲で設定可能	100
-m	表示モードを指定します。	std : 標準モード。消費電力値を一定のフォーマットで更新表示します。 csv : CSV モード。「計測値のダウンロード画面」でダウンロードすることができる CSV ファイルと同様のフォーマットで消費電力値を表示します。	std

\* オプションを省略してコマンドを実行すると、各オプションの初期値条件で表示されます。

◆ 実行例: 標準モード

- 表示間隔を 1.2[秒]、表示回数を 10[回]、電圧値パラメータを 103[V]に指定し、標準モードで表示させます。表示途中で表示を終了させるには、任意のキーを入力します。(デフォルトの表示は、標準モードのため "-m std" パラメータは省略可能)

```
$ showpower -i 1.2 -n 10 -v 103 -m std Enter
Electric Power Statistics
-----
Outlet1  Outlet2  Outlet3  Outlet4
-----
Status   ON       ON       ON       ON
Schedule running  running  running  suspend

Now      203[W]   208[W]   126[W]   114[W]
Max      233[W]   235[W]   165[W]   178[W]
Min      191[W]   197[W]   102[W]   97[W]
Avg      205[W]   208[W]   123[W]   110[W]

Power Voltage parameter : 103[V]
Press any key to exit this display mode.
```

書式変更: フォント : (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント :  
Courier New, 8 pt

標準モード時の表示内容

項目名	説明
Status	各出力コンセントの現在の状態を ON/OFF で示します。
Schedule	各出力コンセントのスケジュール監視設定の状態を示します。 suspend : スケジュール管理設定が停止状態になっている running : スケジュール管理設定が有効になっている
Now	最新の消費電力値を表示します。
Max	計測開始からの消費電力値の最大値を表示します。
Min	計測開始からの消費電力値の最小値を表示します。
Avg	計測開始からの消費電力値の平均値を表示します。

## ◆ 実行例: CSV モード

- 表示間隔を 0.4[秒]、表示回数を 100[回]、電圧値パラメータを 98[V]に指定し、CSV モードで表示させます。表示途中で表示を終了させるには、任意のキーを入力します。

```

$ showpower -i 0.4 -n 100 -v 98 -m csv Enter
hostname,FX-5104N1,
MAC address,00:e0:00:ee:fd:05,
IP address,192.168.1.50,
unit,electric power[W]

date,outlet1,outlet2,outlet3,outlet4,
2009/7/22 08:54:16.4,200,204,119,0,
2009/7/22 08:54:16.8,200,204,119,0,
2009/7/22 08:54:17.2,200,204,120,0,
2009/7/22 08:54:17.6,200,204,120,0,
2009/7/22 08:54:18.0,199,203,120,0,
2009/7/22 08:54:18.4,200,206,120,0,
(以下、任意のキー入力が発行される、あるいは 100 回の計測値表示が終了するまでデータ出力されます)

```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スク립ト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

5

コマンド仕様

本表示モードで出力された表示データを CSV ファイルとして保存し、本製品に添付の CD-ROM 内に格納されている Excel テンプレートに読み込ませることにより、計測したデータをグラフ表示することができます。

グラフ表示の方法については、添付 CD-ROM 内の「SERVIS IP Remote Power Controller 4PORT\_Excel テンプレートの使い方.pdf」をご参照ください。

## 5.4.18 showversion コマンド

本装置のファームウェアバージョンを表示します。

## ◆ 書式

showversion

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 本装置の現在のファームウェアバージョンを表示します。

```
$ showversion Enter
-----+-----
Bootloader      | V1L03
Kernel          | V1L04
Filesystem      | V1L06

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.19 showhelp コマンド

コマンド書式の一覧を表示します。"help" あるいは、"?" の入力でも同様のコマンドとなります。

## ◆ 書式

showhelp [<コマンド名>]

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
コマンド名	コマンド名を指定します。	半角英字	-

5

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

➤ power コマンドの書式を表示させます。

```
$ showhelp setpower Enter
Usage: setpower [<outlet number> <on | off>]

Execute outlet on/off

<outlet number>      Outlet number to operate(1-4 or all)
<on | off>           Specify outlet power ON/OFF

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

コマンド仕様

➤ コマンドの説明一覧を表示させます。

```
$ showhelp Enter

Command      Description
=====
setip        Set network information such as IP address, etc.
setdns       Set DNS information.
Setpon       Set outlet power ON/KEEP in the case of system booted.
setcp        Set outlet action in the case of circuit protector tripped.
setschedule  Resume schedule settings.
setinterval  Set time interval to ON/OFF for each outlet.
setname      Set outlet/device name.
setuser      Add/Modify/Delete user account.
setdate      Set internal time.
settimezone  Set time zone parameter.

(途中省略)

defaultconf  Restore settings to factory defaults.
reboot       Reboot this device.
exit         Logout console connection.

$
```

## 5.4.20 ping コマンド

ネットワーク上の機器に対して、ICMP ping パケットを送信します。

## ◆ 書式

```
ping [-c <送信回数>] <送信先 IP アドレス>
```

## ◆ コマンド引数

引数	内容	設定値	初期値
送信先 IP アドレス	ping パケット送信先の IP アドレスを指定します。	XXX.XXX.XXX.XXX (XXX は 0~255)	-

## ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-c	送信回数	パケット送信回数を数字で指定します。	-

- オプションなしでコマンドを実行すると、4 回 ping パケットを送信します。

## ◆ 実行例

- 192.168.1.50 に対して ping を実行します。

```
$ ping 192.168.1.50 Enter
PING 192.168.1.50 (192.168.1.50): 56 data bytes
64 bytes from 192.168.1.50: seq=0 ttl=128 time=4294966.767 ms
64 bytes from 192.168.1.50: seq=1 ttl=128 time=0.461 ms
64 bytes from 192.168.1.50: seq=2 ttl=128 time=0.454 ms
64 bytes from 192.168.1.50: seq=3 ttl=128 time=0.459 ms

--- 192.168.1.50 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.454/1073742.035/4294966.767 ms
$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スク립ト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.21 saveconf コマンド

設定値を FlashROM に書き込みます。

## ◆ 書式

```
saveconf
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 設定値を FlashROM に書き込みます。

```
$ saveconf Enter  
Save Configuration  
$
```

5

コマンド仕様

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

### 5.4.22 savedata コマンド

各アウトレットの計測電力値を FlashROM に書き込みます。

◆ 書式

savedata

◆ コマンド引数

なし

◆ オプション項目

なし

◆ 実行例

- 計測値を FlashROM に書き込みます。

```
$ savedata Enter
Save electric power data to FlashROM starting, don't turn off!
please wait for 10 seconds...

Save electric power data.

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt



## 5.4.23 cleardata コマンド

FlashROM に保存されている各アウトレットの計測電力値をクリアします。

## ◆ 書式

cleardata

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

- 計測値を FlashROM に書き込みます。

```
$ savedata Enter
Clearing electric power data from FlashROM.
please wait for 5 seconds...

Clear electric power data.

$
```

5


コマンド仕様

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.24 defaultconf コマンド

設定値をデフォルトに戻します。

本コマンドを実行した後、設定値を反映させるためには、本装置を再起動する必要があります。reboot コマンドを実行してください。

 参照 [5.4.25 reboot コマンド \(143 ページ\)](#)

## ◆ 書式

```
defaultconf [-n | -a]
```

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

引数	内容	設定値	初期値
-n	ネットワーク設定値をデフォルトに戻す。	なし	-
-a	全ての設定値をデフォルトに戻す。	なし	-

## ◆ 実行例

- ネットワーク設定をデフォルトに戻します。

```
$ defaultconf -n Enter
Restored network settings to factory defaults.
Reboot this device to enable the factory default settings.

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

- 全ての設定値をデフォルトに戻します。

```
$ defaultconf -a Enter
Restored all settings to factory defaults.
Reboot this device to enable the factory default settings.

$
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## 5.4.25 reboot コマンド

本装置をリブートします。

## ◆ 書式

reboot

## ◆ コマンド引数

なし

## ◆ オプション項目

なし

## ◆ 実行例

➤ 本装置をリブートします。

```
$ reboot Enter+
Save electric power data to FlashROM starting, don't turn off!
please wait for 10 seconds...

Save electric power data.
The system is going down NOW!

=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
-----
(C) 2010 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
DIPSW Setting: Auto-Nego
Loading system...
|-----25%-----50%-----75%-----|
KOR1.040E*****
FOR1.060E*****
please wait for 80 seconds...
MAC Address 00:e0:00:ee:fd:05

FX-5104N1 login:
```

5

コマンド仕様

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## ◆ 備考

再起動の実行により、各コンセントへの電源供給が停止する(OFFになる)ことはありません。再起動を実行している間、再起動前のコンセントのON/OFFの状態は維持されます。

### 5.4.26 exit コマンド

コマンドモードからログアウトします。

◆ 書式

exit

◆ コマンド引数


なし

◆ オプション項目

なし

◆ 実行例

➤ ログアウトします。

```
$ exit   
FX-5104N1 login:
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレッ  
クス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

## Chapter 6 - 自己診断モード

本製品のハードウェアに関する自己診断を実行するモードについて説明しています。  
ハードウェア的な障害原因を特定する際に用いることができます。

### 本章の内容

---

6.1 自己診断モードの概要	146 ページ
6.2 自己診断モードでの起動	147 ページ
6.3 FlashROM テスト	148 ページ
6.4 SDRAM テスト	150 ページ
6.5 RTC テスト	151 ページ
6.6 リレーテスト	152 ページ
6.7 DIPSW テスト	153 ページ
6.8 Init ボタンテスト	155 ページ
6.9 LED テスト	156 ページ
6.10 Ether テスト	157 ページ

# 6

## 6.1. 自己診断モードの概要

本章では、本製品のハードウェアに関する自己診断を実行するモードについて説明しています。ハードウェア的な障害が発生した場合に、原因を特定するために用いることができます。

自己診断モードでは、下記 8 項目のハードウェア診断を順番にループする形式で実行することができます。

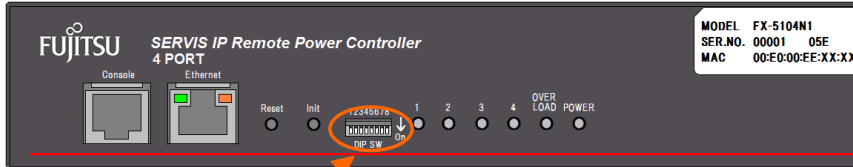
項	診断名	内容
1	FlashROM テスト	FlashROM における、データの Read/Write の正常性を確認します。 FlashROM 内の kernel、filesystem、ユーザーセクタ A、ユーザーセクタ B を SDRAM に退避しておき、0x00 を書き込んでベリファイを実行します。 終了したら、退避しておいた kernel、filesystem、ユーザーセクタ A、ユーザーセクタ B を SDRAM から FlashROM に復元します。
2	SDRAM テスト	SDRAM における、データの Read/Write の正常性を確認します。 SDRAM 内の全空き領域に 0x00 を書き込み、ベリファイを実行します。次に 4byte 毎に 0xAAAAAAAA を書き込んでベリファイし、0x55555555 を書き込んでベリファイする作業を全領域で実行します。終了したら、全空き領域をクリアします。
3	RTC テスト	RTC における、データの Read/Write の正常性を確認します。 RTC の値をバックアップしておき、ダミーの日時を書き込みます。10 秒間待って、RTC の値を読み取り、経過時間のベリファイを実行します。終了したら、バックアップ値を書き込みます。
4	Relay テスト	リレーの ON および OFF 動作の正常性を確認します。 全コンセントの ON → コンセント 1 のみ ON → コンセント 2 のみ ON → コンセント 3 のみ ON → コンセント 4 のみ ON を順番に実行します。
5	DIPSW テスト	ディップスイッチの ON/OFF 動作の正常性を確認します。まず全スイッチを ON にした状態での読み取り、続いて 1~8 のスイッチを順番に OFF にして、各状態での確認を実行します。
6	Init Button テスト	Init ボタンの状態取得の正常性を確認します。 Init ボタンを押下し、状態検出を行います。
7	LED テスト	LED の点灯/消灯状態の正常性を確認します。 全 LED の緑色点灯 → 全 LED の橙色点灯 → 全 LED (Power LED を除く) の赤色点灯 の動作を、目視で確認します。
8	Ether テスト	Ethernet ポートの正常性を確認します。 IP アドレスおよびゲートウェイアドレスを指定し、ネットワーク上の端末 PC から ping コマンドを実行し、ping パケットの受信を確認します。

## 6.2. 自己診断モードでの起動

自己診断動作時は、本製品の Console ポートに接続したコンソール端末から制御を行います。コンソール端末の接続方法については、下記をご参照願います。

📖 参照 2.3.2 コンソール端末の接続 (13 ページ)

本製品前面のディップスイッチ 1 のみを ON の状態にして、電源を投入します。



がスイッチを示します。

6

自己診断モード

本製品が自己診断モードで起動すると、コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように表示されます。

```
=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
-----
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
-----
--- selftest starting
FlashROM test? [Yes/No]:
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス、スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

次項から、各診断内容について詳しく説明します。

### 6.3. FlashROM テスト

FlashROM における、データの Read/Write の正常性を確認します。  
FlashROM 内の kernel、filesystem、ユーザーセクタを SDRAM に退避しておき、0x00 を書き込んで、ペリファイを実行します。  
終了したら、退避しておいた kernel、filesystem、ユーザーセクタを SDRAM から FlashROM に復元します。

#### ◆ 実行例

1. 下のように、FlashROM テストの入力待ち状態となります。FlashROM テストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
--- selftest starting
FlashROM test? [Yes/No]: y 
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

y を入力すると、FlashROM テストが開始され、下記のセクタに対するチェックが実行されます。

セクタ	処理内容
00 - 61	Read, Verify, Erase, Restore, Verify
124 - 127	Read, Verify, Erase, Write (0x00 の書き込み), Restore, Verify

2. エラーが全くない場合は、下のようにテスト内容が表示されます。

```
FlashROM testing...DO NOT POWER OFF!!
sector 00: Read => Erase => Restore : OK
sector 01: Read => Erase => Restore : OK
sector 02: Read => Erase => Restore : OK
sector 03: Read => Erase => Restore : OK
-- 途中省略 --
sector 58: Read => Erase => Restore : OK
sector 59: Read => Erase => Restore : OK
sector 60: Read => Erase => Restore : OK
sector 61: Read => Erase => Restore : OK
sector124: Read => Erase => Write (00) => Restore : OK

sector125: Read => Erase => Write (00) => Restore : OK

sector126: Read => Erase => Write (00) => Restore : OK

sector127: Read => Erase => Write (00) => Restore : OK

Result : OK
```



各処理の段階でエラーが発生した場合は、下記のように表示され、テストは停止・終了します。

Read => で verify エラーが発見された場合

```
sector XX: Read ***NG : verify err(アドレス)
```

Read => Erase で erase エラーが発見された場合

```
sector XX: Read => Erase ***NG : erase err
```

Read => Erase => Restore で Write エラーが発見された場合

```
sector XX: Read => Erase => Restore ***write err(アドレス)
```

Read => Erase => Restore で Write 後の verify でエラーが発見された場合

```
sector XX: Read => Erase => Restore ***verify err(アドレス)
```

Read => Write(FF) で erase エラーが発見された場合

```
sector XX: Read => Write(FF) ***NG : erase err
```

Read => Write(FF) で Write 後の verify エラーが発見された場合

```
sector XX: Read => Write(FF) ***NG : verify err(アドレス)
```

Read => Write(00) で erase エラーが発見された場合

```
sector XX: ~略~ => Write(00) ***NG : erase err
```

Read => Write(00) で Write 後の verify エラーが発見された場合

```
sector XX: ~略~ => Write(00) ***NG : verify err(アドレス)
```

6

自己診断モード

## 6.4. SDRAM テスト

SDRAM における、データの Read/Write の正常性を確認します。  
SDRAM 内の全空き領域に 0x00 を書き込み、ベリファイを実行します。次に 4byte 毎に 0xAAAAAAAA を書き込んでベリファイし、0x55555555 を書き込んでベリファイする作業を全領域で実行します。終了したら、全空き領域をクリアします。

### ◆ 実行例

1. 下のように、SDRAM テストの入力待ち状態となります。SDRAM テストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
SDRAM test? [Yes/No] y Enter
```

y を入力すると、SDRAM テストが開始され、loader を除く領域 (0c000000 ~ 0fd80000) に対するチェックが実行されます。

2. エラーが全くない場合は、下のようにテスト内容が表示されます。

```
SDRAM testing...
burst access
sequential access

Result : OK
```

各処理の段階でエラーが発生した場合は、下記のように表示され、テストは停止・終了します。

burst access で verify エラーが発見された場合

```
burst access
***HALT : SDRAM verify(all ZERO) error(adr:アドレス, val:値)
```

sequential access で verify(55)エラーが発見された場合

```
sequential access
***HALT : SDRAM verify(0x55555555) error(adr:アドレス, val:値)
```

sequential access で verify(AA)エラーが発見された場合

```
sequential access
***HALT : SDRAM verify(0xAAAAAAAA) error(adr:アドレス, val:値)
```

## 6.5. RTC テスト

RTC における、データの Read/Write の正常性を確認します。  
RTC の値をバックアップしておき、ダミーの日時を書き込みます。10 秒間待って、RTC の値を読み取り、経過時間のベリファイを実行します。終了したら、バックアップ値を書き込みます。

### ◆ 実行例

1. 下のように、RTC テストの入力待ち状態となります。RTC テストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
RTC test? [Yes/No] y Enter
```

y を入力すると、RTC テストが開始され、時刻計測が実行されます。

2. エラーが全くない場合は、下のようにテスト内容が表示されます。

```
RTC testing...

Current time = 03:06:18
measure 10 Sec...
Current time = 03:06:30
RTC OK!
```

計測ができなかった場合は、下記のように表示され、テストは停止・終了します。

```
RTC testing...

Current time = 15 27 53
meacure 10 Sec...
Current time = 15 27 55
RTC NG!
```

6

自己診断モード

## 6.6. リレーテスト

リレーの ON および OFF 動作の正常性を確認します。

全コンセントの ON → コンセント 1 のみ ON → コンセント 2 のみ ON → コンセント 3 のみ ON → コンセント 4 のみ ON を順番に実行します。

本テストは、オペレータ操作が必要です。

### ◆ 実行例

1. 下のように、リレーテストの入力待ち状態となります。リレーテストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
Relay test? [Yes/No] y Enter
```

2. 下のように表示されますので、全ての出力コンセントが ON の状態か任意の機器を接続して確認してください。確認後、スペースキーを押下します。

```
Relay testing...
All on, Check Output Status, and then Hit space key.
```

3. 下のように表示されますので、1 番の出力コンセントのみが ON の状態か任意の機器を接続して確認してください。確認後、スペースキーを押下します。

```
Port1 ON, Check Output Status, and then Hit space key.
```

4. 下のように表示されますので、2 番の出力コンセントのみが ON の状態か任意の機器を接続して確認してください。確認後、スペースキーを押下します。

```
Port2 ON, Check Output Status, and then Hit space key.
```

同様に 3 番、4 番の出力コンセントの確認を実施します。4 番のコンセントの確認が終了すると、下記のように表示され、本テストは終了です。

```
Port4 ON, Check Output Status, and then Hit space key.
Relay testing...END
```

## 6.7. DIPSW テスト

ディップスイッチの ON/OFF 動作の正常性を確認します。まず全スイッチを ON にした状態での読み取り、続いて 1~8 のスイッチを順番に OFF にして、各状態での確認を実行します。本テストは、オペレータ操作が必要です。

### ◆ 実行例

1. 下のように、DIPSW テストの入力待ち状態となります。DIPSW テストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
DIPSW test? [Yes/No] y Enter
```

2. 下のように表示されますので、ディップスイッチの 1~8 のスイッチを全て ON に設定し、スペースキーを押下します。

```
DIPSW testing...
Please SET ALL ON, and then hit space key.
```

3. ディップスイッチ 1~8 の全スイッチ ON の確認に問題がなければ、下のように表示されますので、さらに ディップスイッチの 1 のスイッチのみを OFF に設定し、スペースキーを押下します。(2~8 のスイッチは ON 状態)

```
*** DIPSW ALL ON : OK.(00)
Please sw 1 OFF ,and then hit space key.
```

4. 問題がなければ、下のように表示されますので、さらに ディップスイッチの 2 のスイッチのみを ON に設定し、スペースキーを押下します。(3~8 のスイッチは ON 状態)

```
*** DIPSW 1 OFF : OK.(01)
Please sw 2 OFF ,and then hit space key.
```

6

自己診断モード

上記の操作をスイッチ 8 まで繰り返し、全て問題がなければ、下のようにテスト内容が表示されます。

```
DIPSW testing...
Please SET ALL ON, and then hit space key.
*** DIPSW ALL ON : OK.(00)
Please sw 1 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 1 OFF : OK.(01)
Please sw 2 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 2 OFF : OK.(03)
Please sw 3 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 3 OFF : OK.(07)
Please sw 4 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 4 OFF : OK.(0f)
Please sw 5 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 5 OFF : OK.(1f)
Please sw 6 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 6 OFF : OK.(3f)
Please sw 7 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 7 OFF : OK.(7f)
Please sw 8 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 8 OFF : OK.(ff)
```

エラーの場合は、下記のように表示されます。

```
DIPSW test? [Yes/No]y
DIPSW testing...
Please SET ALL ON, and then hit space key.
*** DIPSW ALL ON : NG.(fe)
Please sw 1 OFF ,and then hit space key.
*** DIPSW 1 OFF : NG.(fe)
```

## 6.8. Init ボタンテスト

Init ボタンの状態取得の正常性を確認します。Init ボタンを押下し、状態検出を行います。本テストは、オペレータ操作が必要です。

### ◆ 実行例

1. 下のように、Init ボタンテストの入力待ち状態となります。Init ボタンテストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行しません。

```
Init Button test? [Yes/No] y Enter
```

2. 下のように表示されますので、本装置前面の Init ボタンを押下します。

```
Init Button testing...
Please Push Init button.
```

3. Init ボタンの押下が検出されると、下のように表示されます。

```
*** detected Init Button action
```

60 秒待っても Init ボタンの押下が検出されなかった場合、下記のように表示されます。ここで y を入力すると再度 Init ボタンテストを実施します。

```
*** Init Button : NG.
restart? [Yes/No]
```

6

自己診断モード

## 6.9. LED テスト

LED の点灯/消灯状態の正常性を確認します。

全 LED の緑色点灯 → 全 LED の橙色点灯 → 全 LED (Power LED を除く) の赤色点灯 の動作を 目視で確認します。

## ◆ 実行例

1. 下のように、LED テストの入力待ち状態となります。LED テストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
LED test? [Yes/No] y Enter
```

2. 下のように表示されますので、本装置前面の全ての LED が緑色点灯状態であるか目視で確認し、スペースキーを押下します。

```
LED testing...
Check All GREEN, and then hit space key.
```

3. 下のように表示されますので、本装置前面の全ての LED が橙色点灯状態であるか目視で確認し、スペースキーを押下します。

```
Check All ORANGE, and then hit space key.
```

4. 下のように表示されますので、本装置前面の Power LED を除く全ての LED が赤色点灯状態であるか目視で確認し、スペースキーを押下して本テストは終了です。

```
Check All RED (without Power), and then hit space key.
```



## 6.10. Ether テスト

Ethernet ポートの正常性を確認します。

IP アドレスおよびゲートウェイアドレスを指定し、ネットワーク上の端末 PC から ping コマンドを実行し、ping パケットの受信を確認します。

### ◆ 実行例

1. 下のように、Etherテストの入力待ち状態となります。Etherテストを実行する場合は、y を入力し、Enter を押下します。n を入力すると、次のテストに移行します。

```
Ether test? [Yes/No] y 
```

2. 下のように表示されますので、割り当てる IP アドレスを 16 進数で指定します。何も入力せずにエンターキーを押下した場合、[ ] の中に記載されている値(下記の例では、C0A80164 すなわち 192.168.1.100)に設定されます。ここでは、C0A801C8 すなわち 192.168.1.200 に設定しています。

```
Ether testing...
Please Input Board IP Address(Hex) [C0A80164] : C0A801C8 
```

3. 下のように表示されますので、割り当てるゲートウェイアドレスを 16 進数で指定します。何も入力せずにエンターキーを押下した場合、[ ] の中に記載されている値(下記の例では、C0A80101 すなわち 192.168.1.1)に設定されます。

```
Please Input Board Gateway(Hex) [C0A80101] : 
```

4. 下のように表示されますので、ネットワーク上の PC から設定した IP アドレスに対して ping コマンドを実行します。

```
IP = C0A801C8
MASK = FFFFFFF0
GW = C0A80101
Please input Ping Command from PC!!
Enter any key to break testing !!
```

5. ping パケットが問題なく受信されると、下のように表示され、本テストは終了です。

```
Get ping!
Result : OK
```

ping パケットを受信できない状態の場合は、コンソール端末でいずれかのキーを入力するとテストは中断・終了となります。

6

自己診断モード

# MEMO

6

目  
次

158

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT  
取扱説明書

## Chapter 7 - その他機能

本製品のサーキットプロテクタ機能、ファームウェアを出荷時の初期設定に戻すためのリカバリーモードについて説明しています。

### 本章の内容

7.1	サーキットプロテクタ機能	160	ページ
7.2	リカバリーモード	161	ページ
7.2.1	カーネルのリカバリー	162	ページ
7.2.2	ファイルシステムのリカバリー	163	ページ
7.2.3	カーネルとファイルシステムのリカバリー	164	ページ
7.2.4	設定値の初期化	165	ページ
7.3	初期設定モードでの起動	166	ページ
7.4	計測データの復元と補完	167	ページ
7.4.1	計測データの復元	167	ページ
7.4.2	計測データの補完	167	ページ

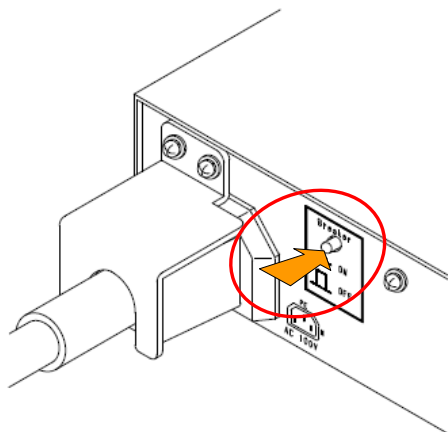
# 7

その他機能

### 7.1.1 サーキットプロテクタ機能

本製品には、15A のサーキットプロテクタが搭載されています。サーキットプロテクタは、コンセントに接続されている負荷の合計が規定の容量を超えると復帰用ボタンが飛び出して回路を遮断します。

この状態になった場合は、原因を調査・対策の上 復帰用ボタンを押し込んで、回路の切断を解除してください。復帰用ボタンは、回路が遮断されてから10秒以上経過してから押してください。10秒以上経過していない場合は、解除されないことがあります。



25°Cの動作環境における、流れる電流量とサーキットプロテクタの動作時間について下記の表に示します。

電流量	動作時間
30A	3.8 秒～18 秒
45A	1.2 秒～2.5 秒
60A	0.6 秒～1.0 秒
75A	0.36 秒～0.6 秒
90A	0.25 秒～0.4 秒
105A	0.14 秒～0.24 秒
150A	0.17 秒以下

高温環境では動作時間が短くなり、低温環境では動作時間が長くなります。

#### 重要

コンセントの出力がショートして急激に大電流が流れた場合、サーキットプロテクタ自身が破損することにより(内部で溶断する)回路を遮断し、装置本体の致命的な故障を防ぎます。その際、サーキットプロテクタの復帰用ボタンが飛び出すことはありません。

サーキットプロテクタの復帰用ボタンが飛び出していない状態で、コンセント出力がONにならない場合は、弊社営業または販売代理店までご連絡ください。

## 7.2. リカバリーモード

ディップスイッチの切り替えにより、本装置のファームウェアを出荷時のバージョン（初期状態）に戻すことができます。ファームウェアのアップデートに失敗したり、アップデートしたファームウェアに問題がある場合、出荷時のファームウェア状態に復元することにより、装置の稼動を保障する機能です。

リカバリー操作には、下表に示す 4 種類があり、それぞれ起動時に装置前面のディップスイッチの状態を検出すると対応するリカバリーモードで動作します。

ディップスイッチ 8 を ON にすることでディップスイッチ 1～7 の設定の意味は変わります。

項	リカバリー動作	ディップスイッチ							
		1	2	3	4	5	6	7	8
1	カーネルを出荷時の状態に復元する	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON
2	ファイルシステムを出荷時の状態に復元する	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON
3	カーネル、ファイルシステムを出荷時の状態に復元する	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON
4	設定値を出荷時の状態に復元する	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON

\* さらに、ディップスイッチ 2 を ON にすると、リカバリー書き込み後にベリファイを実行します。ディップスイッチ 2 が OFF の場合は、ベリファイは実行しません。

リカバリーモードは、本製品の Console ポートに接続したコンソール端末からその動作を確認することができます。コンソール端末の接続方法については、下記をご参照願います。

 参照 [2.3.2 コンソール端末の接続（13 ページ）](#)

次項から、各リカバリー動作について説明します。

7

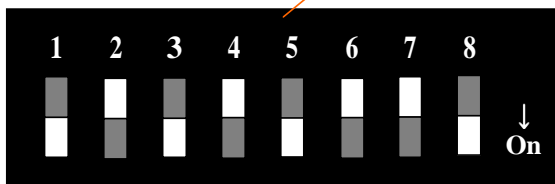
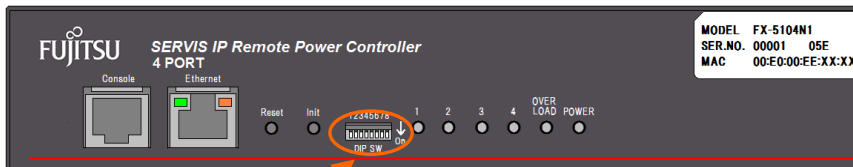
その他機能

## 7.2 リカバリーモード

### 7.2.1 カーネルのリカバリー

本製品のカーネルについて、出荷時の状態にリカバリーする操作手順を説明します。カーネルのアップデートにより、正常に動作しなくなった場合などに、本操作を実行してください。

1. 本製品前面のディップスイッチ 1, 3, 5, 8 を ON の状態にして、Reset ボタンを押下します。



がスイッチを示します。

2. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように表示されます。この状態でカーネルのリカバリーが実行されますので、約 45 秒お待ちください。

```
=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
-----
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
Return to default system(K), please wait for 45 seconds...
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

3. 下記のように表示されれば、カーネルのリカバリーは完了です。ディップスイッチを全て OFF の状態に戻して、Reset ボタンを押下してください。

```
Please turn-off DIPSW and Reset!!
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

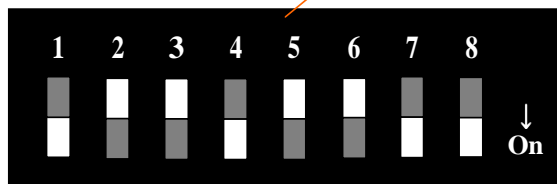
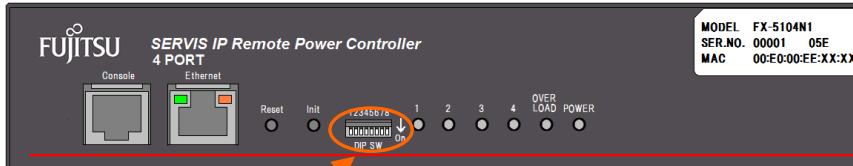
7

その他機能

## 7.2.2 ファイルシステムのリカバリー

本製品のファイルシステムについて、出荷時の状態にリカバリーする操作手順を説明します。ファイルシステムのアップデートにより、正常に動作しなくなった場合などに、本操作を実行してください。

1. 本製品前面のディップスイッチ 1, 4, 7, 8 を ON の状態にして、Reset ボタンを押下します。



がスイッチを示します。

7

その他機能

2. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように表示されます。この状態でカーネルのリカバリーが実行されますので、約 2 分お待ちください。

```
=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
=====
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
Return to default system(F), wait for 2 minutes...
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

3. 下記のように表示されれば、ファイルシステムのリカバリーは完了です。ディップスイッチを全て OFF の状態に戻して、Reset ボタンを押下してください。

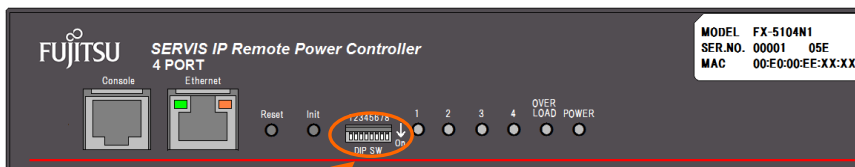
```
Please turn-off DIPSW and Reset!!
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

### 7.2.3 カーネルとファイルシステムのリカバリー

本製品のカーネルとファイルシステムの両方について、出荷時の状態にリカバリーする操作手順を説明します。カーネルおよびファイルシステムのアップデートにより、正常に動作しなくなった場合などに、本操作を実行してください。

1. 本製品前面のディップスイッチ 1, 3, 5, 6, 8 を ON の状態にして、Reset ボタンを押下します。



がスイッチを示します。

2. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように表示されます。まず、この状態でカーネルのリカバリーが実行されますので、約 45 秒お待ちください。

```
=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
=====
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
Return to default system(K), please wait for 45 seconds...
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

3. カーネルのリカバリーが完了すると、引き続き下記のように表示され、ファイルシステムのリカバリーが実行されます。約 2 分お待ちください。

```
Return to default system(F), wait for 2 minutes...
```

4. 下記のように表示されれば、ファイルシステムのリカバリーは完了です。ディップスイッチを全て OFF の状態に戻して、Reset ボタンを押下してください。

```
Please turn-off DIPSW and Reset!!
```

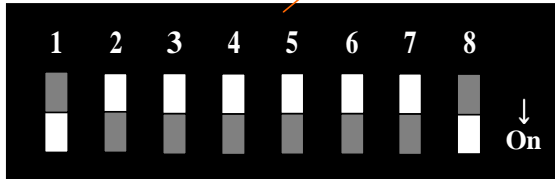
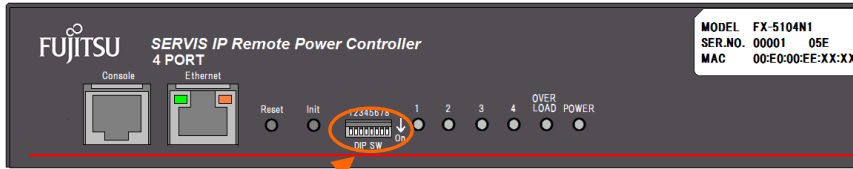
書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt



## 7.2.4 設定値の初期化

本製品の設定値を出荷時の状態にリカバリーする操作手順を説明します。

1. 本製品前面のディップスイッチ 1, 8 を ON の状態にして、Reset ボタンを押下します。



がスイッチを示します。

7

2. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように表示されます。この状態で設定値の初期化が実行されますので、約 5 秒お待ちください。

```
=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
-----
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
Restore Default Configuration! please wait for 5 seconds...
```

その他様

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

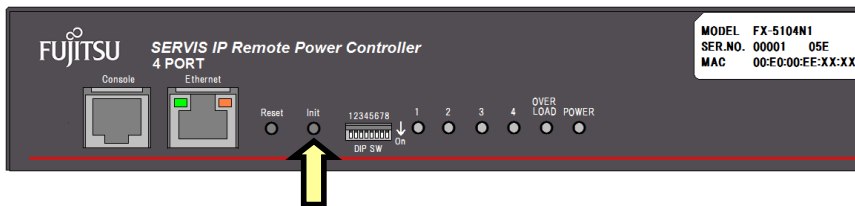
3. 下記のように表示されれば、設定値の初期化は完了です。ディップスイッチを全て OFF の状態に戻して、Reset ボタンを押下してください。

```
Please turn-off DIPSW and Reset!!
```

書式変更: フォント: (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント:  
Courier New, 8 pt

### 7.3. 初期設定モードでの起動

前面の **Init ボタン** の押しながら、本装置の電源を投入することにより、出荷時の初期設定値で本装置を起動させることができます。



1. コンソール端末上のエミュレータ・アプリケーションに下記のように "Loading system by default Configuration..." と表示され、初期設定値でのブートが実行されます。

```

=====
SERVIS IP Remote Power Controller (FX-5104N1)
bootloader V1.030
=====
(C) 2009 FUJITSU COMPONENT LIMITED All right reserved
=====
DIPSW Setting: Auto-Nego
Loading system by default Configuration...
    
```


**書式変更:** フォント : (英)  
Courier New, 8 pt, コンプレックス  
スクリプト用のフォント :  
Courier New, 8 pt

## 7.4. 計測データの復元と補完

### 7.4.1 計測データの復元

本装置は、起動する際に FlashROM 内に計測データが保存されている場合には、そのデータを復元して、「簡易情報の表示」ページに反映させる機能があります。

計測データを FlashROM に保存する方法については、下記をご参照ください。

 参照 4.8 計測データの保存 (102 ページ)

FlashROM に保存することができる計測データは、下記のとおりです。

- 1 秒間隔で計測した電力値[W] 1 時間分のデータ
- 5 秒間隔で計測した電力値[W] 84 時間分のデータ
- 1 時間間隔で計測した電力量[Wh] 31 日分のデータ

この機能により、本装置の電源を OFF にする前の計測値が「簡易情報の表示」ページに復元され、最小値、最大値、総電力量などについては、FlashROM 内に保存されていた値に対して、現在の計測値結果を累積していくことができます。

例えば、本装置の設置場所を移動するために電源を落とす必要がある場合でも、電源を再投入した際に電源を落とす前の計測データを失うことなく、データの蓄積を継続させることができます。


7

その他機能

### 7.4.2 計測データの補完

本装置の起動時において、FlashROM 内の計測データを復元する際、FlashROM 内に保存されている時刻とシステム起動時の時刻に差がある場合、FlashROM 保存時刻から現在時刻までの条件に従い、下記の電力値でコンセントから電力供給が継続して行われていたと仮定してデータを補完する機能があります。

計測データの補完については、「高度な設定」ページで行います。

 参照 4.4.12.3 挙動の設定 (90 ページ)

設定内容により、下記のように動作させることができます。

➤ 補完しない

保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合でも、最後に保存した計測データのままデータを復元します。

➤ 前回計測した電力値で補完

保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合に、最後の計測値が継続したものと仮定して値を補完します。

➤ 電力値を 0 として補完

保存した時刻からシステム起動時の時刻に差がある場合に、その間は電力値 0 として値を補完します。

# MEMO

7

その他機能

168

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT  
取扱説明書

## Chapter 8 - ログ

本製品のログの書式および内容について説明しています。

### 本章の内容

8.1 ログ一覧	170 ページ
8.1.1 本装置の起動時	172 ページ
8.1.2 ネットワーク設定の検出時	172 ページ
8.1.3 DHCP サーバからの IP アドレス取得エラー発生時	173 ページ
8.1.4 ネットワークリンクの検出時	173 ページ
8.1.5 ネットワークリンクの喪失時	174 ページ
8.1.6 パケット異常時	174 ページ
8.1.7 telnet/ssh セッション開始時	175 ページ
8.1.8 telnet/ssh セッション切断時	175 ページ
8.1.9 ログインの成功時	176 ページ
8.1.10 ログインの失敗時	177 ページ
8.1.11 ログアウトの成功時	177 ページ
8.1.12 コンソール接続のタイムアウト時	178 ページ
8.1.13 telnet/ssh 接続のセッションタイムアウト時	178 ページ
8.1.14 Web I/F のセッションタイムアウト時	179 ページ
8.1.15 ユーザーセッションの強制切断時	179 ページ
8.1.16 手動による ON/OFF 操作時	180 ページ
8.1.17 サーキットプロテクタの動作時	180 ページ
8.1.18 スケジュール設定の実行時	181 ページ
8.1.19 スケジュール設定の有効/無効の変更時	182 ページ
8.1.20 内部時刻の変更時	182 ページ
8.1.21 電力値表示のクリア時	183 ページ
8.1.22 計測の一定時間経過時	183 ページ
8.1.23 監視設定の有効/無効の変更時	184 ページ
8.1.24 監視条件の動作実行時	185 ページ
8.1.25 SMTP サーバとの通信エラー発生時	186 ページ
8.1.26 NTP サーバとの通信エラー発生時	186 ページ
8.1.27 設定の内部保存実行時	187 ページ
8.1.28 ログのクリア実行時	187 ページ

# 8

ログ

## 8.1. ログ一覧

本製品は、下記一覧に示すイベントログを内部に保存します。

項	内容	ログ識別
1	本装置の起動時	boot
2	ネットワーク設定 検出時	network settings
3	DHCP サーバからの IP アドレス取得エラー発生時	network settings
4	ネットワークケーブル接続などにより、リンク検出時	network
5	ネットワークケーブル抜去などにより、リンク喪失時	network
6	パケット異常を検出時	network]
7	セッション開始時 (telnet/ssh)	network
8	セッション切断時 (telnet/ssh)	network
9	ログイン成功時 (コンソール/telnet/ssh/Web インターフェース)	user access
10	ログイン失敗時 (コンソール/telnet/ssh)	user access
11	ログアウト成功時 (コンソール/telnet/ssh/Web インターフェース)	user access
12	ローカルコンソール接続のタイムアウト時	user access
13	telnet/ssh 接続セッションタイムアウト時	network
14	Web インターフェースでアイドル・セッション・タイムアウト時	user access
15	ユーザーセッションの強制切断時	user access
16	手動でコンセントの ON/OFF 操作時	outlet
17	サーキットプロテクタ動作時	circuit protector
18	スケジュール設定実行時	schedule
19	スケジュール設定の有効/無効の変更時	schedule
20	内部時刻の変更時	time
21	電力値表示のクリア時	data
22	連続計測経過時 (1 時間/1 日/1 カ月)	data
23	監視設定の有効/無効の変更時	monitor
24	監視条件の動作実行時	monitor
25	SMTP サーバとの通信エラー発生時	monitor
26	NTP サーバとの通信エラー発生時	NTP
27	設定の内部保存実行時	save
28	ログのクリア時	log

## ◆ ログの確認方法

本装置のログは、Web インターフェースにログインし、メニュー選択領域で、ログの表示をクリックすると確認することができます。

The screenshot shows the web interface of the SERVIS IP Remote Power Controller. The browser address bar shows the URL: https://192.168.1.100/cgi-bin/5104n1.cgi/index.html. The page title is "SERVIS IP Remote Power Controller ( NC14008-B070RS : バージョン V1106 )" and it identifies the device as "FX-5104N1@192.168.1.100(00:e0:00:ee:fd:05)".

On the left side, there is a navigation menu with the following items:

- ログアウト
- 情報表示項目
  - 簡易情報の表示
  - 監視機能の表示
  - 基本設定の表示
  - ログの表示
  - 計測値の表示
  - コメントの削除
  - コメントの付与
- 情報編集項目
  - 基本設定の編集
  - 監視機能の編集
  - スケジュールの編集
  - ネットワーク設定の編集
  - SNMP設定の編集
  - SNMPトラップの編集
  - メール設定の編集
  - ユーザーの管理
  - セッションの管理
  - ログ機能の編集
  - 日付と時刻の編集
  - 高度な設定
- 設定の管理
  - 設定の管理
  - ファームウェアの管理
  - ファームウェアの管理

A red arrow points to the "ログの表示" (Log Display) menu item. The main content area shows a list of log entries with columns for date, time, device ID, and event details. At the bottom, there are buttons for "ログのダウンロード" (Download Log) and "ログのクリア" (Clear Log).

8

ログ

次項から、各ログの表示内容について説明します。

### 8.1.1 本装置の起動時

本装置が起動した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "boot:" "System started."

#### ◆ 表示例

- 1月8日、17時00分52秒に装置名 "FX-5104N1" が起動したことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 boot: System started.
```

**書式変更:** フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.2 ネットワーク設定の検出時

本装置起動時にネットワーク設定を検出した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network settings:" [Dip-Sw 設定] [(検出状態)]

#### ◆ 表示例

- ディップスイッチ設定が オートネゴシエーション有効で、ネットワーク検出結果として 100M-Full に設定されたことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network settings: Auto Negotiation (100M FDX).
```

**書式変更:** フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

- ディップスイッチ設定が 100M-Full で、ネットワーク検出結果として 100M-Full に設定されたことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network settings: Manual Setting (100M FDX).
```

**書式変更:** フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

- ディップスイッチ設定と実際のネットワーク検出結果が異なることを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network settings: setting error.
```

**書式変更:** フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt



### 8.1.3 DHCP サーバからの IP アドレス取得エラー発生時

本装置起動時、DHCP サーバからの IP アドレス取得に失敗した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network settings:" "DHCP failed. Using static IP address."

#### ◆ 表示例

- DHCP からの IP アドレス取得に失敗し、設定されていたスタティックな IP アドレスでネットワーク動作することを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network settings: DHCP failed. Using static IP address.
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.4 ネットワークリンクの検出時

ネットワークケーブルの接続などにより、リンクを検出した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "connected"

#### ◆ 表示例

- リンクを検出したことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: connected.
```

8

ログ

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.5 ネットワークリンクの喪失時

ネットワークケーブルの抜去などにより、リンクを喪失した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "disconnected"

#### ◆ 表示例

- リンクを喪失したことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: disconnected
```

書式変更: フォント: (英)  
Arial, (日) MS Pゴシック,  
9 pt, コンプレックス スクリ  
プト用のフォント: Arial, 9  
pt

### 8.1.6 パケット異常時

ネットワークパケットについて、エラー検出の際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "illegal packet from (IP, MAC)"

#### ◆ 表示例

- 受信パケットについて、エラー検出したことを示します。カッコ内の値は、送信元の IP アドレスおよび MAC アドレス情報を示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: illegal packet from (192.168.0.50, xx:xx:xx:xx)
```

書式変更: フォント: (英)  
Arial, (日) MS Pゴシック,  
9 pt, コンプレックス スクリ  
プト用のフォント: Arial, 9  
pt

### 8.1.7 telnet/ssh セッション開始時

telnet あるいは ssh 接続によるアクセスを検出した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

telnet 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session started telnet (IP, MAC)"

ssh 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session started ssh (IP, MAC)"

#### ◆ 表示例

- IP アドレス 192.168.0.50 の端末から、telnet 接続によりセッションが開始されたことを示します。(xx:xx:xx:xx:xx は MAC アドレスを示します)

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: session started telnet (192.168.0.50, xx:xx:xx:xx:xx)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

- IP アドレス 192.168.0.75 の端末から、ssh 接続によりセッションが開始されたことを示します。(xx:xx:xx:xx:xx は MAC アドレスを示します)

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: session started ssh (192.168.0.75, xx:xx:xx:xx:xx)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.8 telnet/ssh セッション切断時

telnet あるいは ssh 接続セッションの切断を検出した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

telnet 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session closed telnet (IP, MAC)"

ssh 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session closed ssh (IP, MAC)"

#### ◆ 表示例

- IP アドレス 192.168.0.50 の端末から、telnet 接続のセッションが切断されたことを示します。(xx:xx:xx:xx:xx は MAC アドレスを示します)

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: session closed telnet (192.168.0.50, xx:xx:xx:xx:xx)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

## 8.1 ログ一覧

- IPアドレス 192.168.0.75の端末から、ssh 接続のセッションが切断されたことを示します。(xx:xx:xx:xx:xx は MAC アドレスを示します)

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: session closed ssh (192.168.0.75, xx:xx:xx:xx:xx)
```

**書式変更:** フォント : (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント : Arial, 9 pt

### 8.1.9 ログインの成功時

ローカルコンソール、telnet 接続、ssh 接続あるいは Web インターフェースからユーザーがログインした際にログ出力します。

#### ◆ 書式

ローカルコンソールの場合:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful login (ユーザー名) local"
```

telnet 接続の場合:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful login (ユーザー名) telnet"
```

ssh 接続の場合:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful login (ユーザー名) ssh"
```

Web インターフェースの場合:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful login (ユーザー名) https"
```

#### ◆ 表示例

- ローカルコンソールから "admin" がログインしたことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: Successful login (admin) local
```

**書式変更:** フォント : (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント : Arial, 9 pt

### 8.1.10 ログインの失敗時

ローカルコンソール、telnet 接続、ssh 接続あるいは Web インターフェースからユーザーが 3 回連続でログインに失敗した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

ローカルコンソールの場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "login failed (ユーザー名) local"

telnet 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "login failed (ユーザー名) telnet"

ssh 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "login failed (ユーザー名) ssh"

Web インターフェースの場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "login failed (ユーザー名) https"

#### ◆ 表示例

➤ ローカルコンソールから "guest" が 3 回ログインに失敗したことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: login failed (guest) local
```

8

書式変更: フォント: (英)  
Arial, (日) MS Pゴシック,  
9 pt, コンプレックス スクリ  
プト用のフォント: Arial, 9  
pt

### 8.1.11 ログアウトの成功時

ローカルコンソール、telnet 接続、ssh 接続あるいは Web インターフェースからユーザーが ログアウトした際にログ出力します。

#### ◆ 書式

ローカルコンソールの場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful logout (ユーザー名) local"

telnet 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful logout (ユーザー名) telnet  
(connected \*m)"

ssh 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful logout (ユーザー名) ssh  
(connected \*m)"

Web インターフェースの場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Successful logout (ユーザー名) https  
(connected \*m)"

### ◆ 表示例

- Web インターフェースから "admin" がログアウトしたことを示します。また、接続時間は、1分であったことを示します (connected 1m 部分)。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: Successful logout (admin) https (connected 1m)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.12 コンソール接続のタイムアウト時

ローカルコンソール接続において、セッションタイムアウトが発生した際にログ出力します。

### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "session timeout local (ユーザー名)"

### ◆ 表示例

- ローカルコンソールに "admin" がログしていたが、セッションタイムアウトが発生したことを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: session timeout local (admin)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.13 telnet/ssh 接続のセッションタイムアウト時

telnet あるいは ssh 接続で本装置にアクセスしており、セッションタイムアウトが発生した際にログ出力します。

### ◆ 書式

telnet 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session timeout telnet (IP, MAC)"

ssh 接続の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "network:" "session timeout ssh (IP, MAC)"

### ◆ 表示例

- telnet 接続でアクセスしていたが、セッションタイムアウトが発生したことを示します。(xx:xx:xx:xx:xx は MAC アドレスを示します)

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 network: session timeout telnet (192.168.0.50, xx:xx:xx:xx:xx)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.14 Web I/F のセッションタイムアウト時

Web インターフェースで本装置にアクセスしており、アイドル・セッション・タイムアウトが発生した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Idle timeout (ユーザー名) https (connected \*m)"

#### ◆ 表示例

- Web インターフェースで admin がアクセスしており、アイドル・セッション・タイムアウトが発生したことを示します。また、接続時間は、1 分であったことを示します (connected 1m 部分)。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: Idle timeout (admin) https (connected 1m)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.15 ユーザーセッションの強制切断時

Web インターフェース ユーザーセッションの強制切断が発生した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "user access:" "Force logout (ユーザー名) https (connected \*m)"

#### ◆ 表示例

- Web インターフェースでアクセスしている guest というアカウントのユーザーセッションの強制切断が発生したことを示します。また、接続時間は、1 分であったことを示します (connected 1m 部分)。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 user access: Force logout (guest) https (connected 1m)
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

8

ログ

## 8.1.16 手動による ON/OFF 操作時

ローカルコンソールあるいは Web インターフェースから、手動によりコンセントの ON/OFF 操作を実行した際にログ出力します。

## ◆ 書式

ローカルコンソール/telnet/ssh 接続からの制御の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "outlet:" [outlet#] [ON/OFF] [(ユーザー名)] local

Web インターフェースからの制御の場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "outlet:" [outlet#] [ON/OFF] [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]

## ◆ 表示例

- Web インターフェースから admin ユーザーがコンセント 1 を手動で ON にしたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 outlet: outlet-1 ON (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

## 8.1.17 サーキットプロテクタの動作時

トリップ値を超えてサーキットブレーカが動作した際にログ出力します。また、補足データとして、トリップ直前の各コンセントの ON/OFF 状態と消費電力値をログ出力します。

## ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "circuit protector:" "Circuit protector tripped."  
 "outlet-1" [直前のコンセント状態: "ON"/"OFF"] [直前の電力値[W]]  
 "outlet-2" [直前のコンセント状態: "ON"/"OFF"] [直前の電力値[W]]  
 "outlet-3" [直前のコンセント状態: "ON"/"OFF"] [直前の電力値[W]]  
 "outlet-4" [直前のコンセント状態: "ON"/"OFF"] [直前の電力値[W]]

## ◆ 表示例

- サーキットプロテクタが動作したことを示します。また、各コンセントの直前の状態、および消費電力値がログ表示されます。

```
Jan 8 17:00:52 FX-5104N1 circuit protector: Circuit protector tripped.  

outlet-1 OFF  

outlet-2 ON xxx[W]  

outlet-3 ON xx[W]  

outlet-4 OFF
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt



## 8.1.18 スケジュール設定の実行時

あらかじめ設定されたスケジュール設定によって、コンセントの ON/OFF 制御が実行された際にログ出力します。

## ◆ 書式

"1 回" のスケジュール設定が実行された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" "Normal schedule setting executed." [設定の年-月-日], [設定の時:分], [outlet-#], [操作内容: "ON"/"OFF"]

"毎日" の繰り返しスケジュール設定が実行された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" "Repeat schedule setting executed." "Everyday", [設定の時:分], [outlet-#], [操作内容: "ON"/"OFF"]

"曜日" の繰り返しスケジュール設定が実行された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" "Repeat schedule setting executed." "Every 曜日", [設定の時:分], [outlet-#], [操作内容: "ON"/"OFF"]

"日付" の繰り返しスケジュール設定が実行された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" "Repeat schedule setting executed." "日 of each month", [設定の時:分], [outlet-#], [操作内容: "ON"/"OFF"]

## ◆ 表示例

- 1 回だけのスケジュール設定 (2009 年 2 月 7 日、9 時 2 分にコンセント 1 を OFF にする) が実行されたことを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 schedule: Normal schedule setting executed. 2009-02-07,09:02, outlet-1, OFF
```

- 毎日のスケジュール設定 (毎日 9 時 14 分にコンセント 1 を ON にする) が実行されたことを示します。

```
Feb 7 09:14:00 FX-5104N1 schedule: Repeat schedule setting executed. Everyday, 09:14, outlet-1, ON
```

8

ログ

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

## 8.1.19 スケジュール設定の有効/無効の変更時

スケジュール設定が 有効から無効へ あるいは、無効から有効へ 変更された際にログ出力します。

## ◆ 書式

有効から無効に変更された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" [Schedule-#] "disabled." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]

無効から有効に変更された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "schedule:" [Schedule-#] "enabled." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]

## ◆ 表示例

- スケジュール設定 1 番が有効に変更されたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 schedule: Schedule-1 enabled. (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

## 8.1.20 内部時刻の変更時

本製品の内部時計の時刻が変更された際にログ出力します。

## ◆ 書式

操作 PC の時刻に合わせた場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "time:" "Manual time set." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号/local]

NTP サーバの時刻に合わせた場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "time:" "Time adjusted with NTP."

## ◆ 表示例

- 本製品の時刻を Local 時刻に合わせたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 time: Manual time set. (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.21 電力値表示のクリア時

計測電力値がクリアされた際にログ出力します。

#### ◆ 書式

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "data:" "Clear measured value of electric power."
[outlet-#] [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]
```

#### ◆ 表示例

- コンセント 1 の計測電力値がクリアされたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 data: Clear measured value of electric power. outlet-1 (admin)
192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英)  
Arial, (日) MS Pゴシック,  
9 pt. コンプレックス スクリ  
プト用のフォント: Arial, 9  
pt

### 8.1.22 計測の一定時間経過時

電力値の計測において、1時間ごと、1日ごと、1ヵ月ごとに、各コンセントの消費電力値をログ出力します。

#### ◆ 書式

1時間ごと(毎時 00 分)の出力:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "data:" "Electric Power per Hour."
[outlet-1] [前の 1 時間(00 分から 59 分)の電力量[Wh]]
[outlet-2] [前の 1 時間(00 分から 59 分)の電力量[Wh]]
[outlet-3] [前の 1 時間(00 分から 59 分)の電力量[Wh]]
[outlet-4] [前の 1 時間(00 分から 59 分)の電力量[Wh]]
```

1日ごと(毎日 00 時 00 分)の出力:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "data:" "Electric Power per Day."
[outlet-1] [前日 1 日の電力量[Wh]]
[outlet-2] [前日 1 日の電力量[Wh]]
[outlet-3] [前日 1 日の電力量[Wh]]
[outlet-4] [前日 1 日の電力量[Wh]]
```

1ヵ月ごと(毎月 1 日、00 時 00 分)の出力:

```
[月 日 時:分:秒] [装置名称] "data:" "Electric Power per Month."
[outlet-1] [前月 1 ヵ月の電力量[Wh]]
[outlet-2] [前月 1 ヵ月の電力量[Wh]]
[outlet-3] [前月 1 ヵ月の電力量[Wh]]
[outlet-4] [前月 1 ヵ月の電力量[Wh]]
```

8

ログ

### ◆ 表示例

- 直近 1 時間の消費電力量を示します。

```
Feb 7 08:00:01 FX-5104N1 data: Electric Power per Hour.
Feb 7 08:00:01 FX-5104N1 data:      outlet-1 11.3[Wh]
Feb 7 08:00:01 FX-5104N1 data:      outlet-2 24.7[Wh]
Feb 7 08:00:01 FX-5104N1 data:      outlet-3 91.7[Wh]
Feb 7 08:00:01 FX-5104N1 data:      outlet-4 0.0[Wh]
```

書式変更

### 8.1.23 監視設定の有効/無効の変更時

監視設定が 有効から無効へ あるいは、無効から有効へ 変更された際にログ出力します。

### ◆ 書式

有効から無効に変更された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "monitor:" [Outlet-#] [Setting-#] "disabled." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]

無効から有効に変更された場合:

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "monitor:" [Outlet-#] [Setting-#] "enabled." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号]

### ◆ 表示例

- コンセント 1 の監視設定 1 番が有効に変更されたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 monitor: Outlet-1 Setting-1 enabled. (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt. コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

## 8.1.24 監視条件の動作実行時

あらかじめ設定された監視条件に一致し、指定の動作が実行された際にログ出力します。

## ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "monitor:" "Monitoring event occurred." [Outlet-#], [Monitoring-#] [動作]

[動作] に対するログ表示内容は、下記のとおり

コンセント OFF : "Outlet OFF"  
 コンセント OFF->ON : "Outlet OFF->ON"  
 LED 状態 緑 : "LED: Green"  
 LED 状態 橙 : "LED: Orange"  
 LED 状態 赤 : "LED: Red"  
 LED 状態 消灯 : "LED: None"  
 メール送信 A : "Mail A send"  
 メール送信 B : "Mail B send"  
 メール送信 C : "Mail C send"  
 メール送信 D : "Mail D send"

## ◆ 表示例

- コンセント 4 の監視条件 2 番に一致し、コンセント OFF の動作が実行されたことを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 monitor: Monitoring event occurred. Outlet-4, Monitoring-#2, Outlet OFF
```

- コンセント 1 の監視条件 3 番に一致し、送信内容 A のメール発信の動作が実行されたことを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 monitor: Monitoring event occurred. Outlet-1, Monitoring-#3, Mail A send
```

8

ログ

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.25 SMTP サーバとの通信エラー発生時

SMTP サーバへのメール送信において、通信エラーなどの理由でメールを送信できなかった際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "monitor:" "Error occurred sending mail A~D."

#### ◆ 表示例

- SMTP サーバへのメール送信(送信内容 A の送信)において、エラーが発生したことを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 monitor: Error occurred sending mail A.
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.26 NTP サーバとの通信エラー発生時

NTP サーバとの時刻同期において、通信エラーなどの理由で時刻を取得できなかった際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "NTP:" "Error occurred synchronizing with NTP server."

#### ◆ 表示例

- NTP サーバとの時刻同期において、通信エラーが発生したことを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 NTP: Error occurred synchronizing with NTP server.
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt, コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.27 設定の内部保存実行時

設定の保存を実行した際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "save:" "Save configuration." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号/local]

#### ◆ 表示例

- Web インターフェースから設定の保存が実行されたことを示します。また、リモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 save: Save configuration. (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt. コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

### 8.1.28 ログのクリア実行時

Web インターフェース上の ログの表示 ページで ログのクリアが実行された際にログ出力します。

#### ◆ 書式

[月 日 時:分:秒] [装置名称] "log:" "Clear log." [(ユーザー名)] [IP:ポート番号/local]

#### ◆ 表示例

- ログのクリアが実行されたことを示します。また、クリアを実行したリモート端末の IP アドレスは、192.168.0.50 で、TCP ポート番号は、2341 であることを示します。

```
Feb 7 09:01:35 FX-5104N1 log: Clear log. (admin) 192.168.0.50:2341
```

書式変更: フォント: (英) Arial, (日) MS Pゴシック, 9 pt. コンプレックス スクリプト用のフォント: Arial, 9 pt

8

ログ

# MEMO

8

ロ  
ケ

188

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT  
取扱説明書



## Chapter 9 - 諸元

本製品の仕様や動作条件について説明しています。

### 本章の内容

---

9.1 本製品の仕様	190 ページ
9.2 コネクタの信号アサイン	191 ページ
9.2.1 Console コネクタ	191 ページ
9.2.2 Ethernet コネクタ	191 ページ
9.3 環境条件	191 ページ

# 9

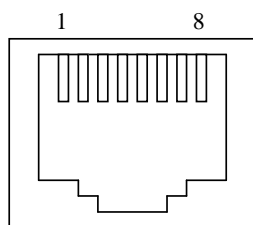
諸  
元

## 9.1. 本製品の仕様

項目		
製品名		SERVIS IP Remote Power Controller 4 PORT
型格		FX-5104N1
CPU	メイン	32bit CPU
	サブ	8bit MCU
メモリ		SDRAM: 64MB FlashROM: 16MB
出力コンセント	数量	4 個
	形状	NEMA5-15R タイプ
	最大出力	合計で 15A
Ethernet	タイプ	100BASE-TX, IEEE802.3 準拠
	オートネゴ	対応 ディップスイッチ設定により、オートネゴシエーションの有効/無効、Full/Half Duplex、100/10Mbps の切替え可能
	利用プロトコル	IP, TCP, UDP, ICMP, DHCP, syslog, HTTP, HTTPS, DNS, SSH v1/2, Telnet, NTP, SNMP v1/2
Console	タイプ	EIA/TIA-232-F 準拠 使用信号: TxD/RxD/RTS/CTS/DTR/DSR フロー制御: <無し> または <ハードウェア>
	通信設定	9600bps, 8bit, Non-Parity, Stop bit 1
コネクタ	Ethernet	RJ45 × 1
	Console	RJ45 × 1
入力電源		AC100V (50/60Hz)
消費電力		10W 以下
外形寸法		215 × 252 × 42 (1U ラックマウントサイズ)
質量		1.9kg (本体のみ)

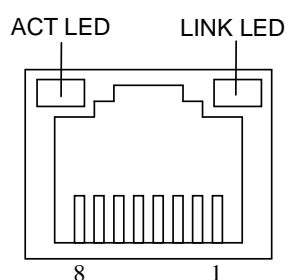
## 9.2. コネクターの信号アサイン

### 9.2.1 Console コネクター



端子番号	信号名	IN/OUT
1	RTS	OUT
2	DTR	OUT
3	TxD	OUT
4	GND	---
5	GND	---
6	RxD	IN
7	DSR	IN
8	CTS	IN

### 9.2.2 Ethernet コネクター



端子番号	信号名	IN/OUT
1	TX+	OUT
2	TX-	OUT
3	RX+	IN
4	---	---
5	---	---
6	RX-	IN
7	---	---
8	---	---

ACT LED(緑色) : ネットワーク接続によるパケットデータ送受信時に点滅します。  
LINK LED(橙色) : Ethernet ポートがリンクを確立している状態で点灯します。

## 9.3. 環境条件

項目	
周囲温度	動作時: 5~35°C 保存時: -10~60°C
周囲湿度	動作時: 10~80%RH (ただし、結露なきこと) 保存時: 5~90%RH (ただし、結露なきこと)
振動	JIS C 0040 (IEC 60068-2-6) 準拠
衝撃	JIS C 0041 (IEC 60068-2-27) 準拠
適合規格	VCCI Class A, 電気用品安全法(PSE)
静電気耐圧	IEC61000-4-2 準拠 接触放電: ±8kV 間接放電: ±8kV 気中放電: ±8kV

# MEMO

9

諸  
元

192

*SERVIS IP Remote Power Controller*  
4 PORT  
取扱説明書

## Chapter 10 - 困ったときは

本製品を使用中に何らかのトラブルが発生した場合の解決方法について説明していません。

### 本章の内容

---

10.1	トラブルシューティング	194 ページ
10.1.1	LED の確認	194 ページ
10.1.2	本製品の電源が入らない	194 ページ
10.1.3	通常起動しない	194 ページ
10.1.4	コンソール接続ができない	195 ページ
10.1.5	Web ページにアクセスできない	195 ページ
10.1.6	出力コンセントが ON にならない	196 ページ
10.1.7	スケジュール機能が動作しない	197 ページ
10.1.8	監視機能が動作しない	199 ページ
10.1.9	ping 送信の応答がない	201 ページ
10.1.10	メール送信ができない	202 ページ
10.1.11	再起動すると設定が元に戻る	203 ページ
10.2	製品サポートについて	204 ページ

# 10

困ったときは

## 10.1.1.1 トラブルシューティング

本製品をご使用の際に発生する可能性のある、トラブル例およびその解決方法を示します。

### 10.1.1 LED の確認

#### ■ 本製品前面あるいは背面の LED を確認しましたか？

トラブルが発生した場合は、まず本製品の前面あるいは背面にある LED の表示をご確認ください。電源やネットワーク関連のトラブルについては、LED で状態を確認することができます。

☞ 参照 [1.2 本体各部の名称と機能 \(3 ページ\)](#)

項	LED	状態	対処方法
1	POWER LED	消灯	電源ケーブルが外れていることが考えられます。 電源ケーブルを確実に挿し込んでください。
2	OVER LOAD LED	赤色点灯	過電流により、サーキットブロッケクタが動作しました。
3	Ethernet LINK LED	消灯	Ethernet ポートのリンクが確立されていません。 ルータやハブなどのネットワーク機器との接続を確認してください。

### 10.1.2 本製品の電源が入らない

#### ■ 電源ケーブルは接続されていますか？

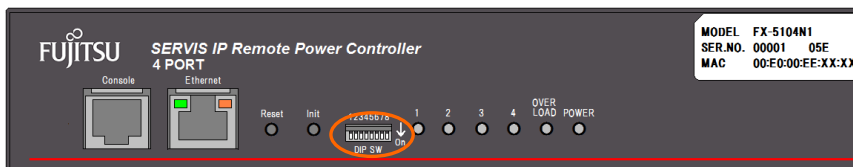
本製品をご利用の場合は、必ず同梱の電源ケーブルをご使用ください。

#### ■ コンセントに電源は供給されていますか？

### 10.1.3 通常起動しない

#### ■ ディップスイッチの設定は正しいですか？

本製品前面のディップスイッチをご確認ください。通常モードで本製品を起動させる場合は、ディップスイッチ 1 が OFF になっている必要があります。



☞ 参照 [1.2.1 装置前面 \(3 ページ\)](#)

## 10.1.4 コンソール接続ができない

## ■ 使用している変換アダプター、ケーブルは正しいですか？

コンソール端末の COM ポートに本製品に添付の変換アダプター (RJ45⇔D-sub9 変換) および市販の Cat5 ケーブルを使用しているかご確認ください。ケーブルは、Cat5 ストレートケーブルをご使用ください。

☞ 参照 [2.3.2 コンソール端末の接続 \(13 ページ\)](#)

## ■ シリアル通信の設定は正しいですか？

エミュレータ・アプリケーション (ハイパーターミナルなど) のシリアル通信が以下のように設定されているかご確認ください。

通信条件	設定値
ボーレート	9600bps
データ長	8bit
パリティ	なし
ストップビット	1bit

## 10.1.5 Web ページにアクセスできない

## ■ UTP ケーブルの長さが制限を越えていませんか？

10BASE-T, 100BASE-TX の場合、ケーブル長は最大 100m と規定されています。ご確認ください。

## ■ ケーブルは正しく接続されていますか？

Cat5 ケーブルが Ethernet ポートに接続されているかご確認ください。ネットワークとのリンクが確立されていれば、本製品前面の Ethernet ポートの Link LED (右側) が橙色に点灯します。

## ■ ネットワーク機器の電源は入っていますか？

電源を投入してください。もしくは、システム管理者にご相談ください。

## ■ IP アドレスは設定されていますか？

コンソール端末で本製品に設定されている IP アドレスをご確認ください。IP アドレスが設定されていない場合は、コンソール端末から設定してください。

☞ 参照 [3.3 ネットワーク設定 \(18 ページ\)](#)

## ■ IP アドレスが重複していませんか？

設定した IP アドレスが既にネットワーク上に存在していないかをご確認ください。IP アドレスが重複している場合は、システム管理者にご相談ください。

10

困ったときは

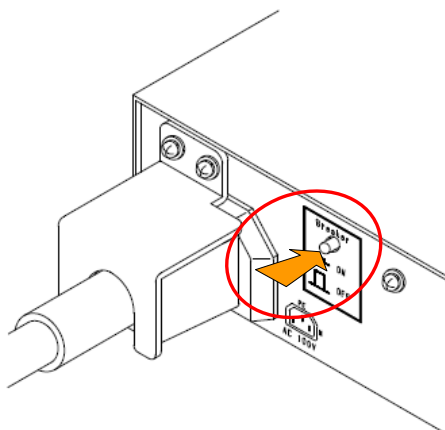
### 10.1.6 出力コンセントが ON にならない

#### ■ サークिटプロテクタがトリップ状態になっていませんか？

本製品背面の復帰用ボタンが飛び出していないか確認してください。

本製品には、15A のサーキットプロテクタが搭載されています。サーキットプロテクタは、コンセントに接続されている負荷の合計が規定の容量を超えると復帰用ボタンが飛び出して回路を遮断します。

復帰用ボタンが飛び出している場合は、原因を調査・対策の上 復帰用ボタンを押し込んで、回路の切断を解除してください。復帰用ボタンは、回路が遮断されてから 10 秒以上経過してから押してください。10 秒以上経過していない場合は、解除されないことがあります。



#### ■ 上記の状況以外で、コンセント出力が ON にならない場合には

コンセントの出力がショートして急激に大電流が流れた場合、サーキットプロテクタ自身が破損することにより(内部で溶断する)回路を遮断し、装置本体の致命的な故障を防ぎます。その際、サーキットプロテクタの復帰用ボタンが飛び出すことはありません。

サーキットプロテクタの復帰用ボタンが飛び出していない状態で、コンセント出力が ON にならない場合は、弊社営業または販売代理店までご連絡ください。



## 10.1.7 スケジュール機能が動作しない

## ■ 登録したスケジュールは有効になっていますか？

”スケジュールの編集” ページにおいて、登録したスケジュールの情報において、”有効”チェックボックスにチェックが入っているかご確認ください。

スケジュールの編集

新しいスケジュールの登録

登録件数： 1

順序	番号	有効	コンセント	スケジュール	詳細
▼	1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	間隔：毎月 14 日 時刻：0時 0分 応 期間：2009年 9月 7(月) ～ 2017年 9月 8(金) 状態：ON	詳細 削除

反映

チェックが入っていない場合は、スケジュール動作は実行されません。チェックを入れて、[反映] ボタンをクリックしてください。

スケジュールの編集

新しいスケジュールの登録

登録件数： 1

順序	番号	有効	コンセント	スケジュール	詳細
▼	1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	間隔：毎月 14 日 時刻：0時 0分 応 期間：2009年 9月 7(月) ～ 2017年 9月 8(金) 状態：ON	詳細 削除

反映

10

困ったときは

### ■ 自動制御が停止の状態ではありませんか？

”各コンセントの操作” ページにおいて、手動でコンセントの ON/OFF 操作を実行すると、スケジュール機能は停止の状態になります。その際、下のように [自動制御の再開] ボタンがアクティブになります。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

スケジュール機能を再開するためには、対象コンセントの [自動制御の再開] ボタンをクリックしてください。[自動制御の再開] ボタンがグレイアウト状態になり、スケジュール機能が再開されます。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

10.1.8 監視機能が動作しない

- 監視条件の設定は有効になっていますか？

”監視機能の編集” ページにおいて、設定した監視条件項目の ”有効” チェックボックスにチェックが入っているかご確認ください。



チェックが入っていない場合は、その条件の監視は実行されません。有効にする条件項目にチェックを入れて、[反映] ボタンをクリックしてください。

10



困ったときは

### ■ 自動制御が停止の状態ではありませんか？

”各コンセントの操作” ページにおいて、手動でコンセントの ON/OFF 操作を実行すると、監視機能は停止の状態になります。

その際、下のように [自動制御の再開] ボタンがアクティブになります。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

監視機能を再開するためには、対象コンセントの [自動制御の再開] ボタンをクリックしてください。[自動制御の再開] ボタンがグレイアウト状態になり、監視機能が再開されます。

■ コンセントの操作

注意: スケジュールが停止しています。

番号	コンセント名称	手動操作			電源
1	outlet1	ON	OFF	自動制御の再開	ON
2	outlet2	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
3	outlet3	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
4	outlet4	ON	OFF	自動制御の再開	OFF
	全コンセント	ON	OFF	自動制御の再開	

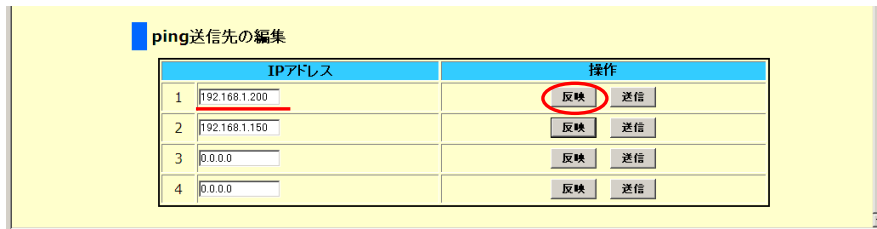
## 10.1.9 ping 送信の応答がない

本装置の ping 送信機能によって ICMP ping パケットの送信を実行した際に、対象装置が正常稼働しているにも関わらず「ping の応答がありませんでした。」と表示される場合は、下記の内容をご確認ください。

■ ping 送信先の IP アドレスの入力後に[反映]ボタンをクリックしましたか？

IP アドレスを入力後に[反映]ボタンをクリックしてください。[反映]ボタンをクリックせずに送信を実行すると、入力前の IP アドレスに対して ping パケットが送信されます。

📖 参照 [4.4.2.2 ping 送信先の編集 \(56 ページ\)](#)



■ デフォルトゲートウェイは設定されていますか？

Web インターフェースの「ネットワーク設定の編集」ページにおいて、デフォルトゲートウェイの値がご使用のネットワークに応じて正しく設定されているかご確認ください。

📖 参照 [4.4.4 ネットワーク設定の編集 \(61 ページ\)](#)

■ ファイアウォール等で ping パケットの送信がブロックされていませんか？

IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、ファイアウォールの設定については、システム管理者にご相談ください。


10

困ったときは

### 10.1.10 メール送信ができない

#### ■ メールサーバの設定は正しいですか？

本製品をご使用のシステム環境における、メールサーバの設定情報につきましては、システム管理者にご確認ください。その上で、Web インターフェースの "メール設定の編集" ページで設定してください。

 参照 [4.4.7.1 メールサーバの設定 \(66 ページ\)](#)

#### ■ 送信先の設定に有効なメールアドレスが指定されていますか？

Web インターフェースの "メール設定の編集" ページの ■送信内容設定 において、指定する送信先のメールアドレスが有効なメールアドレスであるかご確認ください。

 参照 [4.4.7.2 送信内容設定 \(68 ページ\)](#)

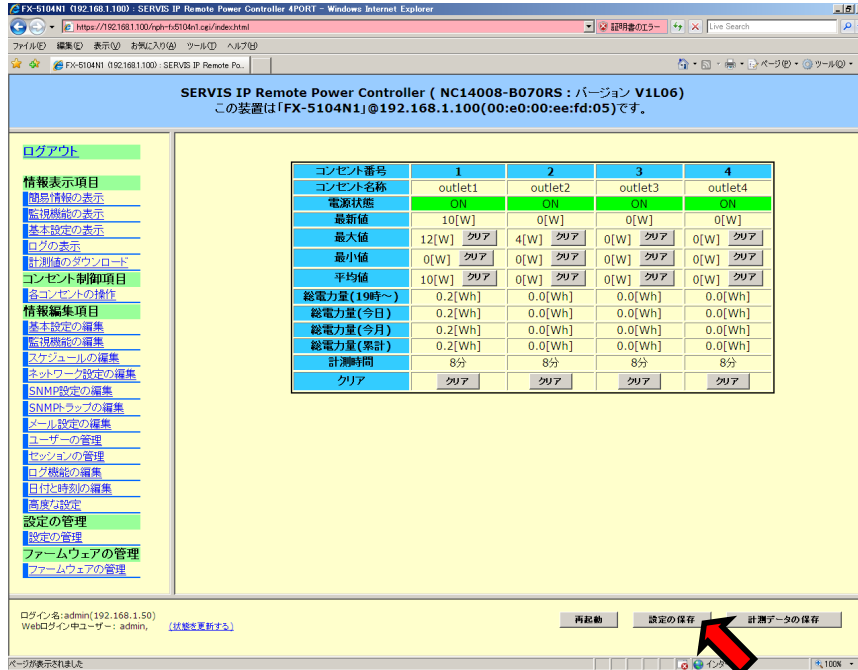
#### ■ 携帯電話の特定のメールアドレスへの送信について

携帯電話の特定のメールアドレスに送信できない場合があります。例えば、"." を ".." などのように連続で使用している。あるいは、"." を @マークの直前で使用しているなどの場合です。詳細については、システム管理者にご相談ください。

10.1.11 再起動すると設定が元に戻る

■ 設定の保存を行いましたか？

各設定ページにおいて、任意の設定を変更した場合、Web インターフェースの右下に表示される [設定の保存] ボタンをクリックしてください。「設定の保存」を行わないと、再起動後に変更内容は失われます。



10

確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



困ったときは

設定の保存が完了するまで約 10 秒かかります。

## 10.2. 製品サポートについて

<製品に関するお問い合わせ>


富士通コンポーネント株式会社  
第二マーケティング部  
TEL: 03-5449-7006, FAX: 03-5449-2628  
e-mail: [promothq@fcl.fujitsu.com](mailto:promothq@fcl.fujitsu.com)  
ホームページ: <http://www.fcl.fujitsu.com/>

<修理・不具合に関するお問い合わせ>

富士通コンポーネント お客様サービス&サポートセンター  
TEL: 0120-810225 \* 携帯, PHS からのご利用になれます。  
e-mail: [servis-center@fcl.fujitsu.com](mailto:servis-center@fcl.fujitsu.com)  
営業時間: 9:00~12:00、13:00~17:00 (土, 日, 祝祭日を除く)



MEMO

  
FUJITSU